

平成27年度

# 事業実績書

(病虫害防除関係)

宮崎県総合農業試験場 病虫害防除・肥料検査課  
(宮崎県病虫害防除・肥料検査センター)

# 目 次

## I 組織と業務

1	名称及び所在地	-----	1
2	管轄区域	-----	1
3	職員及び業務	-----	1
4	業務分掌表	-----	1

## II 事業実績

1	農作物有害動植物発生予察事業		
1)	調査の種類及び方法		
(1)	指定病害虫	-----	3
(2)	指定外病害虫	-----	3
(3)	巡回調査ほ場数	-----	4
2)	主要農作物の病害虫発生概況（平成27年産）		
(1)	早期水稲	-----	5
(2)	普通期水稲	-----	5
(3)	カンショ	-----	5
(4)	大豆	-----	5
(5)	ジャガイモ	-----	5
(6)	かんきつ類（露地栽培）	-----	5
(7)	茶	-----	6
(8)	冬春きゅうり	-----	6
(9)	冬春ピーマン	-----	6
(10)	冬春トマト	-----	6
(11)	いちご	-----	7
(12)	秋冬だいこん	-----	7
3)	水稲、かんきつ病害の初発日ならびにウンカ類の初飛来日		
(1)	水稲、かんきつ病害の初発日		
ア	水稲	-----	8
イ	かんきつ	-----	8
(2)	予察灯におけるウンカ類の初飛来日	-----	8
4)	予察灯（白色60W）における水稲害虫の誘殺状況		
(1)	延岡	-----	9
(2)	佐土原	-----	10
(3)	国富	-----	11
(4)	都城	-----	12
5)	コブノメイガの発消長	-----	13

6)	フェロモントラップによる誘殺状況		
	(1) チャハマキの誘殺状況	-----	1 5
	(2) チャノコカクモンハマキの誘殺状況	-----	1 7
	(3) チャノホソガの誘殺状況	-----	1 9
	(4) ハスモンヨトウの誘殺状況	-----	2 1
	(5) タバコガ・オオタバコガの誘殺状況	-----	2 3
7)	果樹カメムシ類の誘殺状況		
	(1) 予察灯における誘殺状況	-----	2 5
	(2) 合成集合フェロモンによる誘殺状況	-----	2 9
8)	農作物有害動植物の発生及び防除状況		
	(1) 発生経過、発生要因及び防除の概要	-----	3 3
	(2) 発生面積及び防除面積等	-----	3 9
9)	情報（警報、注意報、特殊報、防除情報）		
	(1) 発表情報一覧	-----	4 5
	(2) 情報の内容	-----	4 6
2	病害虫発生予察情報高度化事業		
	ニカメイガの発生消長の変化に伴う防除時期の検討	-----	7 1
	茶園におけるチャトゲコナジラミの発生消長調査	-----	7 3
3	特殊病害虫侵入警戒調査事業		
	1) ミバエ類侵入警戒調査	-----	7 4
	2) アリモドキゾウムシ侵入警戒調査	-----	7 5
	3) イモゾウムシ侵入警戒調査	-----	7 8
	4) ミカンキジラミ侵入警戒調査	-----	7 8
	5) ウメ輪紋ウイルス発生調査	-----	7 8
	6) キウイフルーツかいよう病Psa3系統の緊急全国調査	-----	7 9
4	その他の調査、検定等		
	1) BLASTAMによる葉いもちの発生好適条件の判定と現地の発生状況	-----	8 0
	2) 斑点米カメムシ類の発生状況調査	-----	8 2
	3) ヒノキ毬果口針鞘数による果樹カメムシ類離脱予測	-----	8 3
<b>Ⅲ その他</b>			
1	病害虫防除員の設置状況	-----	8 4
2	巡回調査ほ場の分布図	-----	8 5
3	気象表	-----	8 6

# I 組織と業務

## 1 名称及び所在地

宮崎県総合農業試験場 病虫害防除・肥料検査課

(宮崎県病虫害防除・肥料検査センター)

宮崎県宮崎市佐土原町下那珂5805番地

※平成23年4月に総合農業試験場病虫害防除・肥料検査課として統合されたが、病虫害防除・肥料検査センターとしての名称は存続する。

## 2 管轄区域

県内全域 (9市14町3村)

## 3 職員及び業務

職 員	業 務
課長(所長) 寺 本 敏	1 病虫害の発生予察及び情報の提供に関する事
主 幹 倉 富 文 代	2 病虫害の適正防除指導に関する事
主 査 森 下 勝	3 病虫害の診断及び検定に関する事
〃 久 野 公 子	4 重要病虫害の侵入警戒調査に関する事
主任技師 斎 藤 伸 弘	5 農薬指導取締に関する事
技 師 若 杉 潤 也	6 農薬安全使用指導に関する事
非常勤職員 福 川 利 玄	7 その他植物防疫に関する事
野 中 耕 次	8 肥料の分析及び取締に関する事
(兼務職員)	
土壌環境部	
特研兼副部長 有 簾 隆 男	
主任研究員 小 窪 正 人	
主任研究員 杉 田 浩 一	
専門技師 今 村 幸 久	

## 4 業務分掌表 (病虫害防除関係のみ記載)

主担当	副担当	分 掌 事 務
寺 本	倉 富	1 センターの総括に関する事
倉 富	森 下	1 植物防疫関係事業の総括に関する事 2 病虫害発生予察並びに情報作成総括に関する事 3 農薬取締に関する事 4 各種協議会の総括に関する事



主担当	副担当	分 掌 事 務
森 下	久 野	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 野菜(きゅうり、ピーマンなど)、花きの病害虫発生予察に関すること</li> <li>2 宮崎方式 ICM 普及ばく進事業に関すること</li> <li>3 情報ネットワーク保守・管理に関すること</li> <li>4 病害虫診断対策に関すること</li> <li>5 農薬取締に関すること</li> <li>6 マイナー作物の農薬登録促進の総括に関すること</li> </ol>
久 野	斎 藤	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 野菜(トマト、イチゴなど)の病害虫発生予察に関すること</li> <li>2 宮崎方式 ICM 普及ばく進事業に関すること</li> <li>3 特殊病害虫侵入警戒調査対策事業に関すること</li> <li>4 病害虫診断対策に関すること</li> <li>5 農薬取締に関すること</li> </ol>
斎 藤	若 杉	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 普通作物等の病害虫発生予察に関すること</li> <li>2 宮崎方式 ICM 普及ばく進事業に関すること</li> <li>3 病害虫診断対策に関すること</li> <li>4 農薬取締に関すること</li> <li>5 薬品等の保管管理に関すること</li> <li>6 戦略的イノベーション創造プログラムに関すること</li> </ol>
若 杉	森 下	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 果樹、茶の病害虫発生予察に関すること</li> <li>2 宮崎方式 ICM 普及ばく進事業に関すること</li> <li>3 病害虫診断対策に関すること</li> <li>4 農薬取締に関すること</li> </ol>

## Ⅱ 事 業 実 績

### 1 農作物有害動植物発生予察事業

病虫害発生予察事業は、病虫害の防除を適時で経済的なものにするため、その発生分布・繁殖・気象・農作物の生育状況等を調査し、病虫害による損害の発生を予察し、これに基づく発生予察情報を関係者に提供するものである。

農作物有害動植物発生予察事業実施要綱及び同実施要領に準拠し、予察ほ場の定点調査及び巡回調査を行って病虫害予察方法の確立に努め、発生予報・警報・注意報・特殊報・防除情報を発表して病虫害防除対策の資料にした。

#### 1) 調査の種類及び方法

##### (1) 指定病虫害

区分	対象作物名	有 害 動 植 物 名
普通作物	イネ	いもち病、紋枯病、イネミズゾウムシ、コブノメイガ、セジロウンカ、ツマグロヨコバイ、トビイロウンカ、ニカメイガ、斑点米カメムシ類、ヒメトビウンカ
	サツマイモ	ハスモンヨトウ
	ジャガイモ	疫病、アブラムシ類、ハスモンヨトウ
	ダイズ	吸実性カメムシ類、ハスモンヨトウ
果樹等作物	カンキツ	かいよう病、黒点病、そうか病、カメムシ類、ミカンハダニ
	チャ	炭疽病、カンザワハダニ、ハマキムシ類
野菜	キュウリ	うどんこ病、灰色かび病、べと病、アブラムシ類、ハスモンヨトウ
	ピーマン	うどんこ病、アブラムシ類、ハスモンヨトウ
	トマト	疫病、灰色かび病、アブラムシ類
	ダイコン	アブラムシ類、コナガ
	イチゴ	灰色かび病、アブラムシ類、ハスモンヨトウ

##### (2) 指定外病虫害

区分	対象作物名	有 害 動 植 物 名
普通作物	イネ	萎縮病、稲こうじ病、黄萎病、黄化萎縮病、ごま葉枯病、縞葉枯病、白葉枯病、内穎褐変病、苗立枯病、ばか苗病、もみ枯細菌病、アワヨトウ、イチモンジセセリ、イネゾウムシ、イネヒメハモグリバエ、イネヨトウ、シンガレセンチュウ、スクミリンゴガイ、フタオビコヤガ
	サツマイモ	立枯病、つる割病、紫紋羽病、アブラムシ類、イモキバガ、エビガラズメ、ドウガネブイブイ、ナカジロシタバ
	ジャガイモ	葉巻病、ニジュウヤホシテントウ、ヨトウガ
	ダイズ	さび病、紫斑病、立枯性病害、葉焼病、腐敗豆、べと病、モザイク病、ウコンノメイガ、クキモグリバエ、シロイチモジマダラメイガ、ダイズサヤタマバエ、ハダニ類、フタスジヒメハムシ、マメコガネ、マメシンクイガ、マメヒメサヤムシガ、ミツモンキンウワバ

区分	対象作物名	有 害 動 植 物 名
果樹等作物	カンキツ	青かび病、黄斑病、日やけ炭疽病、にせ黄斑病、灰色かび病、アブラムシ類、吸蛾類、クサギカメムシ、コアオハナムグリ、チャノキイロアザミウマ、ツノロウムシ、ヒメヒラタケシキスイ、ミカンハモグリガ、ヤノネカイガラムシ
	チャ	網もち病、白星病、もち病、輪斑病、クワシロカイガラムシ、チャノキイロアザミウマ、チャノミドリヒメヨコバイ、ツマグロアオカスミカメ
野菜	キュウリ	疫病、褐斑病、キュウリ退緑黄化病、キュウリ黄化えそ病、菌核病、炭疽病、つる枯病、つる割病、斑点細菌病、モザイク病、アザミウマ類、ウリノメイガ、ウリハムシ、コナジラミ類、チャノホコリダニ、ハモグリバエ類
	ピーマン	青枯病、疫病、黄化えそ病、菌核病、軟腐病、灰色かび病、白斑病、斑点細菌病、斑点病、モザイク病、アザミウマ類、黒枯病、コナジラミ類、タバコガ、チャノホコリダニ、ハダニ類
	トマト	青枯病、萎凋病、うどんこ病、菌核病、斑点病、葉かび病、モザイク病、輪紋病、コナジラミ類、トマト黄化葉巻病 (TYLCV)、ハモグリバエ類、すすかび病
	ダイコン	萎黄病、白さび病、炭疽病、軟腐病、べと病、モザイク病、キスジノミハムシ、ダイコンサルハムシ
	イチゴ	萎黄病、うどんこ病、菌核病、じゃのめ病、炭疽病、輪斑病、ハダニ類、コナジラミ類、アザミウマ類

(3) 巡回調査ほ場数

地域 対象作物名	中部	南那珂	北諸県	西諸県	児湯	東臼杵	西臼杵	計
早期水稲	12	6			10	4		32
普通期水稲	4		10	8		10	8	40
ダイズ	2		6					8
サツマイモ		4	4		4			12
ジャガイモ	4		4		2			10
カンキツ	8	4			2	4		18
チャ	2	1	4	2	4		4	17
冬春キュウリ	11	2	2			3		18
冬春ピーマン	4	2			6			12
冬春トマト	3				5	2		10
ダイコン	6					4		10
冬春イチゴ	2		3	4	4			13
計	58	19	33	14	37	27	12	200

## 2) 主要農作物の病害虫発生概況（平成27年産）

### (1) 早期水稻

葉いもちの初発生が5月15日で平年よりも早い発生であった。その後、6月から7月にかけては日照不足や低温・多雨の影響により、イネの生育は軟弱徒長気味に推移し、感染に好適な条件が続いた。このため、葉いもちだけでなく、穂いもちの発生も多く、期間を通して平年に比べてやや多～多の発生で推移した（病害虫予察注意報第2号（H27.6.18））。紋枯病は穂ばらみ期以降に発生がみられたが、その後の上位進展はほとんどみられず、7月中旬の発生量は少発生であった。

スクミリンゴガイの越冬量は本田、水路ともに平年と比べて少なく、5月中旬の分けつ期においても発生量は平年に比べてやや少の発生であった。

斑点米カメムシ類は、6月上旬のイネ科雑草での生息密度は平年並で、7月中旬の本田での発生量は平年に比べて少発生～平年並の発生であった（防除情報第4号（H27.6.2））。

### (2) 普通期水稻

葉いもちの発生が6月中旬から確認され、早期水稻と同様に期間をとおして感染に好適な条件が続いたことから、7月中旬以降は概ねやや多の発生で推移した。出穂後も穂への感染が拡大し、穂いもちについてはやや多～平年並の発生であった。

紋枯病は期間を通して気温が平年並～やや低めで推移していたことから、発病に好適な条件とはならず、少発生で推移した。

セジロウンカは初飛来が5月23日で平年よりも早く、梅雨時期にかけて県内の広い範囲で断続的な飛来があったが、栽培期間中は長雨と低温が続いたことから、発生に好適な条件とはならず、期間をとおして平年並の発生で推移した。

トビロウンカは初飛来が7月2日で平年よりも遅く、梅雨時期の県内への飛来は散發的であった。栽培期間中は長雨と低温が続いたことから、セジロウンカと同様に発生に好適な条件とはならず、期間をとおして平年に比べて少ない発生で推移したが、防除が不十分な一部のほ場では坪枯れの被害が確認された。

コブノメイガは初飛来が6月16日で平年よりも早かったが、普通期地帯で断続的に飛来が確認されたのは8月上旬以降であった。このため、世代交代は例年ほど進まず、栽培期間を通して平年に比べてやや少～平年並の発生であった。

斑点米カメムシ類は概ね平年並の発生であった。

### (3) カンショ

ナカジロシタバやハスモンヨトウの8月中旬の発生量は平年に比べてやや多～多の発生であったが、9月中旬は平年に比べてやや少の発生に減少した。イモキバガの発生量は期間を通じて概ね平年並の発生で推移した。

### (4) 大豆

べと病は9月の着莢期の発生量が平年に比べやや多の発生であり、その後の収穫物調査でも被害粒が平年よりも多く確認された。

ハスモンヨトウは生育前半、吸汁性カメムシは生育後半にやや発生が多くなった。

### (5) ジャガイモ

疫病は4月に曇りや雨の日が多く、感染に好適な条件となったことから、5月中旬の発生量は平年に比べて多発生となった。

### (6) かんきつ類（露地栽培）

そうか病、かいよう病の葉での初発生は平年よりやや早かったが、黒点病は平年より早い発生であった。果実での初発生については、そうか病は平年並、黒点病は平年より早く、かいよう病は平年よりやや遅かった。

ミカンハダニの発生量は越冬成虫は平年並であったが、秋季以降は一部の地域で多発し、発生程度については平年よりやや多の発生となった。

果樹カメムシ類はフェロモントラップでの誘殺数はチャバネアオカメムシについては、7月から9月までは平年より多かった。予察灯での誘殺数もチャバネアオカメムシについては5月、7～9月で平年より多かった。果樹園での飛来は早い地域で5月には確認され、一部ほ場では果実への被害が確認された、他の地域でも平年より早く飛来するケースが多かった。

#### (7) 茶

炭疽病は年間を通して平年並み～やや少ない発生で推移した。輪斑病は7、8月にやや多い発生であったが、その後は平年並の発生となった

チャノコカクモンハマキ、チャハマキ及びチャノホソガについては、一部地域で時期によっては平年より多の発生であった。カンザワハダニについては、秋季は平年よりやや少ない発生で推移したが、それ以外の時期は平年並の発生となった。クワシロカイガラムシは年間を通して平年並～やや少ない発生であった。

#### (8) 冬春きゅうり（栽培期間：平成26年9月～27年6月）

べと病は、発生面積率は栽培期間を通して平年並～やや少であった。発病葉率は、概ね平年並に推移していたが、4月になって急激に増加した。うどんこ病は、定植直後は発生面積率、発病株率ともに平年より多の発生であったが、その後は概ね平年並みに推移した。灰色かび病は平年並、褐斑病は少の発生であった。黄化えそ病は、年内は発生ほ場は少なかったが、年明け以降新規発生が増加したものの、一部ほ場を除いて発病株率は低い値で推移した。

ミナミキイロアザミウマは定植直後から発生が見られたものの、防除等の徹底により年内は発生面積程度ともに平年並～やや少の発生であった。年明け以降は気温の上昇に伴い次第に発生面積が増加、4月には多の発生となった。

コナジラミ類は栽培初期は発生面積率が高かったが、その後減少したことから、全体として平年より少の発生となった。ハスモンヨトウは定植後に発生が散見されたが、その後は発生が確認されなかった。全体として平年並みの発生であった。

#### (9) 冬春ピーマン（栽培期間：平成26年9月～27年6月）

モザイク病の発生は栽培期間を通して見られなかった。斑点病は栽培初期では、発生ほ場が多く、平年より多の発生であったが、その後、病勢は落ち着いたため、全体としては平年並みの発生であった。灰色かび病は栽培期間を通して発生はみられなかった。

ミナミキイロアザミウマは、栽培期間を通して、やや少の発生で推移した。ヒラズハナアザミウマは11月以降発生面積が増加し、栽培後期まで発生面積率は高く推移したことから、全体としては平年よりやや多の発生であった。

#### (10) 冬春トマト（栽培期間：平成26年9月～27年3月）

灰色かび病は2月から発生ほ場が増加し、その後も徐々に発生が拡大したが、栽培期間を通して、平年よりも発生面積は少なく、全体としては少の発生であった。疫病は2月から発生が確認され、全体としては多の発生となった。タバココナジラミ類は年内の発生はやや多かったもののその後は平年並の発生であった。タバココナジラミが媒介する黄化

葉巻病については、年内の発生がやや多かったものの、その後は平年並の発生であった。

(11) いちご（栽培期間：平成26年9月～27年3月）

うどんこ病は年内の発生が多かったため、12月に注意報を発表した。年明け以降は一時病勢が落ち着いたが、春先に気温の上昇とともにふたたび発生程度が高くなった。灰色かび病は栽培期間を通して少の発生であった。炭疽病は栽培初期に一部ほ場で発生がみられたが、その後は平年並みに推移した。

ハダニ類は栽培期間を通して多～やや多の発生で推移し、12月に注意報を発表した。ハスモンヨトウはやや少の発生であった。

(12) 秋冬だいこん（栽培期間：平成26年9月～26年12月）

秋冬だいこんでは萎黄病、べと病は平年並、軟腐病はやや少の発生であった。

コナガはやや少、キスジノミハムシは平年並、ダイコンサルハムシとアブラムシは多の発生であった。

3) 水稲、かんきつ病害の初発日ならびにウンカ類の初飛来日

(1)水稲、かんきつ病害の初発日

ア. 水稲

種 別	早期水稲			普通期水稲		
	本 年	平 年	前 年	本 年	平 年	前 年
葉いもち	5. 15	5. 22	5. 30	6. 10	7. 9	7. 8
穂いもち	7. 6	7. 13	—	9. 7	9. 11	9. 9
紋枯病	6. 25	7. 4	7. 9	8. 24	8. 1	8. 12
白葉枯病	—	—	—	—	—	—

イ. かんきつ

種 別	春 葉			果 実		
	本 年	平 年	前 年	本 年	平 年	前 年
そうか病	4. 28	5. 5	4. 25	6. 15	6. 15	6. 15
黒点病	5. 1	5. 30	5. 22	7. 8	7. 10	7. 8
かいよう病	5. 11	5. 13	6. 2	6. 2	7. 1	6. 2

(2)予察灯におけるウンカ類、ツマグロヨコバイ、コブノメイガの初飛来日

項 目	地区名 年次	延 岡			佐土原			国 富			都 城		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
セジロウンカ		5. 23	6. 12	6. 22	6. 10	6. 9	6. 27	6. 15	6. 20	6. 21	6. 4	6. 12	6. 6
トビイロウンカ		7. 25	7. 5	7. 10	—	7. 26	9. 10	8. 1	7. 11	7. 3	7. 2	7. 7	7. 14
ヒメトビウンカ		6. 10	6. 30	8. 3	8. 20	7. 12	—	7. 8	7. 11	8. 2	5. 14	6. 25	7. 22
ツマグロヨコバイ		5. 19	5. 24	5. 27	5. 20	5. 23	6. 13	5. 14	5. 20	5. 21	5. 19	5. 23	6. 29
コブノメイガ		—	7. 17	—	—	7. 4	—	9. 1	7. 30	—	8. 9	7. 4	7. 5

4) 予察灯（白色60W）における水稻害虫の誘殺状況

(1) 延岡

		ツマグロヨコバイ		セジロウンカ		トビイロウンカ		ヒメトビウンカ	
月	半旬	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値
4	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	計		0	0.0	0	0.0	0	0.0	0
5	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	3	0.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	7	4.1	1	1.0	0	0.0	0	0.5
	6	72	17.7	0	0.4	0	0.0	0	0.0
	計		82	22.5	1	1.4	0	0.0	0
6	1	61	15.7	1	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	47	40.5	91	1.1	0	0.0	0	0.0
	3	19	25.1	7	0.9	0	0.0	0	0.1
	4	5	27.5	4	7.8	0	1.2	0	0.7
	5	1	5.8	7	14.5	0	0.2	4	0.5
	6	0	2.3	1	2.2	0	0.2	0	0.2
	計		133	116.9	111	26.5	0	1.6	4
7	1	0	1.0	7	28.9	0	1.1	0	0.1
	2	0	1.6	1	21.6	0	0.5	1	0.4
	3	0	8.1	0	16.0	0	2.2	0	0.7
	4	3	35.1	0	11.7	0	0.2	0	0.4
	5	5	45.0	0	26.7	2	0.8	0	0.1
	6	30	66.5	6	4.4	1	0.0	0	0.8
	計		38	152.9	14	109.3	3	4.8	1
8	1	7	14.4	2	3.7	0	0.6	0	0.4
	2	5	12.6	0	3.9	0	0.5	1	0.4
	3	1	26.4	0	4.0	0	1.2	0	0.8
	4	1	54.1	0	51.5	0	1.5	0	1.8
	5	13	52.4	16	12.7	0	3.2	0	1.1
	6	0	20.1	0	19.1	0	13.6	0	1.3
	計		27	180.0	18	93.6	0	20.3	1
9	1	5	18.8	0	14.1	0	3.7	0	2.1
	2	3	25.2	47	7.6	48	26.4	0	1.6
	3	1	7.3	3	6.2	0	15.8	0	0.7
	4	1	4.3	2	16.2	1	10.5	0	0.7
	5	2	13.4	9	2.6	2	8.6	1	0.3
	6	2	1.4	29	4.4	2	19.1	0	2.4
	計		14	70.4	90	51.1	53	84.1	1
10	1	0	3.0	5	2.1	6	44.4	0	3.5
	2	0	6.1	1	0.8	0	52.0	0	1.3
	3	0	1.5	0	1.3	0	17.0	0	0.3
	4	0	0.2	0	0.1	0	2.8	0	0.0
	5	0	0.0	0	0.4	0	4.6	0	0.1
	6	0	0.0	0	0.0	0	7.2	0	0.1
	計		0	10.8	6	4.7	6	128.0	0



## (2) 佐土原

		ツマグロヨコバイ		セジロウンカ		トビイロウンカ		ヒメトビウンカ	
月	半旬	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値
4	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.1
	3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	計		0	0.1	0	0.0	0	0.0	0
5	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	1	0.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	1.4	0	1.5	0	0.0	0	0.0
	6	0	2.6	0	1.6	0	0.0	0	0.0
	計		1	4.7	0	3.1	0	0.0	0
6	1	1	2.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	1	18.3	2	0.6	0	0.0	0	0.2
	3	0	5.2	1	0.1	0	0.0	0	0.2
	4	0	12.1	0	4.5	0	0.0	0	0.2
	5	0	5.2	5	5.8	0	0.3	0	0.0
	6	0	8.3	24	5.6	0	0.1	0	0.0
	計		2	51.9	32	16.6	0	0.4	0
7	1	0	6.2	2	39.0	0	0.8	0	0.2
	2	0	7.9	3	22.5	0	0.4	0	0.0
	3	1	21.4	2	4.1	0	0.4	0	0.2
	4	1	56.9	0	1.8	0	0.2	0	0.2
	5	3	95.2	0	23.2	0	0.9	0	0.0
	6	8	101.8	0	9.2	0	0.0	0	0.5
	計		13	289.4	7	99.8	0	2.7	0
8	1	9	92.7	0	3.2	0	0.2	0	0.3
	2	25	30.7	1	1.3	0	0.0	0	0.2
	3	40	64.3	2	6.8	0	0.3	0	0.3
	4	12	62.3	0	1.2	0	0.2	0	0.1
	5	1	23.0	0	5.0	0	1.1	0	0.4
	6	3	158.5	3	10.3	0	2.0	0	0.4
	計		90	431.5	6	27.8	0	3.8	0
9	1	3	100.5	1	3.7	0	1.3	0	0.1
	2	0	38.2	0	4.2	0	9.3	0	0.2
	3	2	26.4	0	9.4	0	2.1	0	0.0
	4	0	9.2	0	1.8	0	2.8	0	0.0
	5	0	8.7	3	1.1	0	1.6	0	0.5
	6	0	1.5	2	1.5	0	1.9	0	0.4
	計		5	184.5	6	21.7	0	18.9	0
10	1	0	9.8	0	1.8	0	47.8	0	0.2
	2	0	13.4	0	1.6	0	75.5	0	0.1
	3	0	11.6	0	1.7	0	70.7	0	0.0
	4	0	5.5	1	0.4	0	10.8	0	0.0
	5	0	1.4	0	0.6	0	8.2	0	0.0
	6	0	0.1	0	0.0	0	0.9	0	0.0
	計		0	41.8	1	6.1	0	213.9	0

## (3) 国富

		ツマグロヨコバイ		セジロウンカ		トビイロウンカ		ヒメトビウンカ	
月	半旬	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値
4	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	計		0	0.0	0	0.0	0	0.0	0
5	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	1	0.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	14	2.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	9	7.8	0	0.2	0	0.0	0	0.2
	6	90	21.3	0	0.0	0	0.0	0	0.1
	計		114	31.5	0	0.2	0	0.0	0
6	1	13	39.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	36	83.6	0	0.0	0	0.0	0	0.1
	3	16	38.0	1	0.1	0	0.0	0	0.0
	4	15	32.9	2	5.3	0	0.5	0	0.0
	5	1	21.9	0	26.0	0	0.1	0	0.2
	6	2	4.5	1	3.8	0	0.2	0	0.3
	計		83	219.9	4	35.2	0	0.8	0
7	1	0	5.9	16	80.9	0	2.1	0	0.4
	2	13	8.1	9	91.6	0	0.5	4	0.3
	3	10	13.5	0	15.9	0	1.2	0	0.4
	4	7	22.9	0	3.4	0	0.1	0	0.0
	5	12	21.0	5	6.5	0	0.2	1	0.4
	6	27	28.8	1	6.3	0	0.3	0	0.3
	計		69	192.3	31	204.7	0	4.1	5
8	1	25	33.1	2	2.0	1	0.4	0	4.0
	2	50	32.4	2	1.6	0	0.2	1	0.8
	3	59	83.2	1	4.6	0	1.1	1	0.5
	4	28	53.7	1	21.9	0	1.1	0	0.6
	5	19	32.9	0	5.9	0	8.2	0	1.1
	6	14	15.1	8	12.4	1	10.3	0	2.2
	計		195	250.4	14	48.4	2	21.3	2
9	1	2	5.6	2	8.2	1	5.1	0	0.4
	2	10	8.7	0	3.8	8	9.4	0	0.9
	3	4	4.6	1	6.6	0	11.9	0	0.5
	4	5	6.6	0	1.1	0	2.7	0	0.1
	5	1	5.0	0	1.7	0	3.1	0	0.1
	6	2	3.0	1	0.8	1	4.4	0	0.7
	計		24	53.3	4	21.7	10	36.7	0
10	1	1	5.5	1	0.8	1	6.5	0	1.0
	2	0	3.9	0	0.4	1	2.8	0	0.3
	3	0	2.0	0	1.1	0	20.0	0	5.3
	4	0	0.5	0	0.1	0	2.3	0	0.0
	5	0	0.1	0	0.4	0	7.6	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.1	0	2.6	0	0.0
	計		1	11.2	1	2.9	2	41.9	0

## (4) 都城

		ツマグロヨコバイ		セジロウンカ		トビイロウンカ		ヒメトビウンカ	
月	半月	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値
4	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	計		0	0.2	0	0.0	0	0.0	0
5	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1
	3	0	0.1	0	0.0	0	0.0	1	0.0
	4	2	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	2	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0
	6	21	2.6	0	0.4	0	0.0	0	0.0
	計		25	2.4	0	0.4	0	0.1	1
6	1	21	4.1	1	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	32	19.5	133	1.0	0	0.0	0	0.0
	3	29	14.7	17	7.6	0	0.3	0	0.1
	4	4	7.7	21	24.9	0	0.1	0	0.6
	5	3	6.4	3	94.9	0	8.2	0	0.5
	6	3	6.7	4	62.1	0	1.8	0	1.1
	計		92	59.1	179	190.5	0	10.4	0
7	1	0	2.7	41	699.0	8	10.5	0	1.4
	2	3	7.8	1	619.2	1	3.6	0	1.3
	3	6	15.4	1	55.8	0	2.0	0	0.6
	4	34	23.7	0	13.0	0	0.6	0	0.1
	5	40	80.1	2	26.5	0	1.2	4	0.9
	6	111	131.1	12	40.9	5	3.2	14	2.2
	計		194	260.8	57	1454.4	14	21.1	18
8	1	122	76.9	2	69.2	1	2.1	0	1.7
	2	129	158.6	1	9.0	1	0.5	0	0.6
	3	198	157.9	2	7.5	0	1.9	0	0.4
	4	268	75.1	41	45.0	0	1.1	0	0.4
	5	194	75.1	8	14.5	0	6.5	0	0.6
	6	154	44.8	36	17.8	2	23.7	0	0.5
	計		1065	639.7	90	164.2	4	35.8	0
9	1	200	33.9	20	11.4	27	12.4	1	0.6
	2	182	23.2	27	3.8	167	49.9	0	1.1
	3	4	13.6	5	4.0	1	29.9	0	1.0
	4	14	15.1	2	7.7	0	8.4	0	6.6
	5	41	12.1	10	5.4	2	18.6	1	1.2
	6	1	8.9	3	3.0	1	38.8	0	0.2
	計		442	106.8	67	35.3	198	158.0	2
10	1	0	10.1	2	2.5	7	652.6	0	1.1
	2	0	5.2	0	3.2	6	284.8	0	1.0
	3	0	4.5	0	0.8	1	38.5	0	0.2
	4	0	0.6	0	0.8	0	5.7	0	0.2
	5	0	0.1	0	0.3	0	30.0	0	0.0
	6	0	0.3	0	0.0	0	31.2	0	0.0
	計		0	20.8	2	7.6	14	1042.8	0

5) コブノメイガの発生消長

(1) ライトトラップ(光源：20W補虫用蛍光灯)

	6 月			7 月			8 月		
	都城	えびの	佐土原	都城	えびの	佐土原	都城	えびの	佐土原
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	4	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
半旬計	0	0	0	4	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
半旬計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12	0	0	0	0	0	0	0	0	0
13	0	0	0	0	0	0	12	0	0
14	0	0	0	0	0	0	14	0	0
15	0	0	0	0	0	0	7	0	0
半旬計	0	0	0	0	0	0	33	0	0
16	0	0	0	0	0	0	8	0	0
17	0	0	0	0	0	0	6	0	0
18	0	0	0	0	0	0	4	0	0
19	0	0	0	0	0	0	2	0	0
20	0	0	0	0	0	0	0	0	0
半旬計	0	0	0	0	0	0	20	0	0
21	0	0	0	0	0	0	/	/	0
22	0	0	0	0	0	0	/	/	0
23	0	0	0	0	0	0	/	/	0
24	0	0	0	0	0	0	/	/	0
25	0	0	0	0	0	0	/	/	0
半旬計	0	0	0	0	0	0	/	/	0
26	0	0	0	0	0	0	/	/	0
27	0	0	0	0	0	0	/	/	0
28	0	0	0	0	0	0	/	/	0
29	0	0	0	0	0	0	/	/	0
30	0	0	0	0	0	0	/	/	0
31	/	/	/	0	0	0	/	/	0
半旬計	0	0	0	0	0	0	/	/	0
月計	0	0	0	4	0	0	53	0	0

5) コブノメイガの発生消長  
 (2) フェロモントラップ

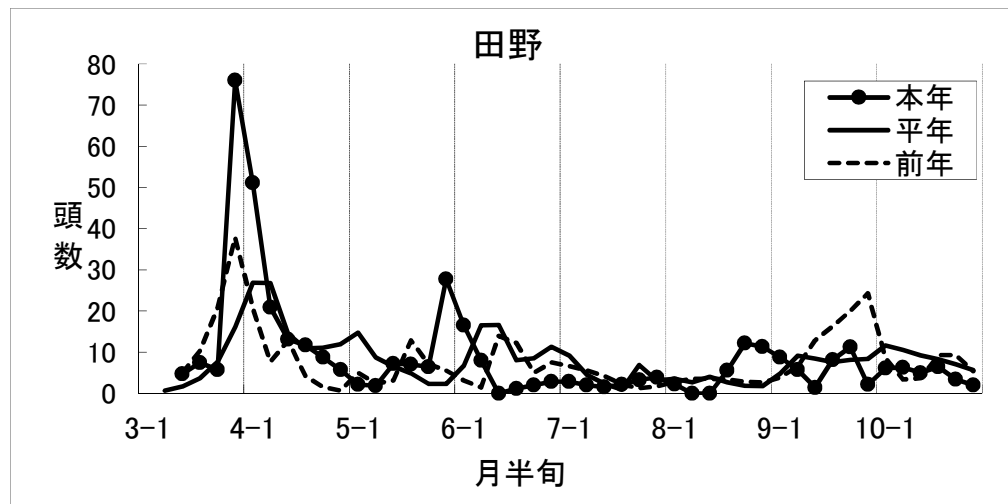
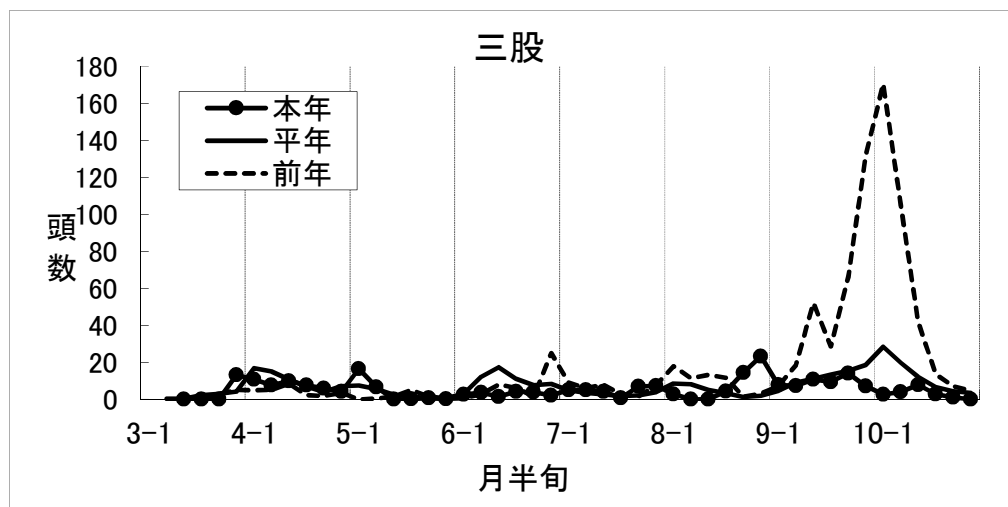
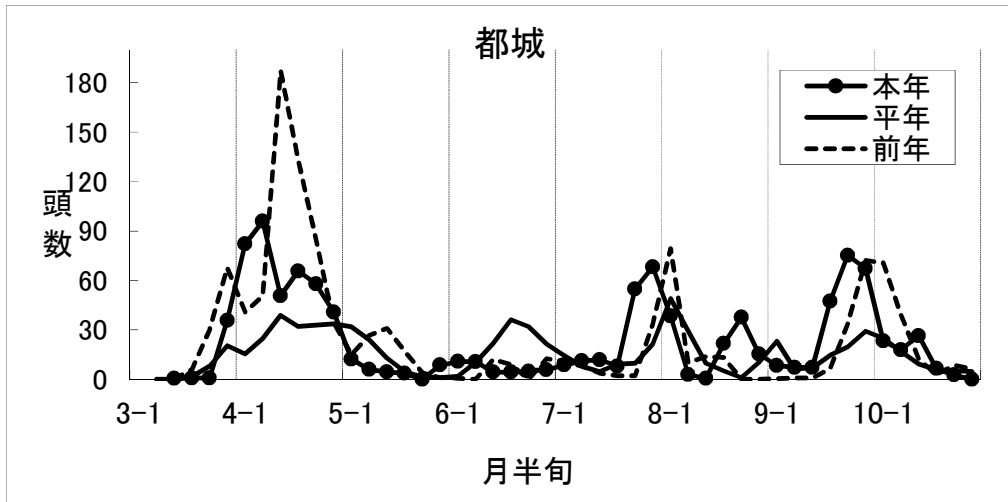
	6 月			7 月			8 月		
	都城	えびの	佐土原	都城	えびの	佐土原	都城	えびの	佐土原
1	0	0	0	0	0	1	0	1	0
2	0	0	0	0	0	4	0	0	32
3	0	0	0	0	0	1	0	0	8
4	0	0	0	0	0	0	0	10	5
5	0	0	0	0	0	2	0	1	10
半旬計	0	0	0	0	0	8	0	12	55
6	0	0	0	0	0	3	0	3	17
7	0	0	0	0	0	3	0	8	0
8	0	0	0	0	0	2	8	3	0
9	0	0	0	0	0	3	6	5	26
10	0	0	0	0	0	1	8	8	11
半旬計	0	0	0	0	0	12	22	27	54
11	0	0	0	0	0	0	6	0	7
12	0	0	0	0	0	0	5	6	0
13	0	0	0	0	0	0	6	2	14
14	0	0	0	0	0	1	1	0	0
15	0	0	0	0	0	1	4	3	0
半旬計	0	0	0	0	0	2	22	11	21
16	0	0	3	0	0	3	2	0	21
17	0	0	2	0	2	1	0	0	9
18	0	0	6	0	1	0	0	0	7
19	0	0	0	0	0	0	1	1	5
20	0	0	0	0	0	13	0	0	6
半旬計	0	0	11	0	3	17	3	1	48
21	0	0	0	0	0	4	/	/	0
22	0	0	0	0	2	2	/	/	0
23	0	0	0	0	5	18	/	/	18
24	0	0	0	0	0	6	/	/	0
25	0	0	0	0	0	7	/	/	0
半旬計	0	0	0	0	7	37	/	/	18
26	0	0	0	0	0	43	/	/	10
27	0	0	0	0	1	12	/	/	1
28	0	0	0	0	0	21	/	/	0
29	0	1	0	0	0	25	/	/	0
30	0	0	1	0	0	15	/	/	41
31	/	/	/	0	0	0	/	/	5
半旬計	0	1	1	0	1	73	/	/	57
月計	0	1	12	0	11	149	47	51	253

6) フェロモントラップによる誘殺状況

(1) チャハマキの誘殺状況

月	半旬	都 城			三 股			田 野		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
3	1	0	0		0					
	2	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	3	0	0	0	0	0	0	5	2	5
	4	1	2	6	0	2	1	7	4	10
	5	1	8	30	0	3	3	6	8	21
	6	36	20	68	13	4	5	76	16	38
4	1	82	15	41	11	17	5	51	27	21
	2	96	25	51	8	15	5	21	27	8
	3	51	39	187	10	11	9	13	15	13
	4	66	32	133	8	7	2	12	11	4
	5	58	33	85	6	4	2	9	11	2
	6	41	34	34	4	7	4	6	12	1
5	1	12	32	15	16	8	0	2	15	5
	2	6	24	27	7	6	0	2	9	2
	3	4	13	31	0	3	2	7	7	3
	4	4	5	17	0	2	5	7	5	13
	5	0	2	4	1	1	2	6	2	7
	6	9	1	1	0	1	0	28	2	6
6	1	11	2	1	3	3	1	17	7	3
	2	11	10	0	4	12	3	8	17	1
	3	4	22	12	1	17	8	0	17	14
	4	4	36	9	4	11	6	1	8	12
	5	5	32	0	4	8	1	2	9	5
	6	6	22	13	2	8	25	3	11	8
7	1	9	15	11	5	5	9	3	9	7
	2	11	8	8	5	4	6	2	5	6
	3	12	5	4	4	3	8	2	2	4
	4	8	9	2	1	2	3	2	1	2
	5	55	10	2	7	2	2	3	7	1
	6	68	21	33	7	4	8	4	3	2
8	1	38	49	79	3	9	18	2	4	3
	2	3	29	10	0	8	11	0	3	4
	3	1	10	14	0	5	13	0	4	4
	4	22	5	13	4	3	12	6	3	3
	5	38	1	0	14	1	1	12	2	3
	6	15	10	0	23	2	3	11	2	3
9	1	8	23	0	8	4	7	9	5	4
	2	7	6	1	7	9	18	6	9	7
	3	7	7	1	11	11	52	1	8	13
	4	47	14	6	9	13	29	8	8	16
	5	75	20	34	14	16	66	11	8	20
	6	67	29	72	7	19	131	2	8	24
10	1	23	25	71	3	28	171	6	12	9
	2	18	17	39	4	20	105	6	11	3
	3	26	9	12	8	12	42	5	9	4
	4	6	6	3	3	7	14	6	8	9
	5	3	5	9	1	4	7	3	7	9
	6	0	5	6	0	4	5	2	6	5

平成27年フェロモントラップ誘殺数(チャハマキ)

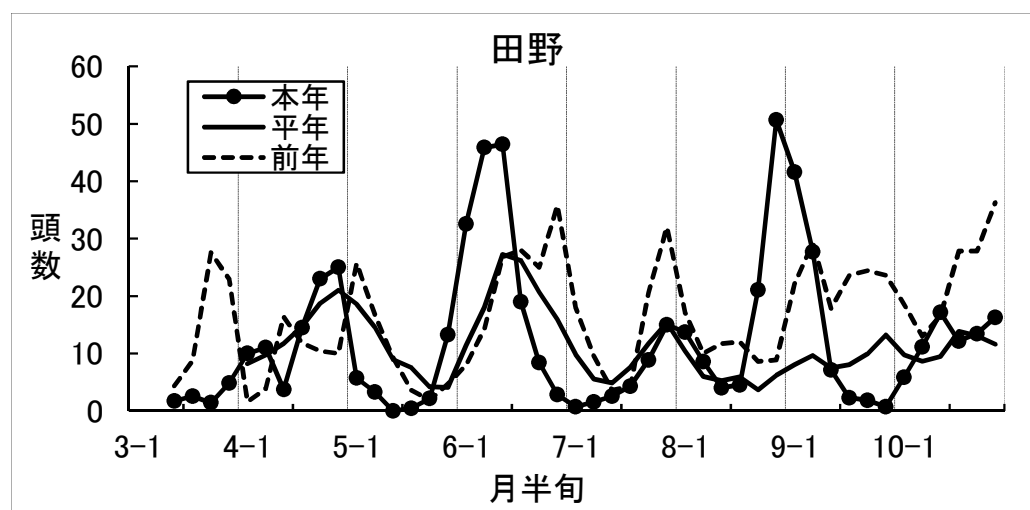
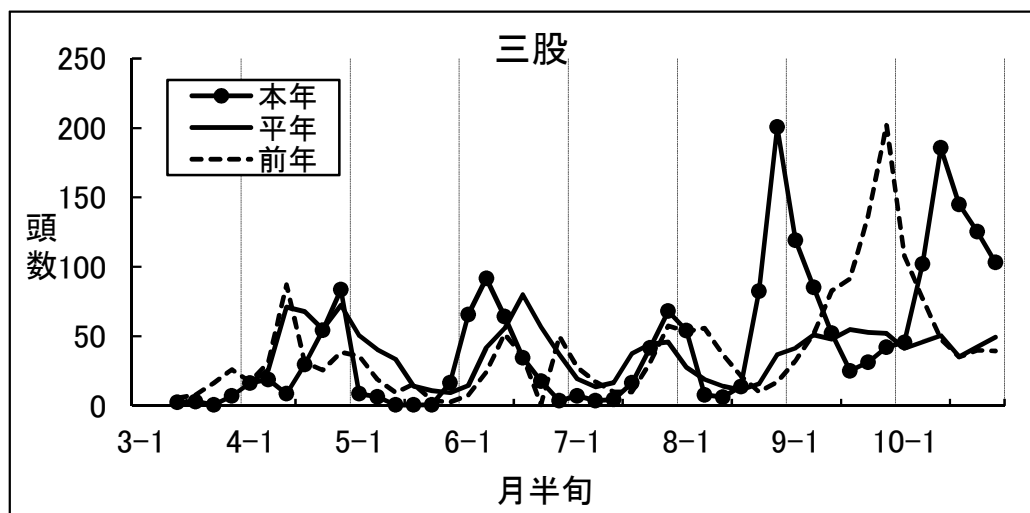
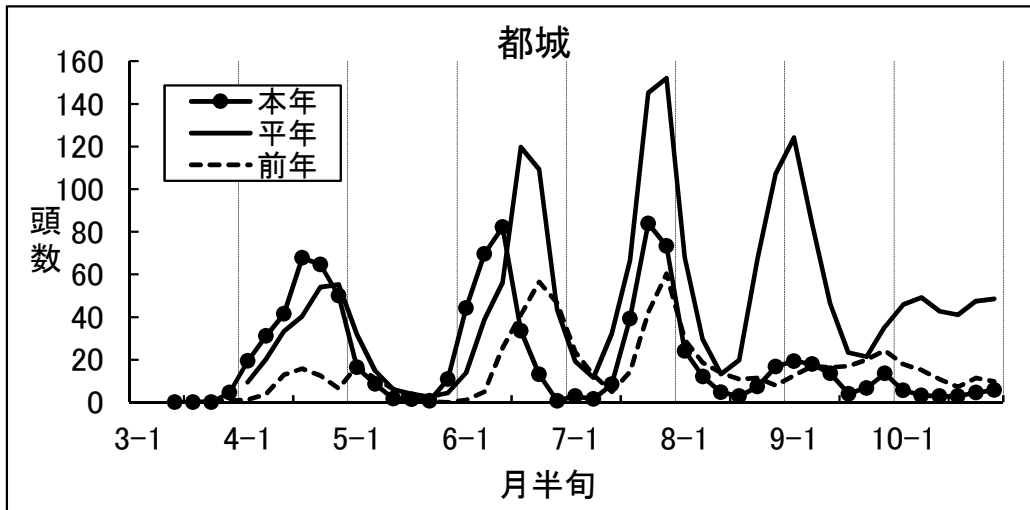


## (2) チャノココクモンハマキの誘殺状況

月	半旬	都 城			三 股			田 野		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
3	1									
	2	0	0	0	1	1	0	0	1	0
	3	0	0	0	2	3	4	2	1	0
	4	0	0	0	3	4	6	3	2	0
	5	0	0	0	1	6	6	1	7	1
	6	5	0	1	7	11	16	5	7	3
4	1	19	10	1	16	17	17	10	8	2
	2	31	20	4	19	26	31	11	10	4
	3	41	33	13	9	71	87	4	12	16
	4	68	40	16	30	68	31	15	15	12
	5	65	54	12	54	55	26	23	19	10
	6	50	55	6	84	72	39	25	21	10
5	1	16	32	17	9	51	36	6	19	26
	2	9	15	11	6	40	19	3	15	17
	3	2	6	6	1	33	9	0	9	9
	4	1	4	2	1	14	16	0	8	4
	5	1	3	0	1	11	4	2	4	2
	6	11	4	0	17	9	3	13	4	5
6	1	44	14	1	66	15	8	33	11	8
	2	70	39	5	92	42	24	46	18	14
	3	82	56	26	64	56	52	46	27	27
	4	34	120	41	35	80	35	19	26	28
	5	13	109	56	18	57	1	8	21	25
	6	1	44	47	4	37	50	3	16	36
7	1	3	19	24	7	19	28	1	10	18
	2	2	12	13	4	14	17	2	6	10
	3	8	32	5	4	17	10	3	5	4
	4	39	67	14	16	38	10	4	8	4
	5	84	145	42	42	44	31	9	12	21
	6	73	152	60	68	46	57	15	15	32
8	1	24	68	29	54	28	54	14	10	17
	2	12	29	19	8	19	56	9	6	10
	3	5	13	14	6	14	37	4	5	12
	4	3	20	11	14	11	21	5	6	12
	5	7	67	11	82	16	10	21	4	9
	6	17	107	8	201	37	17	51	6	9
9	1	19	124	13	119	42	33	42	8	22
	2	18	84	17	85	51	52	28	10	29
	3	14	46	16	52	48	83	7	7	18
	4	4	23	17	25	55	91	2	8	24
	5	7	21	20	31	53	137	2	10	24
	6	14	35	24	42	52	202	1	13	24
10	1	6	46	18	46	41	108	6	10	19
	2	3	49	15	102	46	77	11	9	13
	3	3	43	11	186	51	48	17	10	17
	4	3	41	7	145	35	35	12	14	28
	5	5	48	11	125	42	40	13	13	28
	6	6	48	10	103	49	39	16	12	36



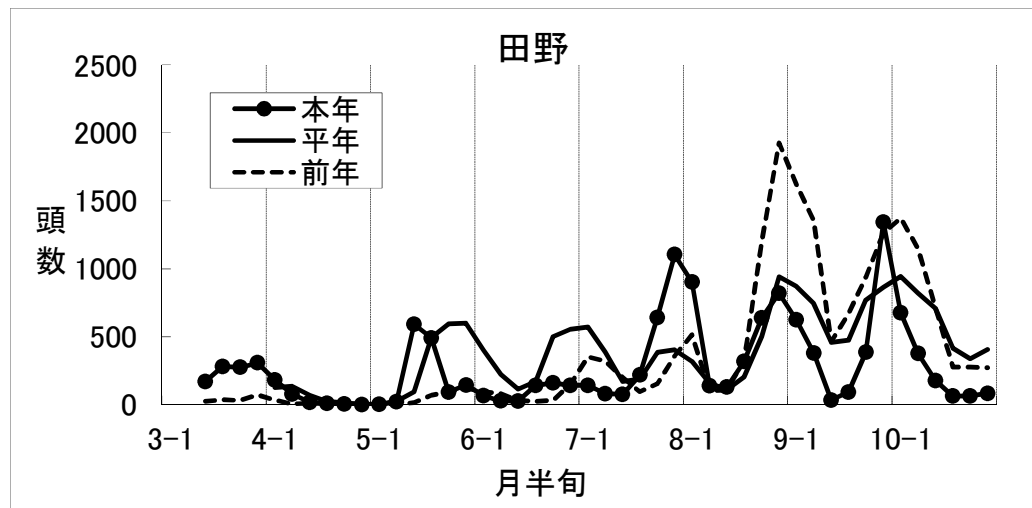
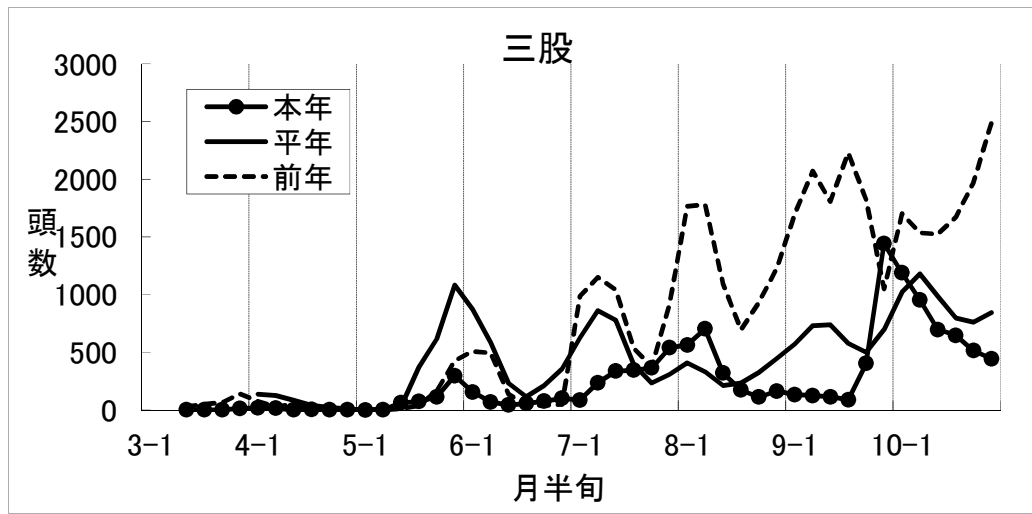
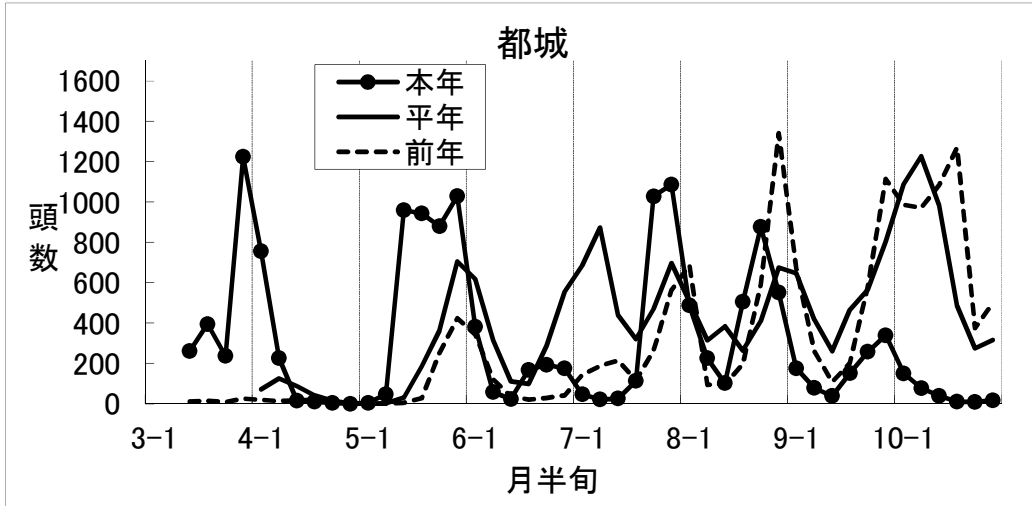
平成27年フェロモントラップ誘殺数(チャノコカクモンハマキ)



## (3) チャノホソガの誘殺状況

月	半旬	都 城			三 股			田 野		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
3	1									
	2	0	5	5	0	1	1	2	2	2
	3	261	8	12	0	18	28	170	166	24
	4	395	27	15	1	85	50	281	89	37
	5	237	17	9	1	116	65	274	51	31
	6	1,225	20	26	14	217	138	308	65	70
4	1	757	72	20	18	136	75	182	125	34
	2	227	126	13	14	125	27	78	136	5
	3	16	88	18	1	83	51	16	69	11
	4	10	43	20	4	39	20	10	25	8
	5	5	15	13	3	22	8	4	12	5
	6	0	3	1	1	5	2	1	2	1
5	1	5	1	1	0	2	1	2	1	0
	2	48	3	1	2	3	1	20	25	2
	3	960	30	6	63	28	8	590	94	16
	4	944	187	28	73	369	39	490	493	68
	5	880	362	251	113	617	168	92	595	95
	6	1,030	705	424	296	1,083	427	143	599	120
6	1	382	618	344	155	872	509	67	400	95
	2	58	315	121	70	582	496	27	223	80
	3	24	112	37	42	230	135	26	114	32
	4	168	99	21	56	115	43	142	171	24
	5	193	287	29	76	213	39	159	500	31
	6	176	554	43	101	355	47	141	554	150
7	1	47	684	144	86	624	986	142	570	352
	2	21	873	188	235	860	1,149	81	386	322
	3	26	441	215	337	779	1,040	76	171	201
	4	114	321	117	346	394	536	218	187	94
	5	1,028	471	264	365	233	375	641	384	153
	6	1,087	698	565	539	308	919	1,104	403	359
8	1	489	507	687	563	408	1,764	902	319	514
	2	226	315	95	703	330	1,779	139	158	102
	3	102	386	98	320	210	1,093	129	112	106
	4	505	265	198	173	234	695	319	206	327
	5	877	411	593	113	326	932	638	503	1,200
	6	551	675	1,341	163	448	1,229	820	942	1,926
9	1	176	646	669	132	572	1,699	625	869	1,621
	2	78	418	261	124	732	2,070	379	745	1,356
	3	39	262	108	113	739	1,807	34	458	466
	4	152	466	203	89	578	2,230	91	474	670
	5	258	566	582	403	500	1,821	385	772	939
	6	340	804	1,114	1,443	697	1,050	1,343	865	1,264
10	1	151	1,088	986	1,189	1,023	1,701	677	943	1,371
	2	78	1,227	972	953	1,180	1,536	377	821	1,149
	3	40	985	1,085	696	986	1,524	177	707	711
	4	11	486	1,270	646	797	1,671	63	415	276
	5	10	275	376	515	761	1,971	63	337	276
	6	17	316	498	443	844	2,489	83	405	271

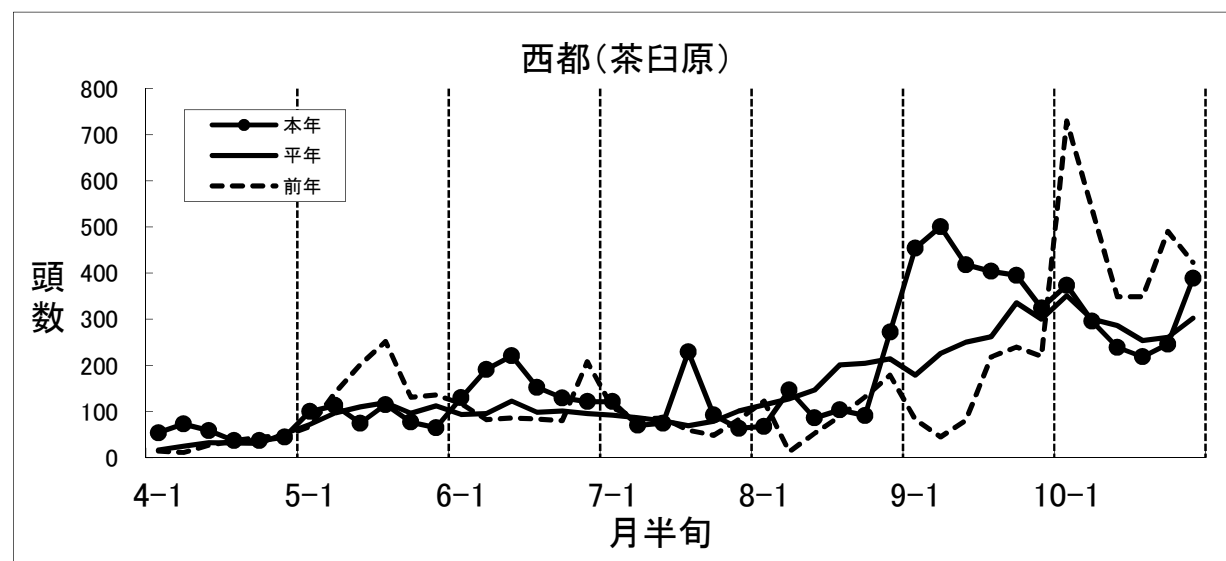
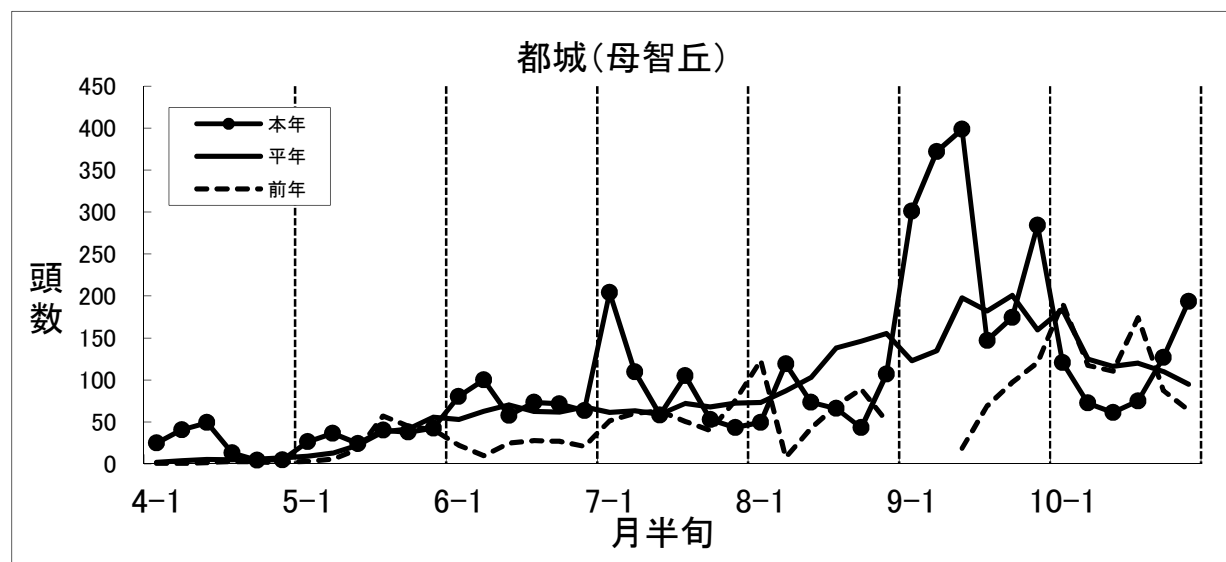
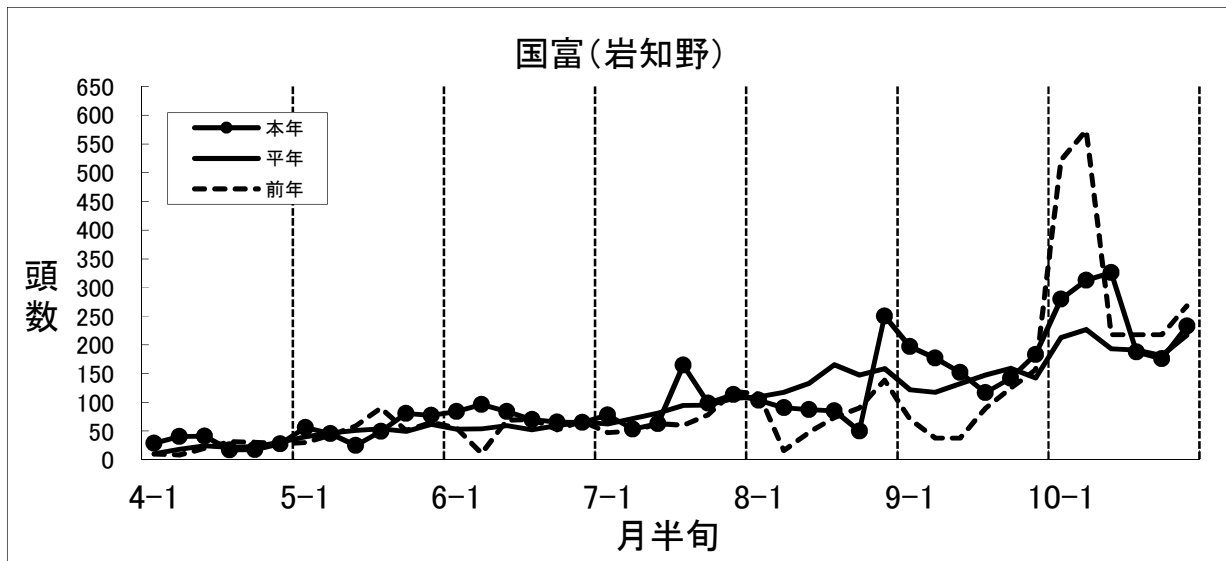
平成27年フェロモントラップ誘殺数(チャノホソガ)



## (4) ハスモンヨトウ (雄成虫) の誘殺状況

月	半旬	国富 (岩知野)			都城 (母智丘)			西都 (茶臼原)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
4	1	29	10.5	10	25	2.1	1	54	16.6	15
	2	41	18.3	9	41	4.0	1	73	25.0	11
	3	41	24.6	20	49	5.2	1	59	32.6	27
	4	17	21.9	32	13	5.0	3	37	31.5	37
	5	18	23.2	31	5	5.9	2	37	31.2	44
	6	28	30.7	28	5	7.1	2	44	52.1	48
5	1	56	39.9	30	26	9.3	3	100	71.7	67
	2	46	46.8	43	37	13.1	6	113	96.8	140
	3	25	51.3	59	24	22.5	18	75	110.0	202
	4	50	54.2	90	40	38.1	57	115	119.3	251
	5	81	49.6	51	38	41.6	45	77	96.4	131
	6	78	61.9	65	43	55.6	41	65	112.3	136
6	1	84	53.6	56	80	52.9	23	130	93.5	117
	2	96	54.0	11	100	62.7	10	191	95.9	82
	3	84	59.5	69	58	70.6	25	221	122.7	86
	4	70	52.2	71	73	62.7	28	152	98.7	84
	5	66	59.7	52	72	61.7	27	130	100.8	80
	6	65	65.6	68	64	67.8	21	121	95.4	208
7	1	78	62.1	47	204	61.4	52	121	92.0	108
	2	53	72.0	50	110	63.1	61	70	86.8	84
	3	63	81.6	63	58	59.1	63	74	79.6	86
	4	165	94.8	60	105	71.9	51	229	69.4	59
	5	99	95.3	78	53	67.8	40	92	79.2	49
	6	114	107.2	119	43	72.3	76	63	101.2	82
8	1	104	109.7	115	50	73.0	124	68	114.4	123
	2	91	117.7	16	119	87.1	8	146	127.5	13
	3	87	132.9	48	74	102.8	42	86	146.4	52
	4	85	165.5	73	66	138.3	70	103	201.0	89
	5	50	147.9	90	43	146.2	89	91	204.6	131
	6	250	158.9	139	107	155.5	51	272	214.5	179
9	1	197	122.2	71	301	123.2	25	454	178.6	83
	2	177	117.5	38	372	135.1	20	501	225.9	45
	3	152	132.3	38	399	197.7	19	418	250.2	81
	4	117	147.5	90	147	182.2	69	404	262.1	218
	5	142	159.6	125	175	200.9	97	395	336.1	240
	6	184	142.7	157	284	159.7	121	324	300.0	220
10	1	280	213.0	522	121	184.3	191	374	351.4	730
	2	312	226.9	573	73	124.9	118	296	300.6	539
	3	326	193.5	218	61	116.3	111	239	286.5	349
	4	188	191.0	218	75	120.0	174	219	254.1	349
	5	176	181.4	218	127	110.0	87	246	260.4	491
	6	233	217.5	268	194	94.8	64	389	302.7	423

平成27年度フェロモントラップ誘殺数(ハスモンヨトウ)

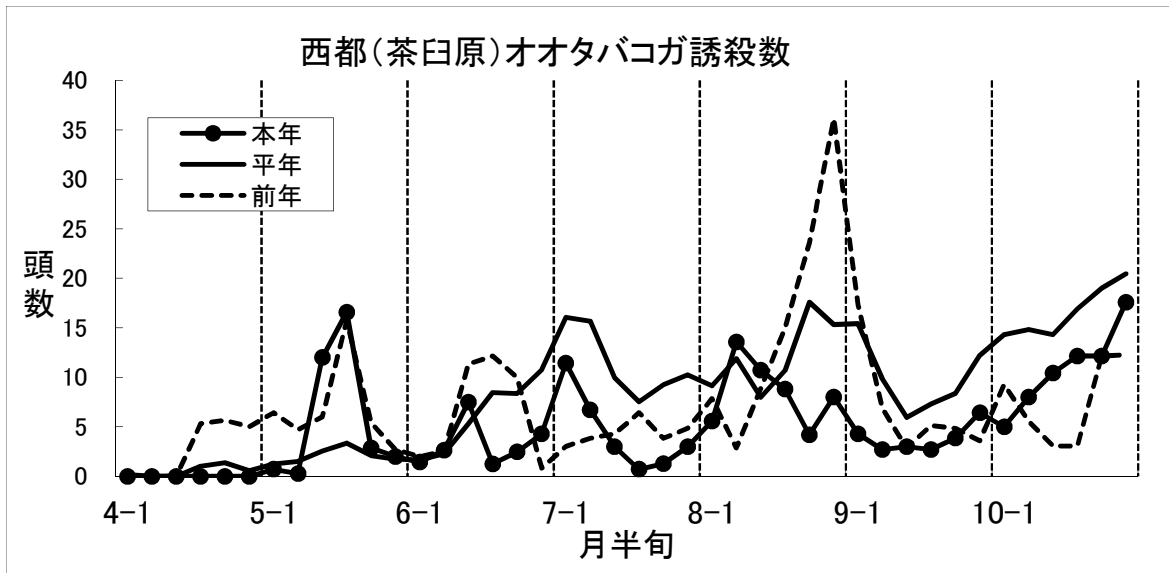
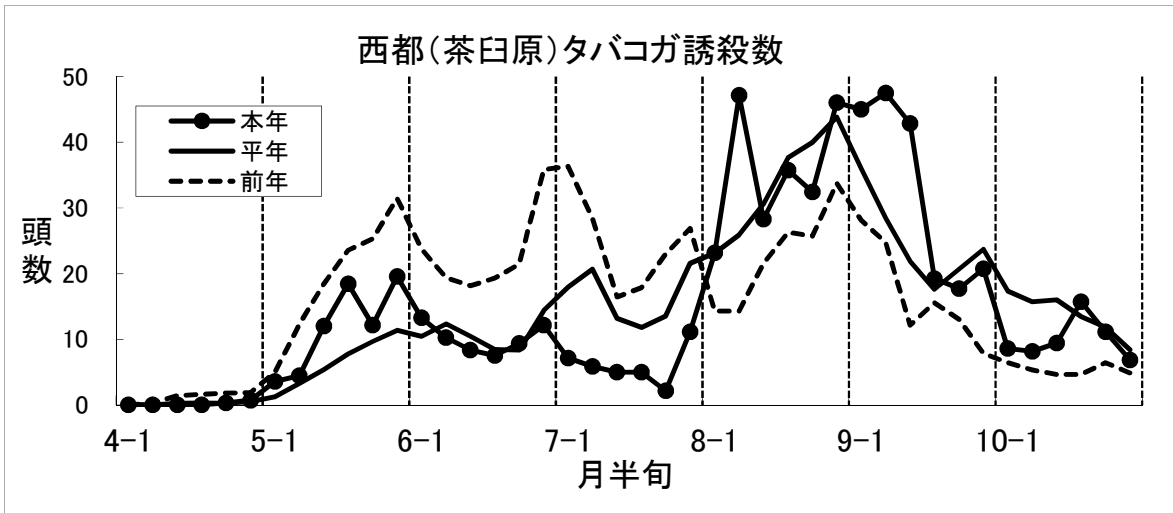


## (5) タバコガ・オオタバコガ (雄成虫) の誘殺状況

月	半旬	タバコガ			オオタバコガ		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年
4	1	0	0.1	0	0	0.2	0
	2	0	0.0	0	0	0.0	0
	3	0	0.2	1	0	0.0	0
	4	0	0.3	2	0	1.0	5
	5	0	0.3	2	0	1.4	6
	6	1	0.5	2	0	0.6	5
5	1	4	1.2	5	1	1.2	6
	2	4	3.3	12	0	1.5	5
	3	12	5.4	18	12	2.6	6
	4	18	7.8	24	17	3.4	16
	5	12	9.7	25	3	2.1	5
	6	20	11.4	31	2	1.7	3
6	1	13	10.4	24	1	1.7	2
	2	10	12.4	19	3	2.3	3
	3	8	10.4	18	8	5.3	11
	4	8	8.4	19	1	8.5	12
	5	9	8.3	21	2	8.4	10
	6	12	14.4	36	4	10.8	1
7	1	7	18.0	36	11	16.1	3
	2	6	20.7	28	7	15.7	4
	3	5	13.2	16	3	10.0	4
	4	5	11.8	18	1	7.5	6
	5	2	13.5	23	1	9.2	4
	6	11	21.6	27	3	10.3	5
8	1	23	23.1	14	6	9.1	8
	2	47	25.9	14	14	11.9	3
	3	28	30.6	22	11	8.0	9
	4	36	37.6	26	9	10.7	15
	5	32	40.0	26	4	17.6	24
	6	46	43.8	34	8	15.3	36
9	1	45	36.0	28	4	15.4	17
	2	48	28.4	25	3	9.8	7
	3	43	21.9	12	3	6.0	3
	4	19	17.6	16	3	7.3	5
	5	18	20.7	13	4	8.4	5
	6	21	23.7	8	6	12.2	4
10	1	9	17.4	6	5	14.3	9
	2	8	15.7	5	8	14.8	6
	3	9	16.0	5	10	14.3	3
	4	16	13.5	5	12	16.9	3
	5	11	11.8	6	12	19.0	12
	6	7	8.4	5	18	20.5	12

※ フェロモントラップ設置地点：西都市茶臼原

平成27年度フェロモントラップ誘殺数(タバコガ・オオタバコガ)



7)果樹カメムシ類の誘殺状況

(1)予察灯における誘殺状況

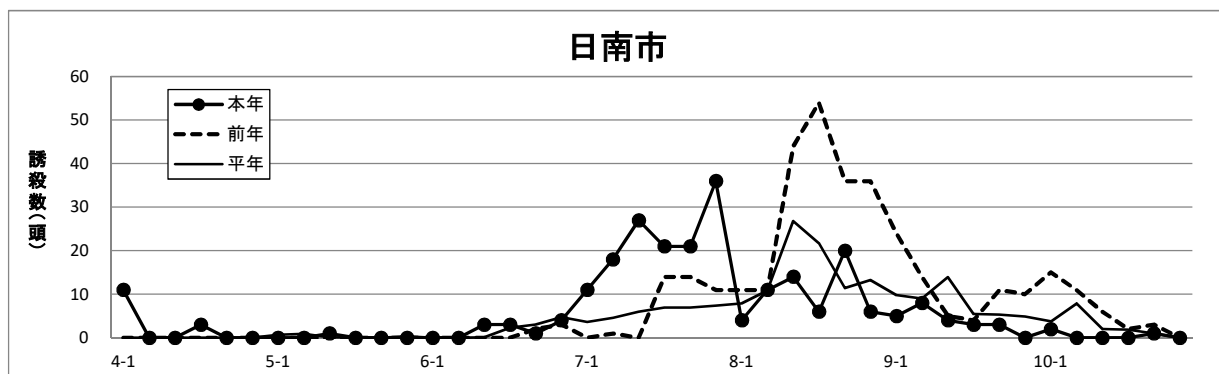
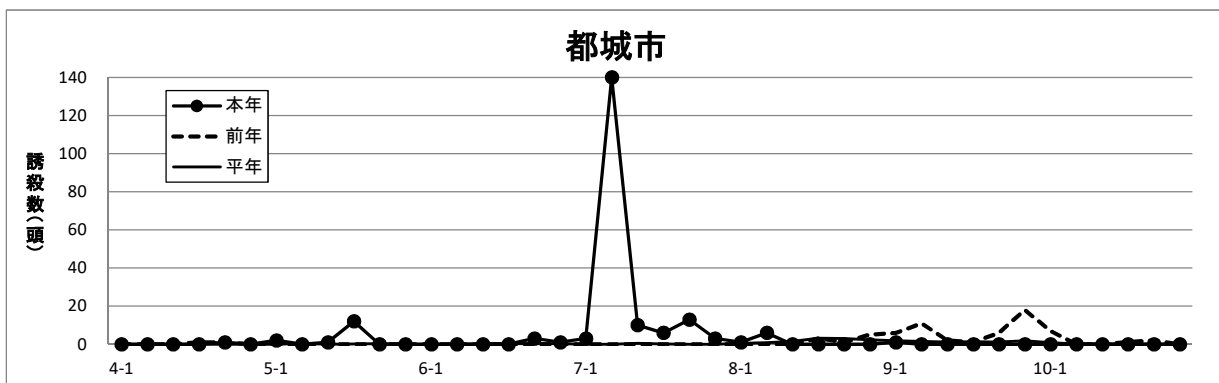
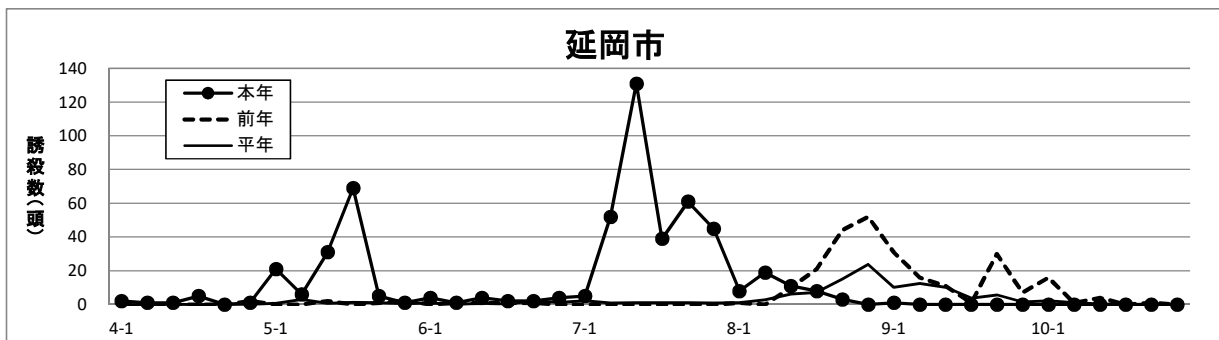
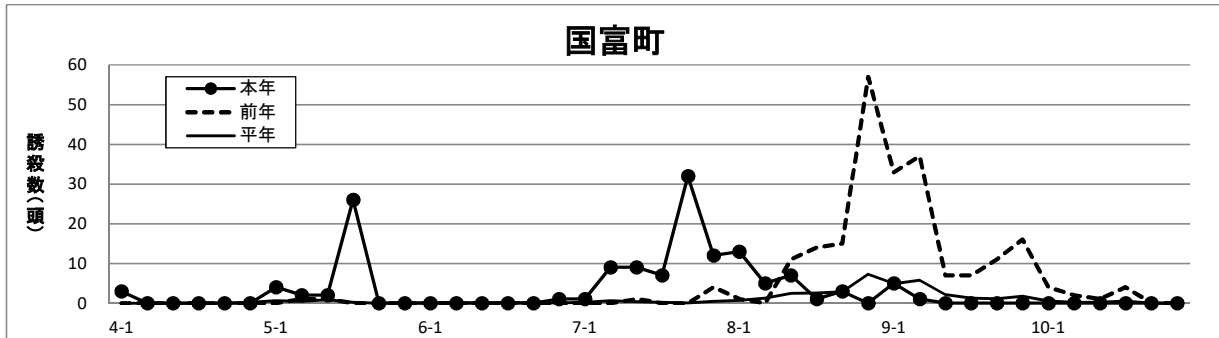
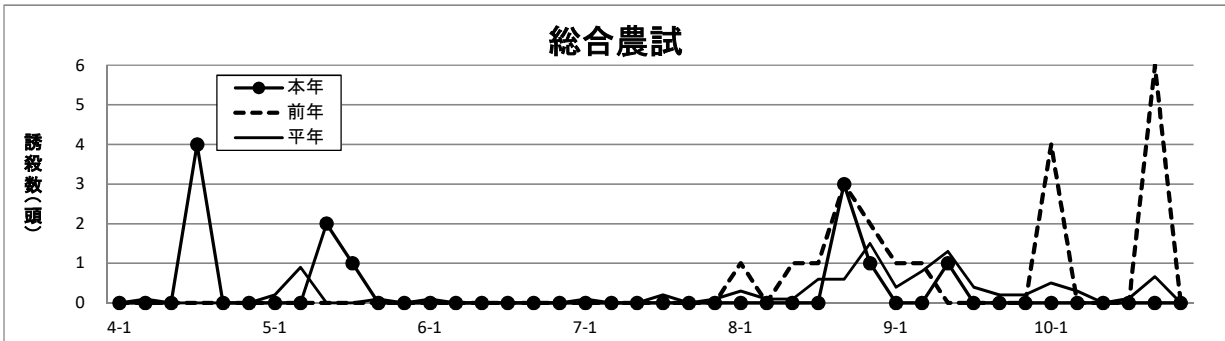
①チャバネアオカメムシの誘殺状況

月	半旬	総合農試			国富			延岡			都城			日南		
		本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
4	1	0	0	0	3	0	0	2	0	0	0	0	0	11	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	4	0	0	0	0	0	5	0	0	0	1	0	3	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0
	6	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0
5	1	0	0	0	4	0	1	21	0	1	2	0	0	0	0	1
	2	0	0	1	2	1	1	6	0	3	0	0	1	0	0	1
	3	2	0	0	2	1	1	31	2	1	1	0	0	1	0	0
	4	1	0	0	26	0	0	69	0	1	12	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	5	1	1	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0
6	1	0	0	0	0	0	0	4	0	1	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	4	1	1	0	0	0	3	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	3	0	2
	5	0	0	0	0	0	0	2	1	2	3	0	0	1	2	3
	6	0	0	0	1	0	0	4	0	1	1	0	0	4	3	5
7	1	0	0	0	1	0	0	5	0	2	3	0	0	11	0	4
	2	0	0	0	9	0	1	52	0	1	140	0	0	18	1	5
	3	0	0	0	9	1	0	131	0	1	10	0	1	27	0	6
	4	0	0	0	7	0	0	39	0	1	6	0	0	21	14	7
	5	0	0	0	32	0	0	61	0	1	13	0	0	21	14	7
	6	0	0	0	12	4	1	45	0	1	3	0	0	36	11	7
8	1	0	1	0	13	1	1	8	1	1	1	0	1	4	11	8
	2	0	0	0	5	0	1	19	0	3	6	0	1	11	11	11
	3	0	1	0	7	11	3	11	10	6	0	0	2	14	44	27
	4	0	1	1	1	14	3	8	21	7	0	3	3	6	54	22
	5	3	3	1	3	15	3	3	44	15	0	1	3	20	36	11
	6	1	2	2	0	57	7	0	52	24	0	5	2	6	36	13
9	1	0	1	0	5	33	5	1	31	10	1	6	2	5	24	10
	2	0	1	1	1	37	6	0	16	13	0	11	2	8	14	9
	3	1	0	1	0	7	2	0	11	10	0	2	1	4	5	14
	4	0	0	0	0	7	1	0	1	4	0	1	1	3	4	5
	5	0	0	0	0	11	1	0	30	6	0	6	1	3	11	5
	6	0	0	0	0	16	2	0	7	2	0	18	2	0	10	5
10	1	0	4	1	0	4	1	0	16	2	0	7	1	2	15	4
	2	0	0	0	0	2	0	0	1	1	0	0	0	0	11	8
	3	0	0	0	0	1	0	0	4	0	0	0	0	0	6	2
	4	0	0	0	0	4	1	0	0	0	0	1	0	0	2	2
	5	0	6	1	0	0	0	0	1	0	0	2	0	1	3	1
	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		12	20	10	143	227	41	543	257	126	203	65	27	247	342	204

※「-」は欠測



平成27年予察灯における誘殺数(チャバネアオカメムシ)

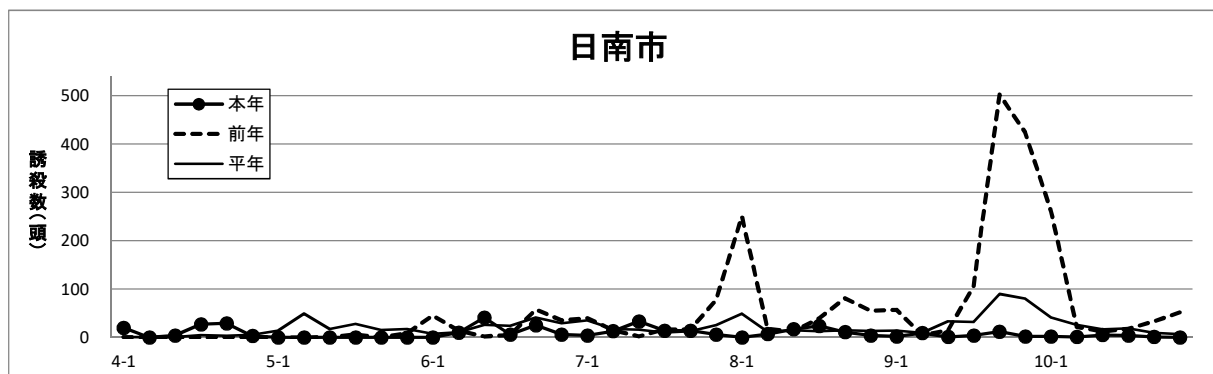
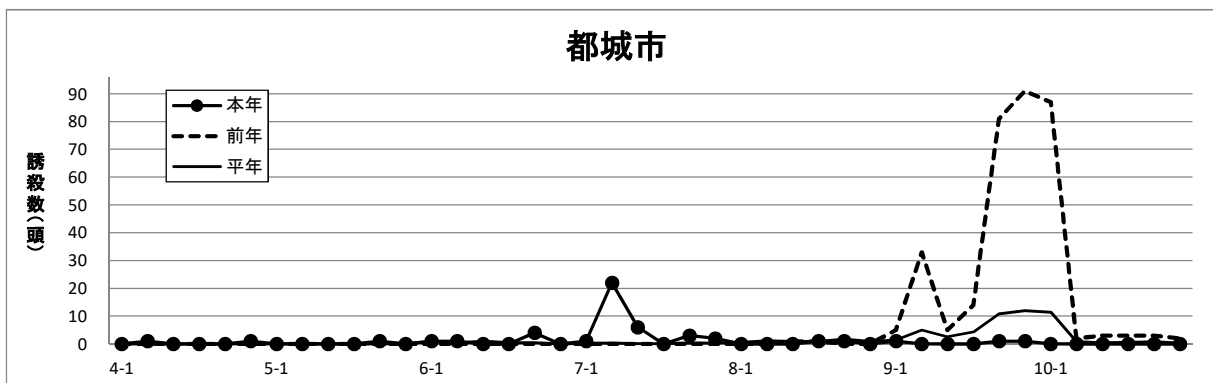
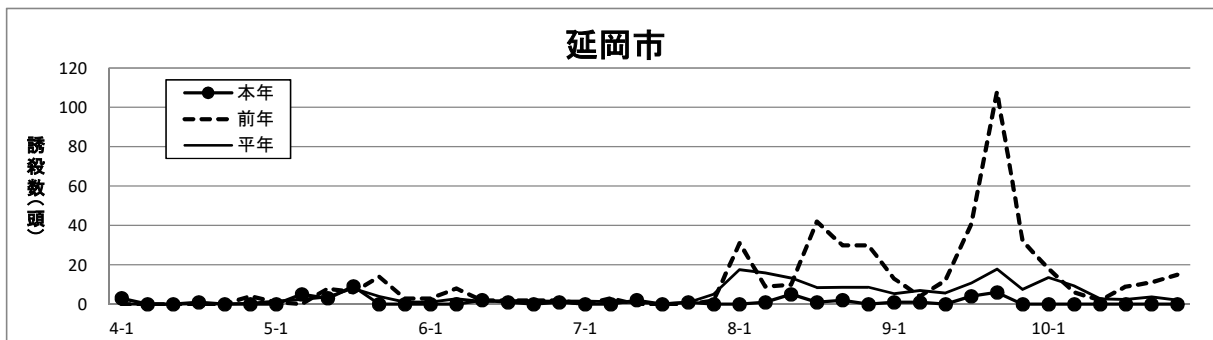
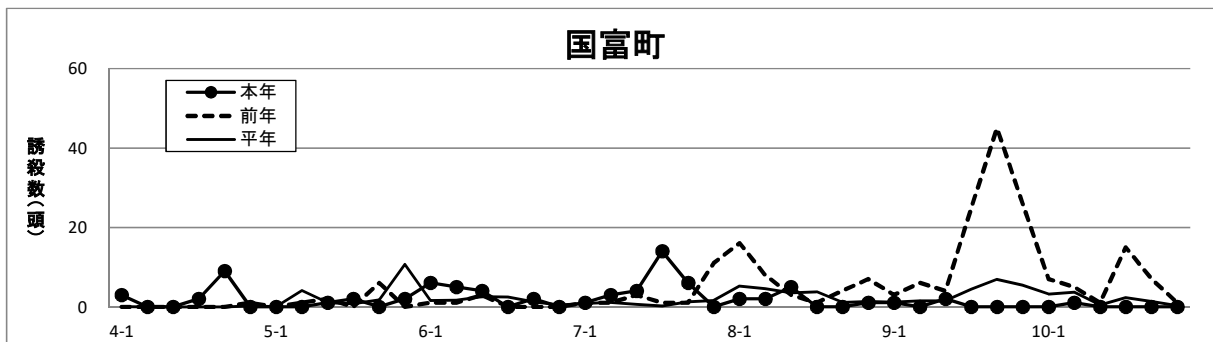
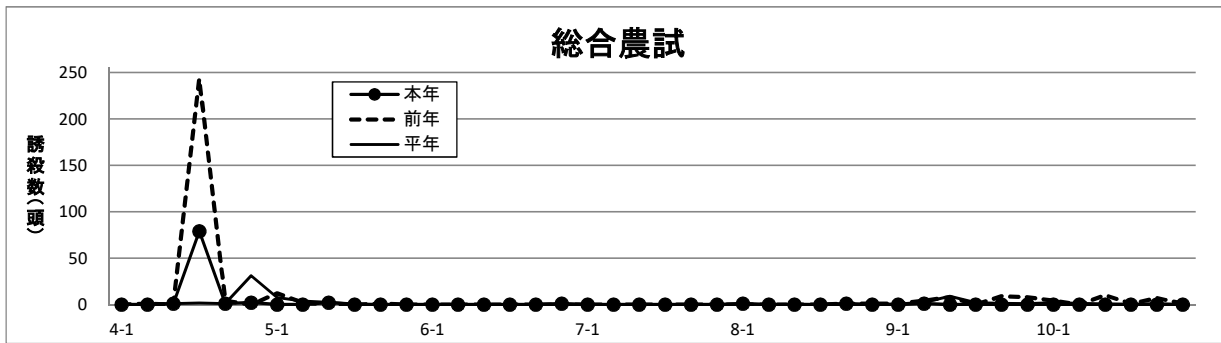


②ツヤアオカメムシの誘殺状況

月	半旬	総合農試			国富			延岡			都城			日南		
		本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
4	1	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0	20	1	1
	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	3	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	1
	4	79	243	2	2	0	0	1	0	0	0	0	0	27	0	5
	5	1	4	1	9	0	0	0	0	0	0	0	0	29	1	3
	6	2	0	31	0	1	0	0	4	1	1	1	0	3	1	6
5	1	0	12	8	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	14
	2	0	2	4	0	1	4	5	0	2	0	0	0	0	0	49
	3	2	0	2	1	2	1	3	8	4	0	0	0	0	1	18
	4	0	0	1	2	0	1	9	6	8	0	0	0	0	6	28
	5	0	1	0	0	6	2	0	14	4	1	0	0	0	0	16
	6	0	0	0	2	0	11	0	3	1	0	0	0	0	9	17
6	1	0	0	0	6	1	2	0	3	1	1	0	1	0	45	8
	2	0	0	0	5	1	2	0	8	3	1	0	0	10	14	10
	3	0	0	0	4	3	3	2	2	2	0	0	1	41	2	26
	4	0	0	0	0	0	3	1	2	2	0	0	1	6	5	24
	5	0	0	0	2	0	1	0	2	2	4	0	1	25	58	41
	6	1	0	0	0	0	1	1	2	2	0	0	0	6	35	29
7	1	0	0	0	1	1	1	0	0	2	1	0	0	4	40	35
	2	0	0	0	3	1	1	0	3	1	22	0	0	13	15	17
	3	0	0	0	4	3	1	2	0	1	6	0	0	33	2	16
	4	0	0	0	14	1	0	0	0	0	0	0	0	14	17	10
	5	0	0	0	6	1	1	1	0	1	3	0	0	14	17	13
	6	0	0	0	0	11	2	0	2	5	2	0	0	6	77	25
8	1	1	0	0	2	16	5	0	31	18	0	0	1	0	250	49
	2	0	0	0	2	8	5	1	9	16	0	0	1	7	18	12
	3	0	0	0	5	3	4	5	10	13	0	1	1	17	12	15
	4	0	0	0	0	1	4	1	42	9	1	1	1	24	39	13
	5	1	1	0	0	4	1	2	30	9	1	0	2	11	81	15
	6	0	1	0	1	7	1	0	30	9	0	0	1	4	55	13
9	1	0	1	1	1	3	1	1	13	5	1	5	1	2	57	14
	2	1	4	2	0	6	2	1	4	7	0	33	5	9	5	10
	3	0	8	9	2	4	2	0	12	6	0	5	3	1	15	33
	4	0	0	2	0	25	4	4	41	11	0	14	4	4	106	32
	5	0	9	2	0	45	7	6	108	18	1	81	11	12	502	90
	6	0	8	1	0	26	5	0	32	7	1	91	12	2	424	81
10	1	0	4	2	0	7	3	0	18	14	0	87	11	2	260	41
	2	0	0	1	1	5	4	0	6	9	0	2	1	1	22	26
	3	0	10	1	0	1	0	0	2	3	0	3	1	5	12	17
	4	0	1	0	0	15	2	0	9	2	0	3	1	4	18	19
	5	0	7	1	0	7	1	0	11	4	0	3	1	1	33	9
	6	0	1	0	0	1	0	0	15	2	0	2	0	0	52	7
合計		89	318	73	78	217	86	49	483	203	48	331	62	361	2307	905

※「-」は欠測

平成27年予察灯における誘殺数(ツヤアオカメムシ)



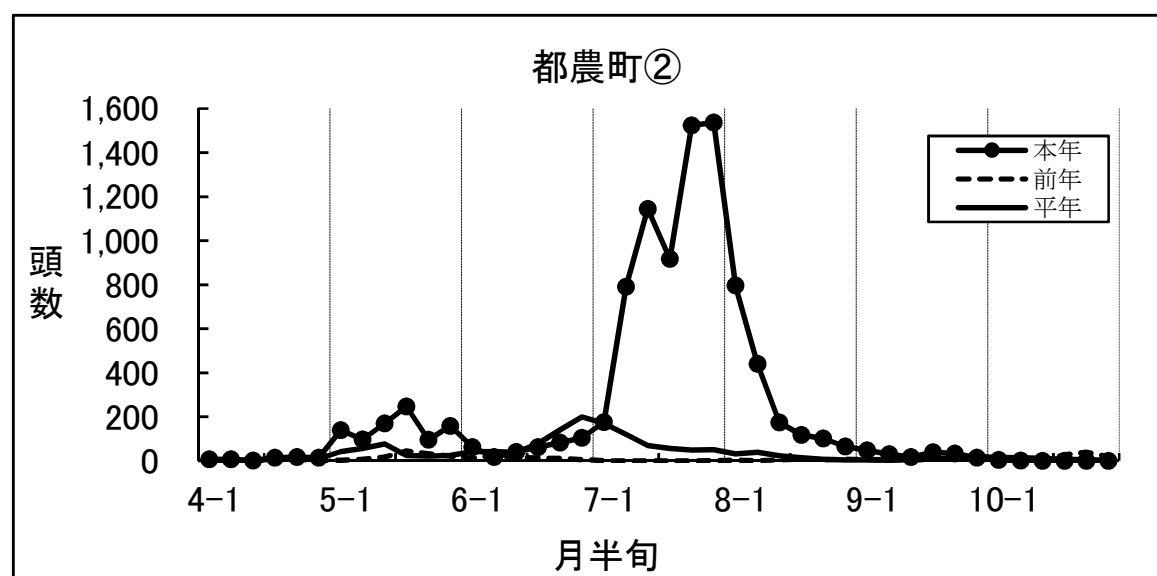
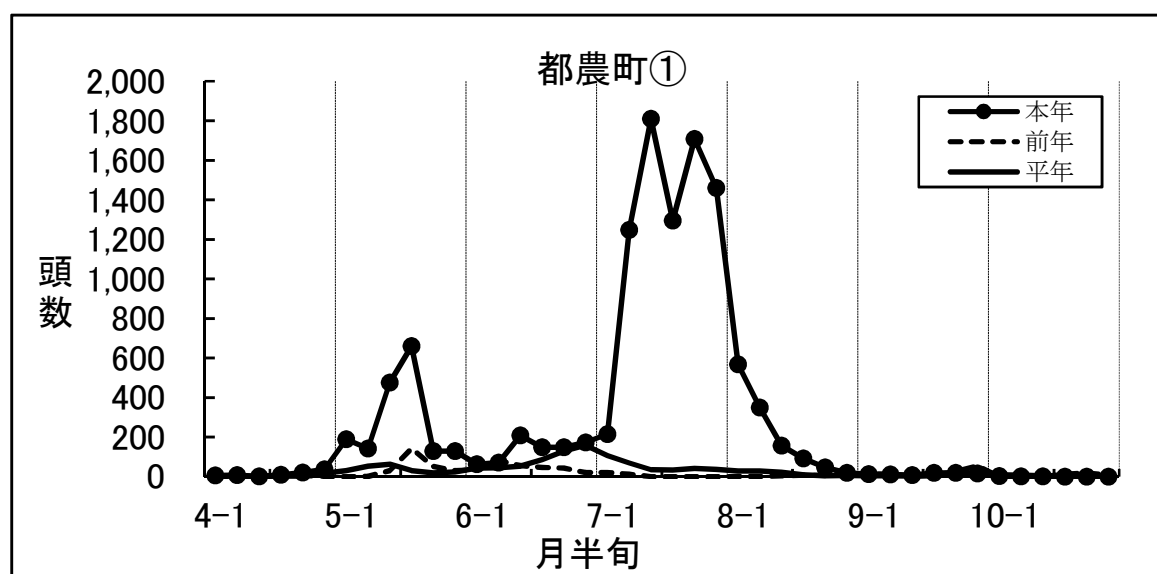
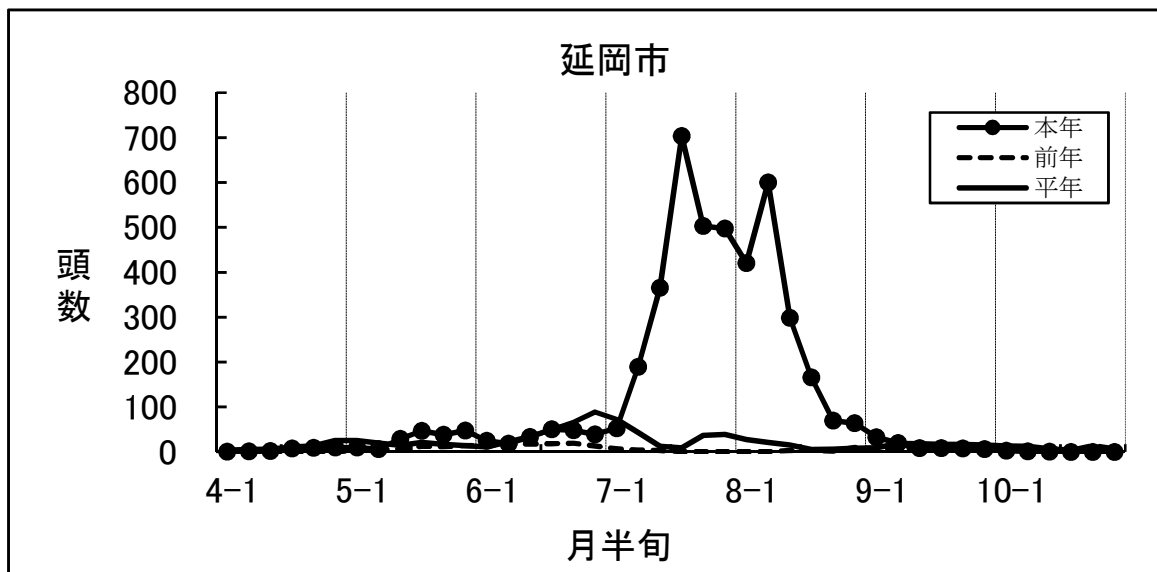
## (2) 合成集合フェロモンによる誘殺状況

## ① チャバネアオカメムシ

月	半旬	延 岡			都農①			都農②		
		本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
4	1	0	2	4	6	1	0	7	0	1
	2	1	1	5	8	1	2	8	1	2
	3	1	1	6	1	0	1	1	1	3
	4	7	1	11	9	7	3	15	9	7
	5	9	1	13	21	6	3	17	7	9
	6	9	0	25	36	1	17	15	1	9
5	1	9	4	25	189	0	31	139	3	43
	2	6	4	20	142	2	53	98	7	56
	3	29	6	15	475	31	63	171	17	77
	4	46	12	21	660	142	31	247	45	24
	5	38	12	17	129	51	19	96	32	21
	6	48	14	14	129	31	23	158	21	24
6	1	25	13	11	63	35	43	63	11	42
	2	18	16	23	71	80	45	17	26	41
	3	33	18	34	209	55	53	40	16	40
	4	51	18	49	149	47	86	63	13	79
	5	48	19	66	149	43	129	83	12	141
	6	39	13	89	173	20	159	105	5	199
7	1	52	7	73	215	20	106	176	2	170
	2	189	4	43	1249	12	69	791	0	120
	3	365	3	12	1809	0	35	1145	0	70
	4	704	1	9	1296	0	33	918	0	57
	5	503	0	37	1708	0	42	1524	0	50
	6	497	0	39	1460	0	37	1537	1	50
8	1	421	1	28	567	1	29	797	2	32
	2	600	1	21	349	1	28	440	1	39
	3	298	3	15	157	5	22	174	5	23
	4	166	4	5	92	7	10	117	7	14
	5	69	1	6	46	6	5	101	6	8
	6	64	10	8	19	12	6	65	7	5
9	1	32	8	9	13	13	4	48	6	4
	2	19	7	19	11	12	4	30	6	3
	3	9	10	18	7	4	4	18	4	6
	4	8	5	17	19	5	6	39	7	9
	5	7	9	17	20	25	11	33	15	13
	6	6	16	15	15	54	16	14	26	19
10	1	2	9	13	2	-	9	4	4	16
	2	1	-	13	1	-	8	2	-	15
	3	1	-	7	1	-	5	0	-	11
	4	0	3	4	0	13	3	0	28	7
	5	0	14	4	0	18	2	0	39	5
	6	0	7	3	0	7	1	0	19	2
計		4,430	278	884	11,674	765	1,254	9,314	410	1,567

- : 欠測

平成27年フェロモントラップ誘殺数（チャバネアオカメムシ）

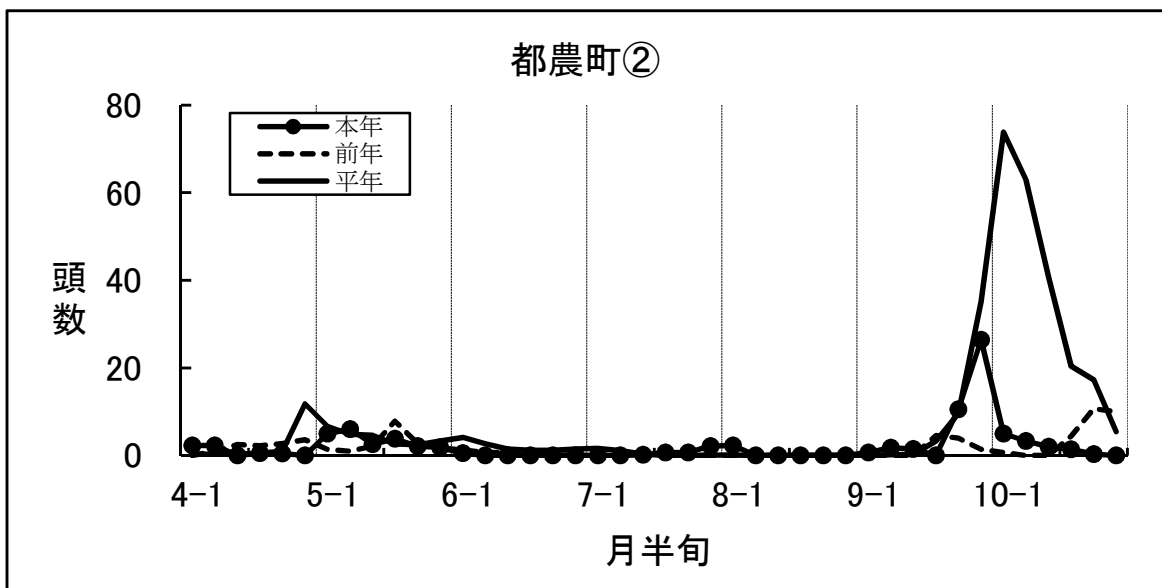
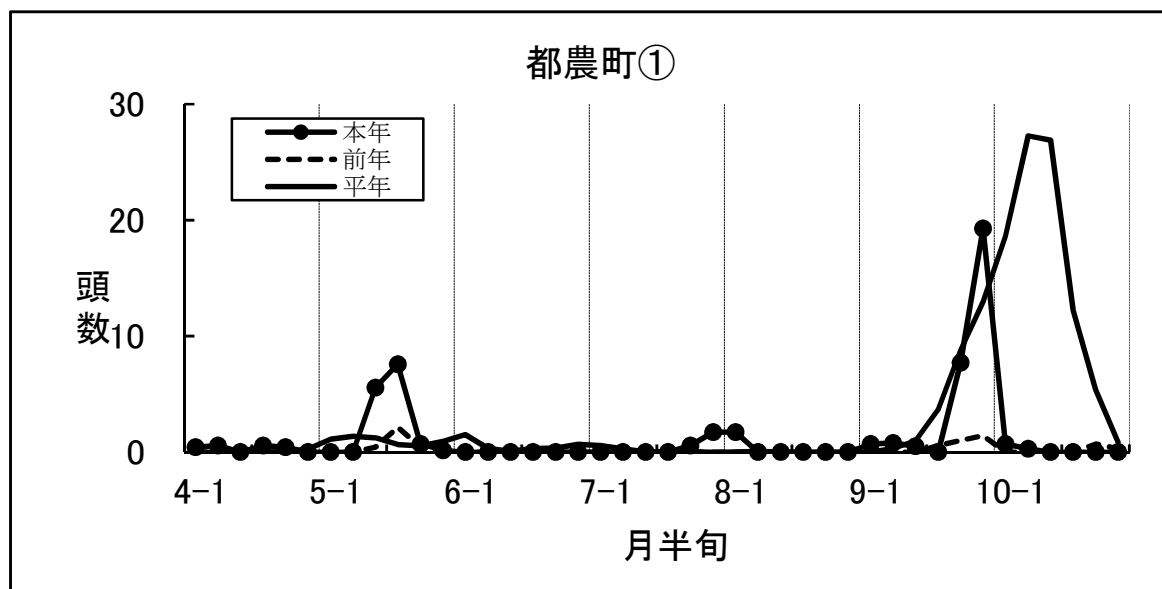
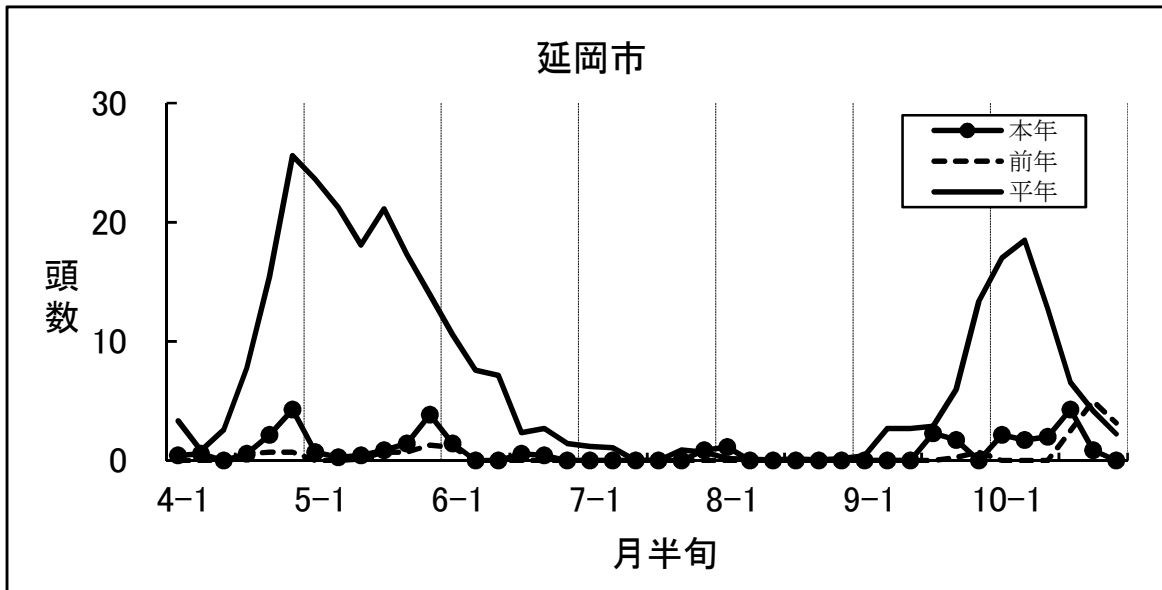


② ツヤアオカメムシ

月	半旬	延 岡			都農①			都農②		
		本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
4	1	0	0	3	0	0	0	2	0	0
	2	1	0	1	1	0	0	2	1	0
	3	0	0	3	0	0	0	0	3	0
	4	1	1	8	1	0	0	1	2	1
	5	2	1	15	0	0	0	0	3	1
	6	4	1	26	0	0	0	0	4	12
5	1	1	0	24	0	0	1	5	1	7
	2	0	0	21	0	0	1	6	1	5
	3	0	0	18	6	0	1	3	2	5
	4	1	1	21	8	2	1	4	8	3
	5	1	1	17	1	0	1	2	3	2
	6	4	1	14	0	0	1	2	2	3
6	1	1	1	11	0	0	1	1	1	4
	2	0	0	8	0	0	0	0	1	3
	3	0	0	7	0	0	0	0	1	2
	4	1	0	2	0	0	0	0	0	1
	5	0	0	3	0	0	0	0	0	1
	6	0	0	1	0	0	1	0	0	1
7	1	0	0	1	0	0	1	0	0	2
	2	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	5	0	0	1	1	0	0	1	0	0
	6	1	0	1	2	0	0	2	0	0
8	1	1	0	0	2	0	0	2	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0
	2	0	0	3	1	0	0	2	0	0
	3	0	0	3	1	0	1	2	0	0
	4	2	0	3	0	1	4	0	5	3
	5	2	0	6	8	1	9	11	4	10
	6	0	1	13	19	1	13	26	1	35
10	1	2	0	17	1	-	19	5	1	74
	2	2	-	18	0	-	27	3	-	63
	3	2	-	13	0	-	27	2	-	41
	4	4	3	7	0	0	12	1	4	20
	5	1	5	4	0	1	5	0	11	17
	6	0	3	2	0	0	1	0	10	5
計		35	18	296	50	7	128	87	68	323

- : 欠測

平成27年フェロモントラップ誘殺数（ツヤアオカメムシ）



I 農作物有害動植物の発生及び防除状況

1. 病害虫の発生及び防除状況

(1) 発生経過、発生原因及び防除の概要

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
早期水稲	葉いもち	平年: 早い 前年: 早い	平年: 多 前年: 多	5,318	初確認は5月15日(平年: 5月22日、前年5月30日)。6月中旬の巡回調査では、発生面積率と発生程度(発病度)はいずれも平年に比べて多発生であった。	6月から7月にかけての日照不足や低温・多雨の影響でイネの生育が軟弱徒長気味に推移したことに加え、感染に好適な条件が続いたことから、葉いもちだけでなく、穂いもちへの感染も拡大した。	育苗箱施薬、初発前の粒剤散布及び初発時の粉剤・液剤散布。
	穂いもち	平年: 早い 前年: 早い	平年: 多 前年: 多	3,992	7月中旬の巡回調査では、発生面積率は平年に比べて多、発生程度(発病穂率)は平年に比べてやや多の発生であった。		穂ばらみ期と穂揃い期に防除。一部地区で航空防除。 注意報第2号(H27.6.18)発表。
	紋枯病	平年: 並 前年: 並	平年: 少 前年: 並	886	6月下旬の巡回調査から発生が確認され、7月中旬の巡回調査においては、発生面積率と発生程度(発病株率)はいずれも平年に比べて少発生であった。	6月から7月にかけては比較的気温が低く、感染に好適な条件ではなかった。	穂ばらみ期に防除。一部地区で航空防除。
	イネミズゾウムシ	平年: 並 前年: 並	平年: やや多 前年: やや多	5,764	4月中旬の巡回調査では、発生面積率と発生程度(被害度)はいずれも平年に比べて多発生であった。5月中旬の巡回調査においては、発生面積率が平年に比べてやや多、発生程度は平年に比べて多発生であった。		育苗箱施薬、粒剤の水面施用。
	スクミリンゴガイ	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: やや少	1,553	4月中旬の巡回調査では、発生面積率と発生程度(m <sup>2</sup> 当貝数)はいずれも平年並の発生であった。5月中旬の巡回調査では、発生面積率は平年に比べてやや少、発生程度は平年に比べて少発生であった。		粒剤の水面施用。貝の採取・冬季の耕起。
	カメムシ類	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: やや少	2,219	6月中旬の本田巡回調査では、発生面積率は平年に比べて多、発生程度(20回振すくい取り虫数)は平年並の発生であった。その後、7月中旬の本田巡回調査では、発生面積率は平年並、発生程度(20回振すくい取り虫数)は平年に比べて少発生であった。		防除情報第4号(H27.6.12)発表。 穂揃い期とその7~10日後の2回防除を徹底。一部地区で航空防除。
普通期水稲	葉いもち	平年: 並 前年: 並	平年: やや多 前年: やや多	7,650	本田での発生は6月中旬の巡回調査から確認された。7月中旬と8月中旬の巡回調査では、発生面積率と発生程度(発病度)はいずれも平年に比べてやや多の発生であった。	6月から7月にかけての日照不足や低温・多雨の影響でイネの生育が軟弱徒長気味に推移したことに加え、感染に好適な条件が続いたことから、県北を中心に葉いもちの発生が拡大した。	育苗箱施薬、初発前の粒剤散布及び初発時の粉剤・液剤散布。
	穂いもち	平年: 遅い 前年: 遅い	平年: 並 前年: やや少	5,865	9月中旬の巡回調査では、発生面積率は平年に比べてやや多、発生程度(発病穂率)は平年並の発生であった。		注意報第3号(H27.8.3)発表。 穂ばらみ期と穂揃い期に防除。一部地区で航空防除。
	紋枯病	平年: 遅い 前年: 遅い	平年: 少 前年: 少	765	8月下旬の巡回調査から確認され、9月中旬の巡回調査では、発生面積率と発生程度はいずれも平年に比べて少発生であった。	期間をとおして、気温は平年並~やや低めで推移したことから、発生に好適な条件とはならなかった。	穂ばらみ期の防除。一部地区で航空防除。
	もみ枯細菌病	平年: 遅い 前年: 遅い	平年: やや少 前年: やや少	0	9月中旬の巡回調査では、発生未確認であり、発生面積率と発生程度(病穂率)はいずれも平年並の発生であった。		粒剤による防除。
	内穎褐変病	平年: 遅い 前年: 遅い	平年: 並 前年: やや少	6,630	9月中旬の巡回調査では、発生面積率は平年並、発生程度(病穂率)は平年と比べてやや少の発生であった。		



農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
大豆	セジロウンカ	平年:早い 前年:早い	平年:並 前年:並	9,945	予察灯初飛来は5月23日(平年5月30日、前年6月6日)で平年より早かった。 本田では6月中旬の巡回調査から確認され、8月中旬の巡回調査においては、発生面積率と発生程度(20回振すくい取り虫数)はいずれも平年並の発生であった。	梅雨時期にかけて県内の広い範囲で断続的な飛来があったが、栽培期間中は長雨と低温が続いたことから、平年を上回る発生量とはならなかった。	育苗箱施薬。飛来虫と次世代幼虫の防除。出穂期のウンカ類防除。一部地区で航空防除。
	トビイロウンカ	平年:遅い 前年:早い	平年:やや少 前年:少	4,080	予察灯初飛来は、7月2日(平年6月26日、前年7月3日)で平年より遅かった。 本田では、8月中旬から発生が確認され、9月中旬の巡回調査では、発生面積率は平年に比べてやや少、発生程度(株当たり虫数)は平年に比べてやや少の発生であった。	梅雨時期の県内への飛来は散発的なものであったことや栽培期間中は長雨と低温が続いたことから、平年を上回る発生量とはならなかった。	育苗箱施薬。飛来虫と次世代幼虫の防除。出穂期のウンカ類防除。一部地区で航空防除。
	ヒメトビウンカ	平年:並 前年:並	平年:やや少 前年:少	8,925	7月中旬の巡回調査では、発生面積率と発生程度(20回振すくい取り虫数)はいずれも平年に比べてやや少の発生であった。8月中旬の巡回調査では、発生面積率は平年並、発生程度は平年に比べてやや少の発生であった。9月中旬の巡回調査では、発生面積率と発生程度はいずれも平年に比べてやや少の発生であった。	越冬量は平年に比べてやや少の発生であったのに加え、栽培期間中も長雨と低温が続いたことから、例年ほどの発生量の増加はみられなかった。	育苗箱施薬。出穂期のウンカ類防除。一部地区で航空防除。
	ツマグロヨコバイ	平年:並 前年:並	平年:やや多 前年:やや多	8,160	8月中旬の巡回調査では、発生面積率は平年に比べ少、発生程度(20回振すくい取り虫数)は平年並の発生であった。9月中旬の巡回調査では、発生面積率は平年に比べて多、発生程度は平年並の発生であった。	越冬量は平年に比べて平年並の発生であったのに加え、栽培期間中も長雨と低温が続いたことから、例年ほどの発生程度の増加はみられなかった。	育苗箱施薬。
	コブノメイガ	平年:早い 前年:早い	平年:やや少 前年:やや多	3,060	フェロモントラップでの初飛来は、6月16日(平年、前年ともに6月23日)で平年より早かった。 7月中旬の巡回調査では、発生面積率と発生程度(被害率)はいずれも平年並の発生であったが、8月中旬の巡回調査では、発生面積率と発生程度はいずれも平年に比べてやや少の発生であった。	飛来量が少なかった。 フェルテラ箱粒剤が県内の広い範囲で普及しており、高い防除効果で本田への定着を遅らせている。	育苗箱施薬。発蛾最盛期の粒剤防除及びウンカ類との同時防除の粉剤・液剤防除。
	イネミズゾウムシ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:並	1,132	6月中旬巡回調査においては、発生面積率と発生程度(被害度)は平年並の発生であった。		育苗箱施薬、粒剤の水面施用。
	スクミリンゴガイ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:並	1,704	6月中旬巡回調査では、発生面積率は平年並、発生程度(m <sup>2</sup> 当貝数)は平年に比べてやや少の発生であった。	水管理及び防除の不徹底。	粒剤の水面施用。貝の採取・冬季の耕起
	カメムシ類	平年:並 前年:並	平年:並 前年:やや少	4,845	8月中旬と9月中旬の巡回調査における発生面積率と発生程度(20回振すくいとり虫数)はいずれも平年に比べやや少の発生であったが、10月中旬の巡回調査では発生面積率が平年並、発生程度がやや多となり、一部で発生量の増加がみられた。	出穂期、穂ぞろい期防除の徹底。	穂揃い期とその7~10日後の防除。
	大豆	べと病	平年:並 前年:並	平年:やや多 前年:やや多	254	9月中旬の巡回調査における発生面積率と発生程度(発病度)は平年に比べてやや多の発生であり、その後の収穫物調査においても発生面積率がやや多、発生程度が多の発生となった。	
	葉焼病	平年:一 前年:一	平年:並 前年:並	0	栽培期間を通して発生は見られなかった。		
	ハスモンヨトウ	平年:並 前年:並	平年:やや多 前年:多	254	8月中旬の巡回調査における発生面積率は平年に比べて多、発生程度(食害度)は平年に比べてやや多の発生であり、9月中旬の巡回調査においては、発生面積率は平年に比べてやや少、発生程度(食害度)は平年並の発生であった。		若齢期の防除。
	カメムシ類	平年:並 前年:並	平年:やや少 前年:やや少	178	9月中旬の巡回調査における発生面積率と発生程度(25株虫数)はいずれも平年に比べてやや少の発生であったが、10月中旬の巡回調査では発生程度がやや多となるなど、ほ場によっては発生量の増加がみられた。		さやの肥大期の防除。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
かんしょ	イモキバガ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:やや多	1,434	8月中旬の巡回調査における発生面積率は平年並、発生程度(被害葉率)は平年に比べてやや少の発生であった。その後、9月中旬の巡回調査においては、発生面積率と発生程度は平年並の発生で推移した。		被害初期の防除。
	ナカジロシタバ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:やや多	3,440	8月中旬の巡回調査における発生面積率は平年に比べてやや多、発生程度(被害葉率)は平年に比べて多発生であった。その後、9月中旬の巡回調査においては、発生面積率と発生程度はいずれも平年に比べてやや少の発生であった。		一部地区で無人ヘリ防除。つる先の1~3葉に食害痕が見られる被害初期の防除。
	ハスモンヨトウ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:並	3,440	8月中旬の巡回調査における発生面積率は平年に比べてやや多、発生程度(被害葉率)は平年に比べて多発生であった。その後、10月中旬の巡回調査においては、発生面積率と発生程度はいずれも平年に比べてやや少の発生であった。		他の害虫との同時防除。
ジャガイモ	疫病	平年:並 前年:並	平年:多 前年:多	100	5月中旬巡回調査において、発生面積、発生程度(発病度)はいずれも平年に比べて多発生であった。		種芋の更新。初発前の予防防除。
	アブラムシ類	平年:並 前年:並	平年:やや多 前年:並	472	4月中旬巡回調査において、発生面積、発生程度(寄生度)はいずれも平年に比べやや多の発生であった。	初期防除の不徹底。	初発時の防除。
	ニジュウヤホシテントウ	平年:並 前年:早い	平年:並 前年:やや少	210	5月中旬巡回調査において、発生面積、発生程度(株虫数)はいずれも平年並の発生であった。		若齢期の防除。
	ハスモンヨトウ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:やや多	52	5月中旬巡回調査において、発生面積、発生程度(被害株率)はいずれも平年並の発生であった。		幼虫分散前の防除。
かんきつ	そうか病	平年:やや早い 前年:やや遅い	平年:やや少 前年:-	0	葉・果実ともにやや少ない発生であった。初発は、葉が4月28日(平年比-7日)、果実が6月15日(平年比0日)であった。	適期防除と病葉除去の不徹底	春梢発芽期、落弁期、幼果期の農薬防除。越冬病斑量を減らすために、剪定時に病葉を除去する。
	黒点病	平年:早い 前年:早い	平年:やや多 前年:-	1,017	梅雨時期の断続的な降雨により適期に防除出来ない園地が多く、やや多い発生となった。	適期防除の不徹底 枯れ枝等の放置	落花期以降の定期的な防除。枯れ枝の除去。剪定くずの適切な処理。
	かいよう病	平年:並 前年:やや早い	平年:並 前年:-	312	平年並の発生で推移した。初発は、葉で5月11日(平年比-2日)、果実で7月6日(平年比+5日)であった。	新梢の剪定が不徹底の園地で発生が多かった。ハモグリガは平年よりやや少ない発生であった。	発芽直前、開花直前、落花期の防除。強風対策として防風垣、防風ネットを設置する。
	ミカンハダニ	平年:並 前年:並	平年:やや少 前年:-	745	年間を通して、平年並~やや少の発生であったが8月に入ってから、多発生し葉・果実の被害が大きな園地もあった。	適期防除の不徹底 夏期マシン油の散布不徹底	発生初期の防除徹底。同一系統薬剤の連用を避ける。冬季、夏期にマシン油乳剤を利用する。
	チャノキイロアザミウマ	平年:やや遅い 前年:やや早い	平年:並 前年:-	79	7月に一部の園地で発生が確認されたが、その他は確認されなかった。	適期防除の不徹底	落花期から9月までの防除。
	ミカンハモグリガ	平年:並 前年:並	平年:少 前年:-	156	新梢発生が長引いた園地での発生は確認されたが、年間を通して少ない発生であった。	新梢発生が長引いた。	新梢をだらだらと発生させないような肥培管理。
	アブラムシ類	平年:並 前年:並	平年:並 前年:-	235	年間を通して、平年並の発生であった。	梅雨時期の長雨による発生抑制。	防除の徹底

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
	カメムシ類	平年:やや早い 前年:並	平年:やや多 前年:-	407	予察灯では4月上旬から誘殺され始め、5~6月、7~8月にはチャバネアオカメムシがフェロモントラップ・予察灯に多く誘殺された。果樹園の飛来は早いところでは5月には飛来を確認しており、他の地域でも平年より早い飛来が目立った。	越冬成虫が平年より多かった。餌となるヒノキ毬果の量が不足しており(聞き取り)平年より早い飛来となった。	飛来を確認したら直ちに防除を行う。
茶	炭疽病	平年:並 前年:並	平年:やや少 前年:-	850	5月に入って、平年より多い発生であったが、その後は平年並~やや少の発生で推移した。	適期防除の不徹底	二番茶・秋芽生育期の防除
	もち病	平年:やや遅い 前年:並	平年:やや多 前年:-	355	6月に入って、平年より多く発生が確認され、その後多~やや多の発生で推移した。主に山間部での発生であった。	断続的な降雨により、発生が助長された。	二番茶・秋芽の萌芽期から二・三葉期に、炭疽病との同時防除
	輪斑病	平年:並 前年:並	平年:やや多 前年:-	473	6月に入って、平年より多く発生が確認され、その後多~やや多の発生で推移した。	断続的な降雨により、適期防除が出来ず発生が助長された。	摘採直後の防除 摘採機の洗浄
	チャノカクモンハマキ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:-	0	ほ場調査では平年並の発生であった。フェロモントラップ調査では、一部地域では9月から平年よりやや多く発生した。	発生ピークのズレや摘採時期との関係で適期防除出来なかった園では発生量が増加した。	チャハマキとの同時防除
	チャハマキ	平年:並 前年:並	平年:やや少 前年:-	0	ほ場調査では平年よりやや少の発生であった。フェロモントラップ調査では、一部地域では第1世代から平年よりやや多く発生したところも見られた。	発生ピークのズレや摘採時期との関係で適期防除出来なかった園では発生量が増加した。	チャノカクモンハマキとの同時防除
	チャノホソガ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:-	711	ほ場調査では平年よりやや少の発生であった。フェロモントラップ調査では、一部地域では第1世代から平年よりやや多く発生したところも見られた。	発生ピークのズレや摘採時期との関係で適期防除出来なかった園では発生量が増加した。	三角葉巻前の防除
	カンザワハダニ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:-	1,045	越冬ダニは平年並の発生であった。3~4月まではやや多い発生となったが、それ以降は平年並となった。	梅雨時期の断続的な降雨により発生が抑制された。	適期防除
	チャノミドリヒメヨコバイ	平年:並 前年:並	平年:やや少 前年:-	977	年間を通して平年並~やや少の発生となった。	初期防除、適期防除の不徹底	二番茶・三番茶開花期と秋芽の防除。 チャノキイロアザミウマとの同時防除。
	チャノキイロアザミウマ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:-	1,087	平年並の発生で推移した。	梅雨時期の断続的な降雨により発生が抑制された。	二番茶・三番茶開花期と秋芽の防除。 チャノキイロアザミウマとの同時防除。
クワシロカイガラムシ	平年:やや遅い 前年:やや遅い	平年:少 前年:-	266	全体的に少ない発生で推移した。	梅雨時期の断続的な降雨により発生が抑制された。	孵化最盛期に合わせた防除の徹底	

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
平成27年産 冬春キュウリ H26.9～27.6. (栽培期間)	べと病	平年: やや遅い 前年: 並	平年: 多 前年: やや少	131	栽培初期の発生はなかったものの、12月以降発生面積・発生程度ともに徐々に拡大し作終了まで上昇傾向は継続した。	肥培管理及び湿度管理の不徹底 発生初期防除の不徹底 曇雨天等による発生の助長	薬剤による防除
	灰色かび病	平年: 遅い 前年: 遅い	平年: 少 前年: 少	0ha	栽培期間を通して発生は見られなかった。	早期防除の徹底 罹病残渣の早期除去	薬剤による防除 罹病果の持ち出し
	うどんこ病	平年: 早い 前年: 早い	平年: 並 前年: やや少	85ha	栽培当初から発生がみられ、12月にピークとなったが、年明け以降は発生面積率は減少した。	初期防除の不徹底 窒素質肥料の多用	薬剤による防除
	褐斑病	平年: 遅い 前年: 並	平年: やや少 前年: やや多	29ha	年明けから発生が散見されたが、栽培期間を通してやや少の発生となった。	湿度管理の不徹底 窒素質肥料の多用	初期防除の徹底 薬剤による防除
	ミナミキイロアザミウマ	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: やや少	154ha	黄化えそ病等ウイルス病の媒介虫対策として、定植時の粒剤施用が浸透してきたが徹底されていないほ場では定植直後から発生がみられた。年明け以降発生面積率が急激に増加したが、概ね平年並みの発生であった。	早期水稲準備等、労力不足による防除の不徹底	定植時の粒剤施用 薬剤のローテーション散布 防虫ネットの設置
	ハスモンヨトウ	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: やや多	12ha	栽培開始時にわずかに確認されたが、その後発生は確認されなくなった。	施設開放時の侵入防止対策等の不備	防虫ネットの設置 若齢期防除の実施
平成27年産 冬春ピーマン H26.9～27.6. (栽培期間)	モザイク病	平年: 遅い 前年: 並	平年: 並 前年: 並	0ha	栽培期間を通して発生は見られなかった。	早期抜根等の実施	土壌消毒の実施 抵抗性品種の導入 媒介昆虫の防除
	斑点病	平年: やや早い 前年: やや早い	平年: 並 前年: やや少	44ha	栽培当初の発生はなかったものの、11月以降は発生面積が増加したが、期間を通して平年並みの発生で推移した。	施設内湿度管理の不徹底	薬剤による防除 施設内湿度の適正管理 罹病葉の持ち出し
	うどんこ病	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: やや少	82ha	11月以降発生が見られ、期間を通して中～少発生ほ場が多かった。全体としては平年並みの発生となった。	初期防除の不徹底 窒素質肥料の多用	薬剤による防除
	灰色かび病	平年: 遅い 前年: 並	平年: 並 前年: 並	0ha	栽培期間を通して発生は見られなかった。	初期防除の徹底 罹病果の早期除去	薬剤による防除
	ミナミキイロアザミウマ	平年: 並 前年: 並	平年: やや少 前年: 少	78ha	11月以降発生が確認されその後増加傾向で推移したが、全体としてはやや少の発生となった。	天敵導入面積の拡大 天敵導入前防除の取り組み	防虫ネットの設置 薬剤による防除 生物農薬等の活用
平成27年産 冬春トマト H26.9～27.6 (栽培期間)	灰色かび病	平年: 遅い 前年: 遅い	平年: 少 前年: 少	18ha	年明けまでは発生がみられなかったが、2月以降曇雨天の影響で、発生面積・程度ともに増加傾向となった。栽培期間を通して平年より少発生で推移した。	施設内が感染好適条件になる機会が多かった 初期防除の不徹底や、作業遅れによる栽培環境の悪化	薬剤による防除
	葉かび病	平年: 遅い 前年: やや遅い	平年: 少 前年: 少	8ha	12月に初発生を確認したが、その後も平年より少発生で推移した	発生初期の対応の遅れや、作業遅れによる栽培環境の悪化	薬剤による防除 抵抗性品種の導入 罹病葉の持ち出し

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
	黄化葉巻病	平年:一 前年:並	平年:一 前年:やや多	2ha	定植後に発生株が散見されていたが、早期抜根処理を行っているためその後の発生は緩慢であった。3月に発生面積率が増加した。	育苗～定植初期におけるタバココナジラムの防除が不徹底	媒介昆虫の防除 罹病株の除去及び適正処分
	コナジラム類	平年:並 前年:並	平年:少 前年:やや少	53ha	定植直後から県内全域で発生が確認され11月にピークを迎えたが、その後はおおむね平年並みで推移した。	育苗～定植初期における防除が不徹底。目の細かい防虫ネットの設置が行われていないほ場については、野外からの侵入があった。	防虫ネットの設置 薬剤による防除 薬剤のローテーション散布
	ハモグリバエ類	平年:やや遅 前年:やや遅	平年:並 前年:やや少	4ha	11月に散発的な発生が確認されたものの、その後、栽培期間を通して発生が少なかった。	苗床での防除の不徹底 侵入防止対策の不備	初期防除の徹底 薬剤による防除
平成27年産 いちご H26.9～27.5 (栽培期間)	うどんこ病	平年:並 前年:並	平年:並 前年:やや多	20ha	定植直後から葉で発生が確認され11月には平年より多発生となった。年明けは果実を中心に発生が目立った。	親株床での防除の不徹底 初期防除の不徹底	薬剤による防除 初期防除の徹底 古葉、罹病葉の持ち出し
	灰色かび病	平年:遅い 前年:やや遅い	平年:少 前年:やや少	0ha	栽培期間を通して発生は見られなかった。	初期防除の徹底 罹病残渣の早期除去	薬剤による防除 罹病果の持ち出し
	炭疽病	平年:並 前年:並	平年:並 前年:やや少	3ha	定植直後は、発生ほ場が散見されたが、その後は発生が少なく、期間を通して平年並みで推移した。	親株の計画的な更新ができていない 育苗期間の防除が不徹底、健全株の選抜の不備	健全苗の選抜の徹底 罹病株及び周辺株の除去
	ハダニ類	平年:並 前年:並	平年:多 前年:やや多	51ha	定植直後から、平年より多発生となり、その後も増加傾向で推移した。栽培面積率、発生程度ともに過去10年で最も高い値となった。	初期防除の不徹底	薬剤による防除 早期発見によるスポット防除
	ハスモンヨトウ	平年:並 前年:並	平年:やや少 前年:やや少	7ha	栽培当初は県内各地でハスモンヨトウの寄生および被害が確認されていたが、その後は減少し、期間を通して平年よりやや少で推移した。	侵入防止対策の不備	薬剤による防除 防虫ネットの設置
平成27年産 秋冬ダイコン H26.9～ 26.12. (栽培期間)	萎黄病	平年:遅い 前年:並	平年:並 前年:並	0ha	栽培期間を通して発生は見られなかった。	初期防除の徹底 罹病果の早期除去	高温期の播種を避ける 連作を避ける
	軟腐病	平年:遅い 前年:並	平年:やや少 前年:やや少	0ha	栽培期間を通して発生は見られなかった。	初期防除の不徹底 罹病果の放置	排水を良くする
	コナガ	平年:遅い 前年:並	平年:やや少 前年:やや少	0ha	栽培期間を通して発生は見られなかった。	初期防除の不徹底	薬剤による防除
	ダイコンサルハムシ	平年:早い 前年:早い	平年:並 前年:少	266ha	10月の調査開始時点から発生が散見されたが、全体としては平年並みであった。	初期防除の不徹底	薬剤による防除

## (2) 発生面積及び防除面積等

農作物名	作付面積 (ha)	病虫害名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生 面積(ha)	備考
			甚	多	中	少		実	延			
早期水稲	7,090	苗立枯病	0	0	0	0	0	(同) 7,019	(同) 7,019	0	0	
		苗いもち	0	0	0	0	0	(同) 6,523	(同) 6,523	0	0	
		葉いもち	0	220	1,333	3,765	5,318	(同) 6,523	(同) 13,046	1,553	2,018	
		穂いもち	0	0	0	3,992	3,992	(同) 6,523	(同) 13,046	0	1,333	
		紋枯病	0	0	0	886	886	(同) 3,191	(同) 3,191	0	3,037	
		白葉枯病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		ばか苗病	0	0	0	0	0	(同) 6,381	(同) 6,381	0	0	
		心枯線虫病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		〃 (種)	0	0	0	0	0	(同) 7,019	(同) 7,019	0		
		ごま葉枯病	0	0	0	666	666	0	0	0	195	
		黄化萎縮病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		縞葉枯病	0	0	0	0	0	0	567	567	0	0
		萎縮病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		黄萎病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		もみ枯細菌病	0	0	0	3,325	3,325	0	0	0	0	
		〃 (種)	0	0	0	0	0	(同) 7,019	(同) 7,019	0		
		内穎褐変病	0	0	0	3,992	3,992	-	-	0	4,839	
		稲こうじ病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		ニカメイチュウ第1世代	0	0	0	1,329	1,329	0	0	0	0	
		ニカメイチュウ第2世代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
セジロウンカ	0	0	0	6,204	6,204	(同) 567	(同) 567	0	6,162			
トビイロウンカ	0	0	0	0	0	(同) 567	(同) 567	0	166			
ヒメトビウンカ	0	220	1,106	5,318	6,644	(同) 567	(同) 567	1,326	7,098			

農作物名	作付面積 (ha)	病虫害名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生 面積(ha)	備考
			甚	多	中	少		実	延			
		ツマグロヨコバイ	0	0	0	4,651	4,651	(同) 567	(同) 567	0	5,493	
		イネハモク`リハ`エ	0	0	0	0	0	0	0	0		
		イネヒメハモク`リハ`エ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		イネドロオイムシ	0	0	0	0	0	(同) 1,205	(同) 1,205	0		
		イネゾウムシ	0	0	0	666	666	(同) 1,205	(同) 1,205	0	590	
		斑点米カメムシ類	0	0	0	2,219	2,219	(同) 1,205	(同) 4,254	0	3,138	
		イネツトムシ	0	0	0	1,773	1,773	0	0	0		
		フタオビコヤガ	0	0	0	1,773	1,773	0	0	0		
		イネヨトウ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		アワヨトウ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		コブノメイガ	0	0	0	447	447	0	0	0	1,812	
		イネミズゾウムシ	0	0	0	5,764	5,764	(同) 1,205	(同) 1,205	0	5,659	
		スクミリンゴガイ	0	0	447	1,106	1,553	(同) 567	(同) 567	447	2,647	
普通期水稻	10,200	苗立枯病	0	0	0	0	0	(同) 9,180	(同) 9,180	0	0	
		苗いもち	0	0	0	0	0	(同) 9,180	(同) 9,180	0	0	
		葉いもち	0	0	2,295	5,355	7,650	(同) 9,180	(同) 10,098	2,295	5,791	
		穂いもち	0	0	0	5,865	5,865	(同) 9,180	(同) 9,384	0	5,916	
		紋枯病	0	0	0	765	765	(同) 7,140	(同) 7,140	0	6,391	
		白葉枯病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		ばか苗病	0	0	0	0	0	(同) 9,180	(同) 9,180	0	0	
		心枯線虫病	0	0	0	0	-			0	0	
		“(種)”	0	0	0	0	0	(同) 9,180	(同) 9,180	0		
		ごま葉枯病	0	0	2,550	4,845	7,395	(同) 0	(同) 0	2,550	1,860	
		黄化萎縮病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		縞葉枯病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		萎縮病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

農作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生面積(ha)	備考
			甚	多	中	少		実	延			
		黄 萎 病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		もみ枯細菌病	0	0	0	0	0	(同) 0	(同) 0	0	3,085	
		〃 (種)	0	0	0	0	0	(同) 9,180	(同) 9,180	0		
		内 穎 褐 変 病	0	0	0	6,630	6,630	0	0	0	6,991	
		稲 こうじ 病	255	255	0	255	765	(同) 0	(同) 0	510	1,510	
		ニカメイチュウ第1世代	0	0	0	0	0	(同) 4,896	(同) 4,896	0		
		ニカメイチュウ第2世代	0	0	0	0	0	(同) 0	(同) 0	0		
		セジロウンカ	255	0	1,275	8,415	9,945	(同) 10,098	(同) 25,500	1,530	11,414	
		トビイロウンカ	0	0	0	4,080	4,080	(同) 10,098	(同) 25,500	0	8,370	
		ヒメトビウンカ	0	1,275	2,295	5,355	8,925	(同) 10,098	(同) 25,500	3,570	9,843	
		ツマグロヨコバイ	0	0	2,040	6,120	8,160	(同) 10,098	(同) 25,500	2,040	8,451	
		イネハモク`リハ`エ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		イネヒメハモク`リハ`エ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		イネドロオイムシ	0	0	0	0	0	(同) 1,734	(同) 1,734	0		
		イネゾウムシ	0	0	0	0	0	(同) 1,734	(同) 1,734	0		
		斑点米カメムシ類	0	0	2,040	2,805	4,845	(同) 5,202	(同) 6,120	2,040	4,343	
		イネツトムシ	0	0	0	510	510	0	0	0		
		フタオビコヤガ	0	0	0	1,020	1,020	0	0	0		
		イネヨトウ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		アワヨトウ	0	0	0	255	255	0	0	0	0	
		コブノメイガ	0	0	0	3,060	3,060	(同) 8,160	(同) 8,262	0	7,439	
		イネミズゾウムシ	0	0	0	1,132	1,132	(同) 1,734	(同) 1,734	0	0	
		スクミリンゴガイ	0	0	286	1,418	1,704	(同) 1,938	(同) 1,938	286	2,710	
大豆	254	紫 斑 病	0	0	64	64	127	0	0	64	50	
		さ び 病	0	0	0	32	32	0	0	0	32	



農作物名	作付面積 (ha)	病虫害名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生 面積(ha)	備考	
			甚	多	中	少		実	延				
		立 枯 性 病 害	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		べ と 病	0	0	0	254	254	0	0	0	290		
		葉 焼 病	0	0	0	0	0	0	0	0	20		
		モ ザ イ ク 病	0	0	0	0	0	0	0	0	9		
		ア ブ ラ ム シ 病	0	0	0	0	0	(同)	178	(同)	267	0	32
		コ ガ ネ ム シ 類	0	0	0	229	229	(同)	178	(同)	267	0	252
		ハ ス モ ン ヨ ト ウ	0	0	102	152	254	(同)	178	(同)	267	102	319
		ハ ダ ニ 類	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		タ`イス`サヤタマハ`エ	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		マメヒメサヤムシカ`	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		マメシンクイガ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25	
		シロイチモシ`マタ`ラメイガ`	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	
		カ メ ム シ 類	0	0	76	102	178	(同)	178	(同)	178	76	148
		ウ コ ン ノ メ イ ガ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
さつまいも	3,440	ナ カ ジ ロ シ タ バ	2294	573	573	0	3,440	(同)	2,752	(同)	5,710	3,440	2,519
		ハ ス モ ン ヨ ト ウ	2294	573	573	0	3,440	(同)	2,752	(同)	5,710	3,440	2,519
		イ モ コ ガ	287	287	0	860	1,434	(同)	2,752	(同)	5,710	574	1,949
じゃがいも	524	疫 病	0	0	0	100	100	(同)	314	(同)	645	0	138
		ア ブ ラ ム シ 類	0	0	0	472	472	(同)	314	(同)	645	0	192
		ニシ`ユウヤホシテントウ	0	0	0	210	210	(同)	314	(同)	645	0	106
かんきつ	1,406	そうか病(春葉)	0	0	0	0	0	984	2,953	0	120		
		温州	0	0	0	0	0	984	2,953	0	269		
	742	黒点病(果実)	0	79	391	547	1,017	984	2,953	470	971		
		晩柑	0	0	0	312	312	984	984	0	426		
	664	かいよう病(果実)	0	0	0	0	312	984	984	0	334		
		日焼け炭疽病	0	0	0	0	0	0	0	0	208		
		ミカ`ン`ハ`ダ`ニ	0	83	0	662	745	(同)	1,406	4,921	83	833	

農作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生 面積(ha)	備考
			甚	多	中	少		実	延			
		ミカンサビダニ	0	0	0	0	0	(同) 1,406	(同) 4,921	0	4	
		チャノキイロアサミウマ	0	0	0	79	79	1,265	3,796	0	122	
		ミカンハモグリガ	0	0	0	156	156	156	234	0	839	
		アブラムシ類	0	79	0	156	235	235	235	79	425	
		カメムシ類	0	0	41	366	407	407	813	41	499	
茶	1,510	炭疽病	0	0	95	755	850	1,510	5,285	95	1,049	
		もち病	0	0	0	355	355	(同) 1,510	(同) 1,510	0	245	
		網もち病	0	0	0	0	0	(同) 1,510	(同) 5,285	0	0	
		輪斑病	0	0	0	473	473	1,510	3,020	0	361	
		チャノコカクモンハマキ	0	0	0	0	0	(同) 1,510	(同) 5,285	0	69	
		チャハマキ	0	0	0	0	0	(同) 1,510	(同) 5,285	0	131	
		チャノホソガ	0	0	89	622	711	(同) 1,510	(同) 5,285	89	928	
		カンザワハダニ	0	0	233	812	1,045	1,510	3,775	233	1,026	
		チャノミトリヒメヨコハ`イ	89	0	0	888	977	(同) 1,510	(同) 5,285	89	1,101	
		チャノキイロアサミウマ	0	0	91	996	1,087	(同) 1,510	(同) 5,285	91	1,171	
		クロシロカイカ`ラムシ	91	91	182	0	364	364	546	364	866	
カスミカメ類	0	0	0	465	465	465	465	0	631			
冬春キュウリ (H26.9 ~H27.6)	341	べと病	6	19	21	85	131	324	1,620	45	150	
		炭そ病	0	0	0	0	0	143	286	0	1	
		疫病	0	0	0	0	0	136	136	0	0	
		灰色かび病	0	0	0	0	0	136	136	0	10	
		うどんこ病	0	6	3	76	85	341	1,364	8	114	
		褐斑病	0	0	3	26	29	324	1,944	27	77	
		斑点細菌病	0	0	0	0	0	85	171	0	3	
		モザイク病	0	0	0	0	0	0	0	0	4	
		ミナミキイロアザミウマ	7	3	17	127	154	324	1,944	27	157	
アブラムシ類	0	0	0	0	0	136	136	0	3			

農作物名	作付面積 (ha)	病虫害名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生 面積(ha)	備考
			甚	多	中	少		実	延			
冬春ピーマン (H26.9 ~H27.6)	202	疫 病	0	0	0	0	0	85	85	0	0	
		斑 点 病	0	0	2	42	44	162	646	2	55	
		斑 点 細 菌 病	0	0	0	0	0	40	40	0	0	
		う ど ん こ 病	0	0	20	62	82	178	533	20	100	
		灰 色 か び 病	0	0	0	0	0	51	101	0	3	
		モ ザ イ ク 病	0	0	0	0	0	0	0	0	5	
		ア ブ ラ ム シ 類	0	2	0	7	9	101	202	2	7	
		タ バ コ ガ	0	0	0	2	2	111	222	0	0	
		ミナミキイロアザミウマ	0	0	2	76	78	196	1,372	2	103	
		ヒラズハナアザミウマ	2.2	16	31	53	102	196	1,372	49	63	
冬春トマト (H26.9 ~H27.6)	128	疫 病	0	0	2	9	11	96	384	2	2	
		灰 色 か び 病	0	0	2	9	18	96	384	0	23	
		葉 か び 病	0	0	0	8	8	96	269	0	19	
		コ ナ ジ ラ ミ 類	0	2	4	47	53	128	896	6	57	
		ハ モ グ リ バ エ 類	0	0	0	4	4	105	210	0	16	
		モ ザ イ ク 病	0	0	0	0	0	115	230	0	0	
		ア ブ ラ ム シ 類	0	0	0	2	2	58	115	0	1	
		ハ ス モ ン ヨ ト ウ	0	0	2	26	28	58	115	2	12	
冬春イチゴ (H26.9 ~H27.5)	67	灰 色 か び 病	0	0	0	0	0	59	118	0	5	
		う ど ん こ 病	0	4	3	13	20	67	134	7	27	
		炭 そ 病	0	0	1	2	3	17	34	1	8	
		ア ブ ラ ム シ 類	1	1	1	25	28	67	201	3	26	
		ハ ダ ニ 類	5	8	10	28	51	67	268	23	41	
		ハ ス モ ン ヨ ト ウ	0	0	0	7	7	67	134	0	13	
秋冬ダイコン (H26.10 ~12)	1,332	モ ザ イ ク 病	0	0	0	0	0	0	0	0	420	
		ア ブ ラ ム シ 類	0	0	133	799	932	826	826	133	631	
		キスジノミハムシ	0	0	0	266	266	266	266	0	68	

9) 有害動植物発生予察事業実施状況

(1) 発表情報一覧(警報、注意報、特殊報、防除情報)

情報の種類	番号	発令月日	対象作物	対象病虫害	情報内容
注意報	1号	5月28日	茶	炭疽病	次ページ以降を参照
	2号	6月18日	早期水稲	いもち病	
	3号	8月3日	普通期水稲	いもち病	
	4号	12月1日	イチゴ	ハダニ類	
防除情報	1号	6月3日	施設野菜(きゅうり、ピーマン、トマト、イチゴ)	アザミウマ類、コナジラミ類、アブラムシ類、ハダニ類、キュウリ黄化えそ病、つる枯病、土壌病虫害	
	2号	6月3日	イチゴ(親株床)	炭疽病、ハダニ類、アブラムシ類	
	3号	6月3日	茶	チャノミドリヒメヨコバイ	
	4号	6月12日	早期水稲	斑点米カメムシ類	
	5号	7月27日	果樹全般	果樹カメムシ類(チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ)	
	6号	7月27日	かんきつ	黒点病	
	7号	7月27日	茶	輪斑病	
	8号	10月2日	野菜・花き類全般	ハスモンヨトウ	
	9号	10月29日	イチゴ	ハダニ類	
	10号	11月20日	かんきつ	黒点病	
	11号	2月2日	イチゴ	うどんこ病	
	12号	3月1日	イチゴ	うどんこ病	

(2)情報の内容

◎ 注意報第1号（発令月日：平成27年5月28日）

病害虫名 炭疽病

作物名 茶

1 発生地域 県下全域

2 発生量 やや多～多

3 発生状況と注意報の根拠

- 1) 平成27年5月中旬の巡回調査の結果、発生面積率 38.5%は平年（13.4%）に比べやや多、1㎡当り病葉数 3.9枚は平年（0.4枚）に比べて多である。
- 2) 本年は4月に降水量が多く、平均気温も高かったことから、一番茶新葉への感染が起りやすい気象条件であった。
- 3) 今後、梅雨期に入ると二・三番茶期に発病が増加し、被害の拡大が懸念される。

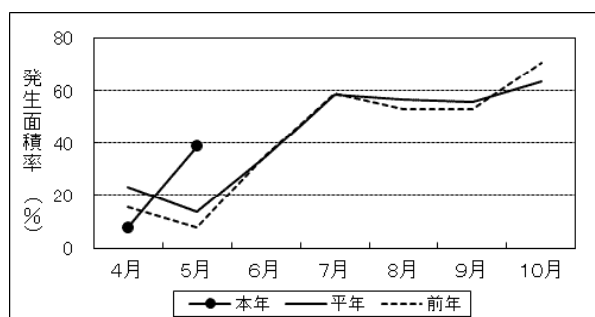


図1 発生面積率の推移

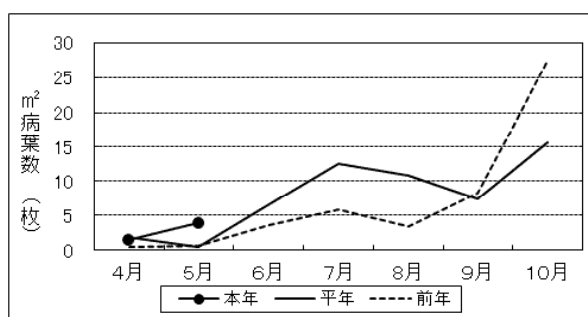


図2 ㎡当り病葉数の推移

4 防除上の注意

- 1) 本病は前茶期の病葉が伝染源となるため、前茶期に発生が多かった茶園では発生が多くなる傾向がある。また病原菌は雨によって飛散するため、降雨が多い場合は注意が必要である。
- 2) 本病は開葉して間もない柔らかい新葉に感染するので、二・三番茶および秋芽の萌芽期～開葉期に重点的に防除する。
- 3) 多発状態の続く茶園ではせん枝により伝染源を除去する。
- 4) 品種により本病への抵抗性に差があるため、「やぶきた」、「おくみどり」、「さやまかおり」など本病に弱い品種は特に注意する。
- 5) 薬剤耐性菌の発生を防ぐため、同一薬剤の連用を避ける。

5 その他

- 1) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場茶業支場、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- 2) 6月1日から8月31日の3ヶ月間、農薬危害防止運動を実施します。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

◎ 注意報第2号（発令月日：平成27年6月18日）

病虫害名 いもち病（穂いもち）

作物名 早期水稻

1 発生地域 県下全域

2 発生量 やや多～多

3 発生状況と注意報の根拠

- 1) 6月中旬の巡回調査における葉いもちの発生面積率は46.9%（平年10.2%）、発病度は5.8（平年0.4）で、いずれも過去10年間と比べ最も多い発生である（表1、図1、図2）。「ずり込み症状」は一部のは場でしか見られないが、止葉や次葉に発生した葉いもち病斑は穂いもちの主要な伝染源となるため、出穂後の穂への感染が懸念される。
- 2) 水稻生育は天候不順の影響で全体的に軟弱徒長気味に推移しており、本病の発病に注意が必要である。
- 3) 向こう1か月の天候は、平年に比べて曇りや雨の日が多く、気温は平年並が40%、高い確率が30%と予想されている（鹿児島地方気象台6月11日発表1か月予報）ことから、病徴の進展に好適な条件である。
- 4) アメダスデータを利用した葉いもち発生予測モデル（BLASTAM）によると、5月から6月にかけて県内各地で感染好適日が出現しており、今後も発生の拡大が予想される（表2）。

表1 6月中旬の葉いもち発生状況

区分	調査地点数	程度別発生面積率 (%)				発生面積率 (%)	発病度
		甚	多	中	少		
全県	32	0.0	0.0	15.6	31.3	46.9 (10.2)	5.81 (0.35)

※( )内は平年値

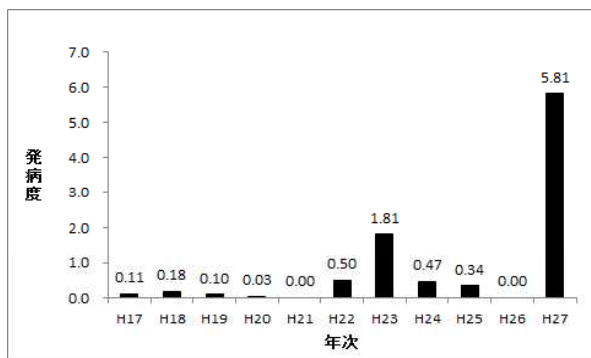
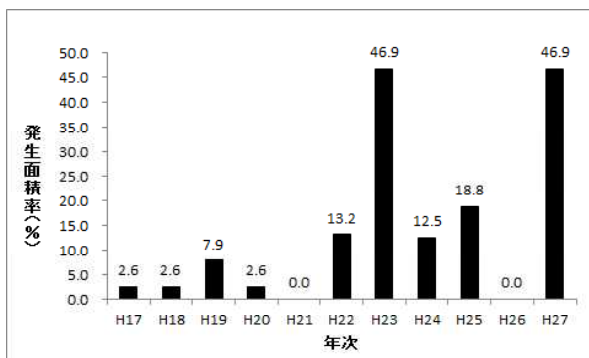


表2 5月下旬～6月中旬のBLASTAM判定結果

発生指標	?:判定不能			-:好適条件なし			1:準好適条件1			2:準好適条件2			3:準好適条件3			4:準好適条件4			●:好適条件							
	5/21	5/22	5/23	5/24	5/25	5/26	5/27	5/28	5/29	5/30	5/31	6/1	6/2	6/3	6/4	6/5	6/6	6/7	6/8	6/9	6/10	6/11	6/12	6/13	6/14	6/15
古江	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	●	-	●	-	-
日向	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	1	-	●	-	●	-	●	-
高鍋	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	?	-	-	-	-	-
西都	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-
宮崎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青島	-	-	-	●	-	-	-	-	●	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
赤江	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
油津2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-
串間	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-

※最新の情報は <http://www.jpnp.ne.jp/miyazaki/800/300/suitou/h27/blastam201506.htm> を参照

#### 4 防除上の注意

- 1) 穂いもちを対象に、穂ばらみ後期と穂揃期の2回防除を徹底する。
- 2) 田植え時の育苗箱処理や本田での粒剤処理を行った水田においても、葉いもちの発生が多く、上位葉に進展している場合は、穂揃期の7～10日後に追加防除を行う。
- 3) 雨の多い時は雨間散布を行い、防除適期を失しないようにする。
- 4) 無人ヘリ防除が行われない地域は広域の集団一斉防除に努め、防除効率を高める。

#### 5 その他

- 1) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- 2) 6月1日から8月31日の3か月間、農薬危害防止運動を実施します。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

#### ◎ 注意報第3号（発令月日：平成27年 8月3日）

病害虫名 いもち病（葉いもち、穂いもち）

作物名 普通期水稻

- 1 発生地域 県下全域
- 2 発生程度 やや多～多
- 3 注意報の根拠

- 1) 7月中旬の巡回調査における葉いもちの発生面積率は15.0%（平年7.8%）、発病度は1.2（平年0.8）で、いずれも平年に比べてやや多の発生であり、発病株率は3.9%（平年1.0%）で平年に比べて多の発生である（図1, 2）。
- 2) 7月下旬の巡回調査における葉いもちの発生面積率は50.0%（平年34.6%）で、過去10年間と比べて最も多い発生である。また、発病度は4.5（平年4.0）、発病株率は17.1%（平年12.1%）となっており、短期間に病勢が進展している（表1、図1, 2）。特に県北部の中山間地域で発生が多い。
- 3) 生育は6月から7月にかけての日照不足の影響で全体的に軟弱徒長気味に推移しており、本病の発病に注意が必要である。

4) アメダスデータを利用した葉いもち病発生予測モデル (BLASTAM) によると、7月には県内各地で感染好適日が複数回出現しており、今後も発生の拡大が予想される (表2)。

表1 7月下旬の巡回調査における葉いもちの発生状況

区分	調査 地点数	程度別発生面積率 (%)				発生面積率 (%)	発病度	発病株率 (%)
		甚	多	中	少			
東諸県	4	0.0	0.0	0.0	75.0	75.0(16.3)	1.5( 0.8)<0- 3.0>	6.0( 3.0)<0- 12.0>
北諸県	10	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0(16.0)	0.2( 0.6)<0- 1.0>	0.8( 2.4)<0- 4.0>
西諸県	8	0.0	0.0	0.0	12.5	12.5(30.0)	0.4( 0.9)<0- 3.0>	1.5( 3.4)<0- 12.0>
東白杵	10	0.0	0.0	30.0	50.0	80.0(67.0)	11.4(11.4)<0-30.0>	42.0(33.0)<0-100.0>
西白杵	8	0.0	0.0	12.5	75.0	87.5(58.3)	6.9( 5.0)<0-25.0>	27.5(18.8)<0-100.0>
全県	40	0.0	0.0	10.0	40.0	50.0(34.6)	4.5( 4.0)<0-30.0>	17.1(12.1)<0-100.0>
H23	40	0.0	6.3	0.0	31.3	37.5( - )	5.2( - )<0-55.0>	13.0( - )<0-100.0>

※ ( ) 内は平年値 (H17-26)、ただし、西白杵は過去3年間 (H24-H26) の平均値

※ < >内は最小値と最大値の幅

※ H23は普通期水稻におけるいもち病の多発年 (H23.8.10 注意報発表)

#### 4 防除上の注意

- 1) 気温の上昇に伴い、葉いもちの発生は一時的に高温抑制されるが、穂いもちを対象に穂ばらみ後期と穂揃期の防除を徹底する。
- 2) 葉いもちが上位葉に発生している場合や、出穂期及びその後も降雨が続いて穂いもちの発生が予想される場合は、穂揃期の7~10日後に追加防除を行う。
- 3) 雨の多い時は雨間散布を行い、防除適期を失しないようにする。
- 4) 同一系統の薬剤の連用は薬剤耐性菌の発生を助長することから、作用機構の異なる薬剤をローテーションで使用する。
- 5) 県内の一部地域ではストロビルリン系殺菌剤 (以下、QoI 剤) に対する感受性の低下したいもち病菌の発生が確認されているため、QoI 剤の使用は年1回にとどめ、感受性の低下を助長しないように注意する。

#### 5 その他

- 1) その他詳細については、西白杵支庁・各農林振興局 (農業改良普及センター)、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- 2) 6月1日から8月31日の3か月間、農薬危害防止運動を実施しています。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

◎ 注意報第4号 (発令月日:平成27年12月1日)

病害虫名           ハダニ類  
作物名               イチゴ



- 1 発生地域 県下全域
- 2 発生時期 収穫期
- 3 発生量 多
- 4 注意報の根拠

1) 11月中旬におけるハダニ類の巡回調査の結果は、次の通りであった。

発生面積率：92.3%（前年 61.6%、平年 45.8%） 平年より多

寄生株率：27.7%（前年 20.8%、平年 12.5%） 平年より多

葉当たり虫数：4.6頭（前年 5.7頭、平年 2.1頭） 平年よりやや多

同時期で見ると、発生面積率は過去10年で1番目に、寄生株率および葉当たり虫数は2番目に高くなっている（図1～4）。

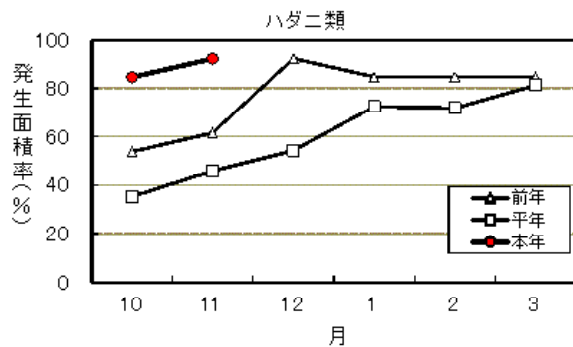


図1 発生面積率の推移

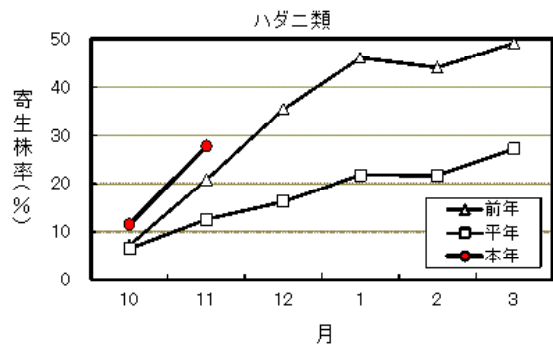


図2 寄生株率の推移

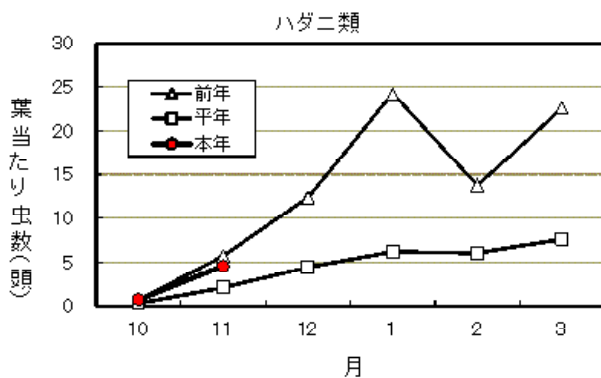


図3 葉当たり虫数の推移

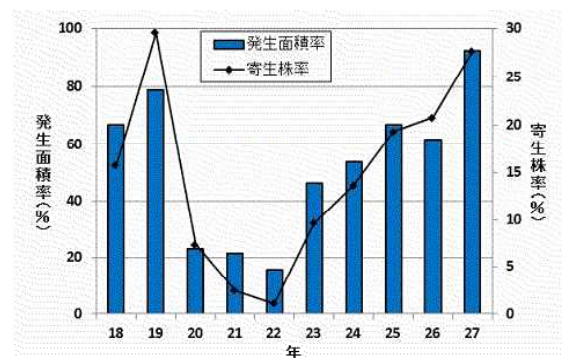


図4 過去10年における発生推移

注) いずれの年も調査期間は11月中旬

## 5 防除上の注意

- 1) 発生初期はスポット的に寄生しているので、収穫や摘葉などの作業時に注意深く発生の有無を観察し、発生を見つけた場合は、見失わないようにマークし必ず散布する。発生場所の周囲は葉裏の発生状況を確認するなどして、漏れがないように防除を行う。
- 2) 急激に個体数が増加するため、初発生を認めたら直ちに防除を行い、5～7日間隔で連続して防除する。
- 3) ハダニ類の卵や虫体は糸で覆われ、散布薬液がはじかれるため、展着剤もしくは粘着性の高い気門封鎖型薬剤を活用する。
- 4) 下葉の裏に多く寄生しているので、不要な下葉を除去した後、薬剤が葉裏まで十分にかかるように丁寧に散布する。除去した茎葉はできるだけすみやかにほ場外へ持ち出し、

- ほ場内への分散防止に努める。持ち出した茎葉は、ほ場近くに放置せず適切に処分する。
- 5) 有効な薬剤に対する抵抗性の発現を回避する観点から同一系統薬剤の連用は避け、異なる系統の薬剤のローテーション散布に努める。
  - 6) 主要な防除薬剤に対する感受性が低下した個体群が確認されていることから、抵抗性発現の可能性が低い気門封鎖型薬剤の使用、天敵の活用を図る。
  - 7) 農薬の選定に当たっては、天敵およびミツバチへの影響について十分に注意する。

## 6 その他

- 1) 農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。
- 2) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

## ◎ 防除情報第1号（発令月日：平成27年6月3日）

**栽培終了時の蒸し込みと残さ処理を適切に行い、次期作付のための病害虫対策を徹底しましょう。**

- 1 作物名 施設野菜（きゅうり、ピーマン、トマト、イチゴ）
- 2 病害虫名 アザミウマ類、コナジラミ類、アブラムシ類、ハダニ類、  
キュウリ黄化えそ病、つる枯病、土壌病害虫

### 3 発生状況（経過）

#### 1) アザミウマ類

4月の巡回調査の結果は以下の通りであった。

##### (1) 冬春きゅうり

・ミナミキイロアザミウマ

発生面積率：85.7%（前年79.9%、平年64.4%） 平年より多

100葉当たり虫数：106.4頭（前年224.7頭、平年204.2頭） 平年並

ミナミキイロアザミウマは、キュウリ黄化えそ病の原因ウイルスの媒介虫であり、保毒虫が施設外に拡散すると露地栽培きゅうりやその後続く施設栽培で病気の蔓延を引き起こすことが懸念される。

##### (2) 冬春ピーマン

・ミナミキイロアザミウマ

発生面積率：38.5%（前年61.5%、平年61.1%） 平年よりやや少

10花当たり虫数：1.0頭（前年3.8頭、平年2.3頭） 平年よりやや少

・ヒラズハナアザミウマ

発生面積率：61.6%（前年69.3%、平年40.9%） 平年よりやや多

10花当たり虫数：6.9頭（前年22.4頭、平年13.2頭） 平年並

#### 2) タバココナジラミ類

4月の巡回調査の結果は以下の通りであった。

(1) 冬春きゅうり

発生面積率：14.3%（前年 53.3 %、平年 27.1 %） 平年よりやや少

100 葉虫数：1.5 頭（前年 1.5 頭、平年 1.9 頭） 平年よりやや少

(2) 冬春トマト

発生面積率：33.3 %（前年 40.0 %、平年 38.0 %） 平年並

100 葉当たり虫数：6.2 頭（前年 2.8 頭、平年 5.1 頭） 平年よりやや多

タバココナジラミ類（バイオタイプQ）は、トマト黄化葉巻病の原因ウイルスの媒介虫であり、保毒虫が施設外に拡散すると露地栽培トマトやその後続く施設栽培で病気の蔓延を引き起こすことが懸念される。

3) アブラムシ類

巡回調査の結果は以下の通りであった。

(1) 冬春ピーマン（4月調査）

発生面積率：0.0 %（前年 0.0 %、平年 7.1 %） 平年並

50 芯当たり虫数：0.0 頭（前年 0.0 %頭、平年 1.9 頭） 平年並

(2) イチゴ（3月調査）

発生面積率：38.5 %（前年 15.4 %、平年 29.1 %） 平年よりやや多

寄生株率：4.3 %（前年 2.3 %、平年 2.6 %） 平年よりやや多

4) ハダニ類

3月のイチゴにおける巡回調査の結果は以下のとおりであった。

発生面積率：84.7 %（前年 84.7 %、平年 76.9 %） 平年並

寄生株率：49.1 %（前年 33.2 %、平年 23.4 %） 平年より多

5) キュウリ黄化えそ病（MYSV）

4月の巡回調査の結果は以下のとおりであった。

発生面積率：14.3 %（前年 46.7 %、前々年 0.0 %） 過去5カ年間で2番目に多い

発病株率：1.5 %（前年 0.3 %、前々年 0.0 %） 過去5カ年間で1番目に多い

6) つる枯病

4月のきゅうりにおける巡回調査の結果は以下のとおりであった。

発生面積率：7.1 %（前年 20.0 %、平年 7.2 %） 平年並

発病株率：0.7 %（前年 1.3 %、平年 0.2 %） 平年よりやや多

#### 4 防除上の注意

1) アザミウマ類、コナジラミ類、アブラムシ類、ハダニ類

① いずれの害虫も薬剤感受性の低下が報告されるなど、栽培期間中の防除が困難となってきたことから、次作での発生を抑制するためには、栽培終了時の施設外への飛散を抑制することが重要である。

② 栽培終了時には、施設を密閉し蒸し込みによる害虫の死滅を図り、病虫害の拡散防止を徹底する。具体的には、栽培終了後、植物及び雑草は株を抜根し、すぐに施設を密閉して蒸し込みを行う。蒸し込み期間は蛹が羽化する期間も考慮して、少なくとも10日間以上を確保する。

③ ほ場周辺やほ場内の雑草は害虫の発生・増殖源となるので、ハウス内外、栽培地周辺の除草を徹底する（ハウス内の雑草や枯れていない残さは害虫の生き残り場所になるので徹底した除草が必要である）。

④ 次期の作付に当たっては、育苗期から防除（粒剤施用など含む）を徹底し、本ほハウスには防虫ネットや抑草シート、光反射資材を設置し、害虫の苗からの持ち込みや外からの飛び込みを防止する。

## 2) 黄化えそ病（MYSV）

① 次期作に向け、周辺にウイルスを拡散させないために、栽培終了時には必ず防除と蒸し込みを行い、生き残ったミナミキイロアザミウマを餓死させる。具体的には、まずミナミキイロアザミウマの防除を行ってから株を抜根した上で、施設を密閉して20日間蒸し込む。

## 3) つる枯病

① 次作に残る病原菌は、土壌中のみではなく、資材へも多数付着しており、特にマルチやダクト、灌水チューブ等には多数の病原菌が付着しているため、なるべく新しいものを使用する。支柱など古い資材を使用する場合は、被害残渣を取り除き、適切に消毒を行い使用する。

## 4) 土壌病害虫

① 作物残さを施設外に持ち出し、埋却処理など、適切に処分する必要がある。ピーマン立枯病（ネクトリア）やトマト立枯病などは、病気が感染した葉や果実などでも病原菌が増殖し、土壌中で生き残るため、葉や果実などの地上部残さも施設外に持ち出し、適切に処分する。

② トマトの線虫抵抗性台木を使用したほ場でもネコブセンチュウの被害が確認されていることから、線虫が寄生している根などはほ場内に残さないようにする。

③ 残さ処理の終わったほ場は、改良太陽熱消毒法などによりほ場の隅々まで土壌消毒を行う。天候不順などで、改良太陽熱消毒法の防除効果が十分に望めない時は、薬剤による土壌消毒を実施する。次期作付けに当たっては、健全種子及び苗を確保するとともに土作りを十分に行い、適正な栽培管理に努める。また、秋口の高温により発病が助長される土壌病害もあることから、極端な早植えは避ける。

④ 土壌病害が発生したほ場で、くん蒸剤などの土壌消毒剤を使用する場合は、残さを分解させた後に処理することで高い防除効果が得られる。

⑤ 施設内で使用した資材・農機具などについても消毒を行うなど、徹底して病原菌や線虫など土壌病害虫の密度を減らすことが重要である。

## 5 その他

1) その他詳細については、西白杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病虫害防除・肥料検査センターなど関係機関に照会してください。

2) 6月1日から8月31日までの3か月間、農薬危害防止運動を実施します。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

◎ 防除情報第2号（発令月日：平成27年6月3日）

## イチゴの親株や育苗床の病害虫対策を徹底しましょう。

1 作物名 イチゴ（親株床）

2 病害虫名 炭疽病、ハダニ類、アブラムシ類

### 3 発生状況（経過）

4月下旬から5月中旬にかけての巡回調査の結果は、次の通りであった。

#### 1) 炭疽病（簡易検定による潜在感染状況調査）

感染ほ場率：36.4%（前年25.0%、前々年63.7%）過去10年間で5番目に高い。

潜在感染株率：6.4%（前年6.7%、前々年11.8%）過去10年間で7番目に高い。

#### 2) ハダニ類

発生面積率：83.3%（前年75.0%、前々年81.8%）過去10年間で1番目に高い。

寄生株率：36.0%（前年14.2%、前々年14.0%）過去10年間で1番目に高い。

#### 3) アブラムシ類

発生面積率：58.3%（前年75.0%、前々年72.8%）で過去10年間で6番目に高い。

寄生株率：8.3%（前年20.3%、前々年19.6%）で過去10年間で6番目に高い。

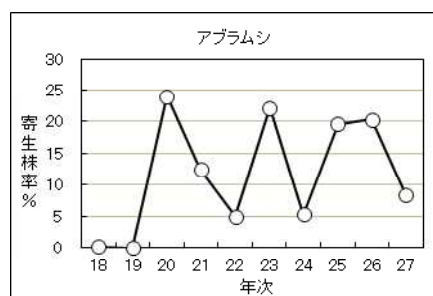
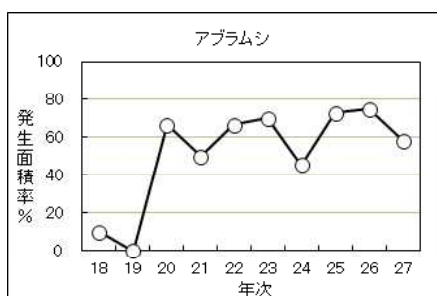
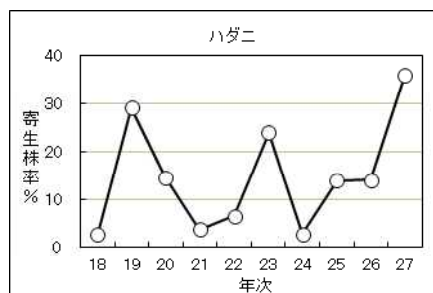
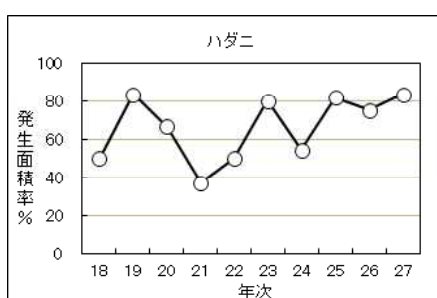
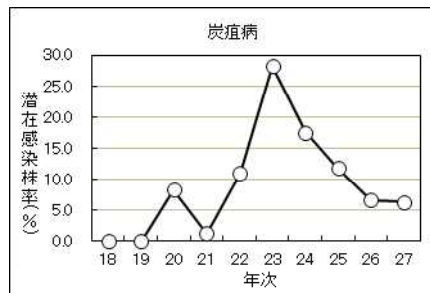
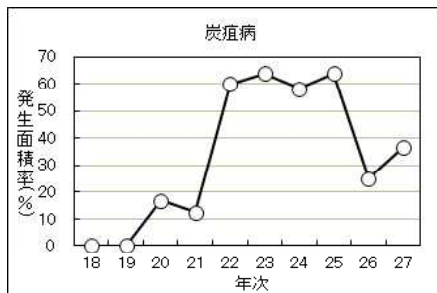


図1 親株床での病害虫の年次別発生状況

## 4 防除上の注意

### 1) 炭疽病

(1) 親株における本病の検定に努める。感染が確認された株は、病原菌が拡散する恐れがあるため、速やかに苗床や栽培ほ場から持ち出し、できるだけ離れた場所に埋却する等適切に処分する。感染株に隣接した株も感染の恐れが高いため、あわせて廃棄処分する。

※本病の簡易検定方法については、宮崎県農薬安全使用啓発ホームページ

(<http://nouyaku-tekisei.pref.miyazaki.lg.jp/nouyaku/user/haishinfile/list/miyazaki>)を参照。

(2) 検定結果が陰性であった株でも、その後に感染することが十分に考えられるため、育苗ほ場をこまめに見回り、早期発見に努める。

(3) 降雨、台風の前や摘葉後には薬剤散布を徹底する。なお、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

(4) 窒素過多などで軟弱な株は発病しやすくなるため適正な施肥に努める。

(5) 感染株の発生に備え、予備苗を十分に確保するよう努める。

(6) 定期的に、健全な親株への更新を行う。

### 2) アブラムシ類、ハダニ類

(1) アブラムシ類、ハダニ類は、いずれも急激に個体数を増加させる害虫であるため、発生初期のうちに、散布間隔を短くして集中的に防除することが重要である。また、ハダニ類は発生初期はスポット的に寄生しているので、葉裏を中心にほ場全体を注意深く観察する。

(2) アブラムシ類は若い葉やランナーの先端部、ハダニ類は下葉の裏に多く寄生しているので、不要な下葉を除去した後、薬剤が葉裏まで十分にかかるように丁寧に散布する。除去した葉は、育苗ほ周辺に放置せず、ビニル袋などに密封するなどして適切に処理を行う。

(3) 両害虫とも、いちご以外の植物にも寄生するので、育苗ほ周辺の除草を行う。

(4) 薬剤抵抗性が発達しやすいので同一系統薬剤の連用は避け、異なる系統の薬剤のローテーション散布に努める。また、アブラムシ類では微生物農薬や気門封鎖型薬剤等を、ハダニ類では気門封鎖型薬剤を使用するなど、効果の高い薬剤の温存に努める。

### 3) その他病害

(1) うどんこ病 過繁茂になると、株間の湿度が上がり感染しやすい環境になるので、適宜下葉の除去を行い、風通しをよくする。夏期に発病がみれらなくても、定期的に防除を行い、本ぼへの持ち込みを防ぐ。

(2) 萎黄病 本病害は、高温になると発生が多くなり、育苗時にはランナーで伝染するので、発病株はすみやかにほ場外に持ち出し処分する。

いずれの病虫害も本ぼに持ち込むと根絶が困難であるため、育苗期間中に十分観察し、罹病・寄生株の早期防除・除去を行うとともに定植時の選別を徹底する。

## 5 その他

1) 炭疽病の簡易検定方法については、最寄りの西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）にお問い合わせください。

2) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病虫害防除・肥料検査センター等関係機関に照会してく

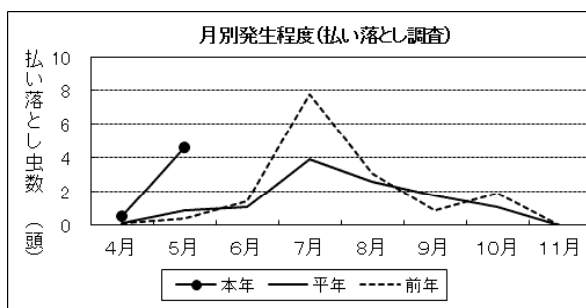
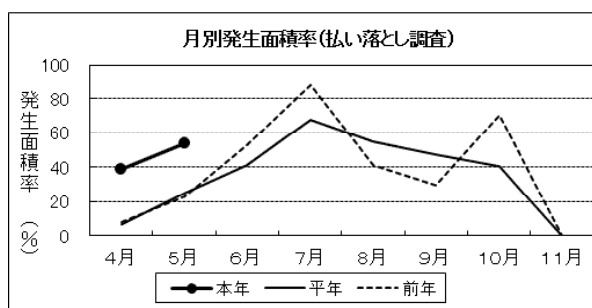
ださい。

- 3) 6月1日から8月31日の3ヶ月間、農薬危害防止運動を実施しています。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

◎ 防除情報第3号（発令月日：平成27年6月3日）

1. 作物名 茶
2. 病害虫名 チャノミドリヒメヨコバイ
3. 発生状況(経過)

- 1) 5月中旬の巡回調査の結果、チャノミドリヒメヨコバイの見取りによる調査については、発生面積率23.1%で平年(18.3%)に比べやや多、寄生葉率0.9%で平年(0.6%)並である。払い落とし調査については、発生面積率53.8%で平年(25.0%)に比べやや多、払い落とし虫数は4.6頭で平年(0.9頭)に比べ多である。



4. 防除上の注意

- 1) おもに新梢部を加害するため、萌芽期から開葉初期に薬剤散布を行う。
- 2) 葉裏に生息するため、薬剤散布の際は、葉裏に十分に薬剤がかかるよう丁寧な散布を心掛ける
- 3) 同時期にチャノキイロアザミウマが発生した場合は、どちらにも効果のある薬剤を選定し、同時防除を行う。

5. その他

- 1) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場茶業支場、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- 2) 6月1日から8月31日の3か月間、農薬危害防止運動を実施しています。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

◎ 防除情報第4号（発令月日：平成27年6月12日）

**斑点米カメムシ類の適切な防除を行いましょう。**

- 1 作物名 早期水稻

2 病害虫名 斑点米カメムシ類

3 発生状況

(1) 6月上旬の水田周辺におけるイタリアンライグラス等飼料作物での生息密度（20回振りすくい取り）は、成・幼虫合計で44.4頭（平年39.3頭、前年46.8頭）であり、平年並となっている（表1）。

(2) 種別では、アカスジカスミカメの生息密度が平年よりもやや高いが、その他4種の生息密度は平年並となっている（図1、2）。

表1 飼料作物における斑点米カメムシ類の種別平均頭数（6月上旬、20回振り）

	ミナミアオカメムシ	クモヘリカメムシ	ホソハリカメムシ	シラホシカメムシ類	アカスジカスミカメ	全種合計
H27※	0.9	5.2	2.2	0.6	35.5	44.4
H26※	1.1	4.0	3.4	3.0	35.3	46.8
平年値	1.3	5.4	2.3	1.0	29.3	39.3

※調査地点数（H27）：139地点（中部、南那珂、児湯、東臼杵管内）

※調査地点数（H26）：136地点（中部、南那珂、児湯、東臼杵管内）

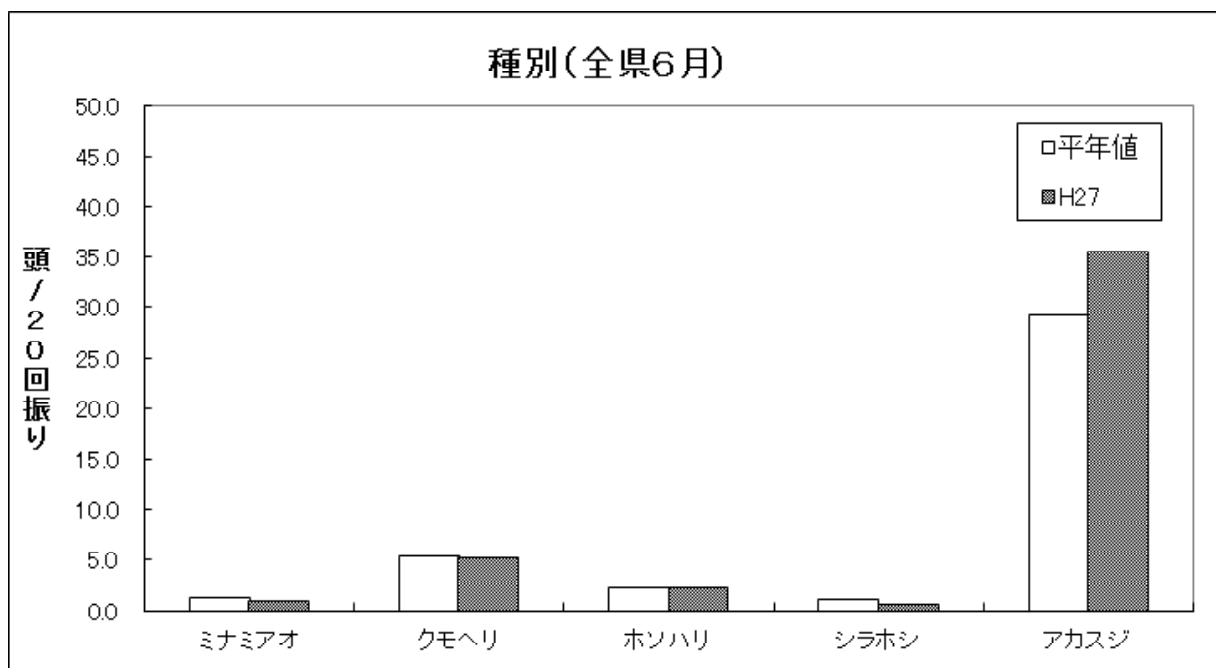


図1 種別平均頭数（6月上旬、20回振り）



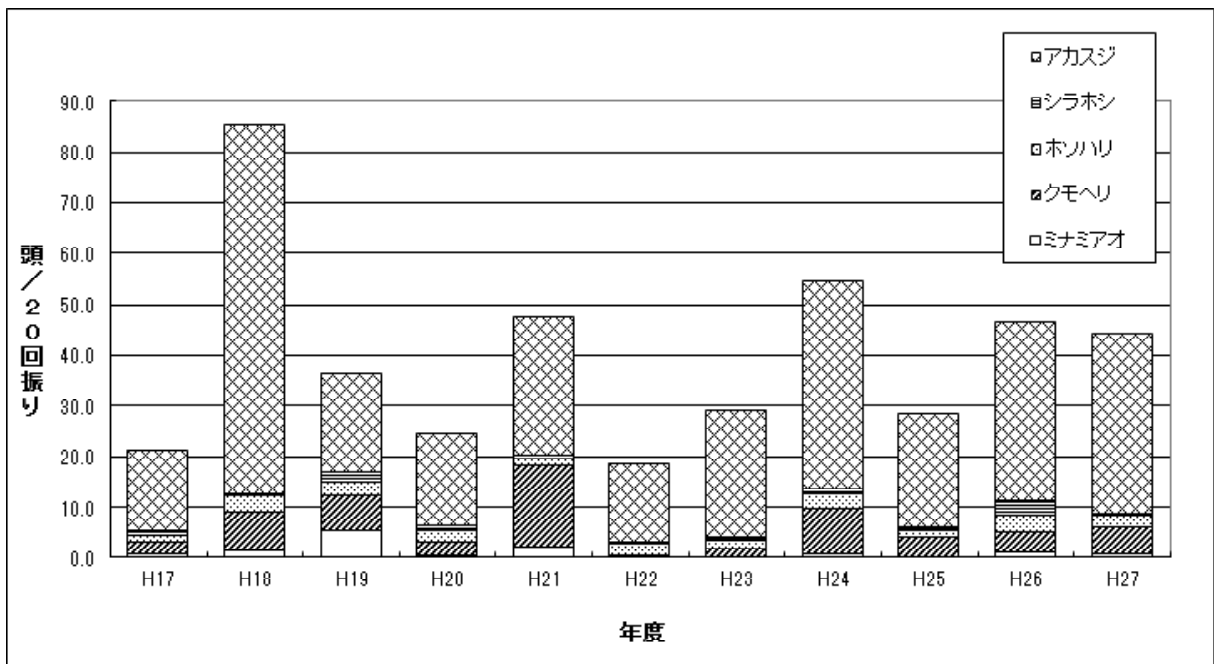


図2 年度別種別平均頭数（6月上旬、20回振り）

#### 4 防除上の注意

- (1) 本虫による被害は品質を著しく低下させ、等級格下げの重要な要因になるので、穂揃期とその7～10日後の2回防除を徹底する。その後も発生が見られる場合には、さらに追加防除が必要である。
- (2) 広域の集団一斉防除に努め、防除効率を高める。
- (3) 出穂の早い、または遅い水田には集中的に飛来するおそれがあるほか、ヒエがある場合は先に出穂するヒエにカメムシが集まる傾向があるので早めに処分する。
- (4) 周辺雑草から本田への本虫の侵入を防止するため、周辺雑草の草刈りはイネが出穂する2週間以上前までに数回行う。

#### 5 その他

- (1) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病虫害防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- (2) 6月1日から8月31日の3ヶ月間、農薬危害防止運動を実施しています。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

◎ 防除情報第5号（発令月日：平成27年7月27日）

## 果樹カメムシ類の発生量が多くなっています。

今後の発生状況に注意し、適期防除に努めましょう。

1. 作物名 果樹全般

2. 病害虫名 果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ）

### 3. 発生状況

#### 1) チャバネアオカメムシ

県内3か所に設置しているフェロモントラップの誘殺数は7月第2半旬から急増しており、7月第2半旬から第3半旬までの総誘殺数は、都農町で3058頭（平年104頭）、延岡で555頭（平年55頭）であり、平年より多い（図1）。

県内5か所に設置している予察灯への誘殺数は同じく7月第2半旬頃から増加している所が多い。特に、延岡市では7月第2半旬から第3半旬までの総誘殺数は183頭（平年0頭）と平年に比べ多くなっている（図2）。

#### 2) ツヤアオカメムシ

フェロモントラップでの誘殺数は平年並である（図3）。予察灯では一部地域で誘殺数が7月第2半旬から増加傾向であるが、現時点では平年並である。

3) 平年は、8月中旬頃から園地への飛来が見られるが、本年は、現時点で既に一部園地で飛来が確認されている。

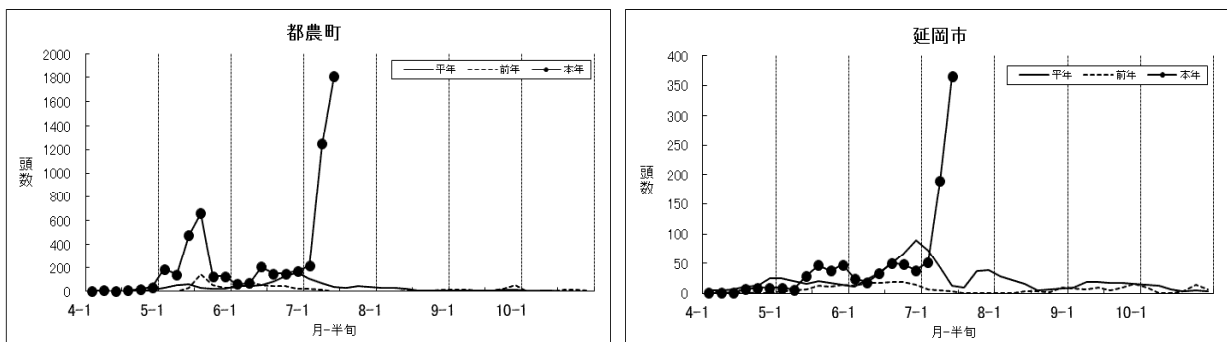
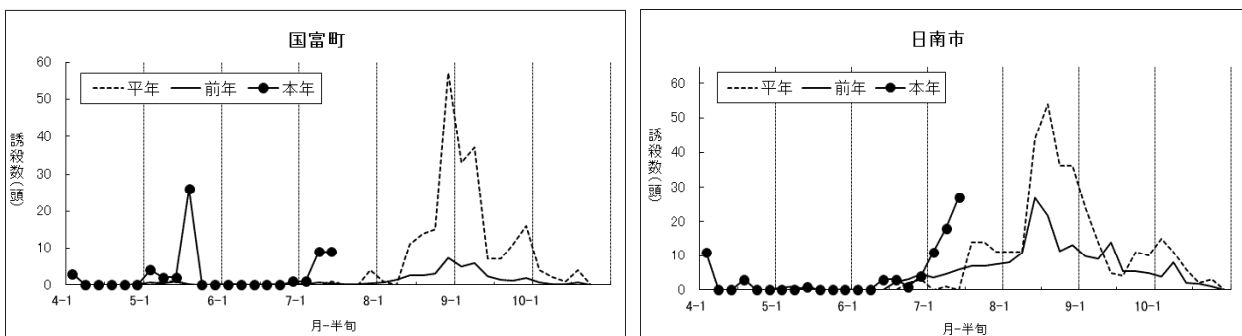


図1 フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシ誘殺状況



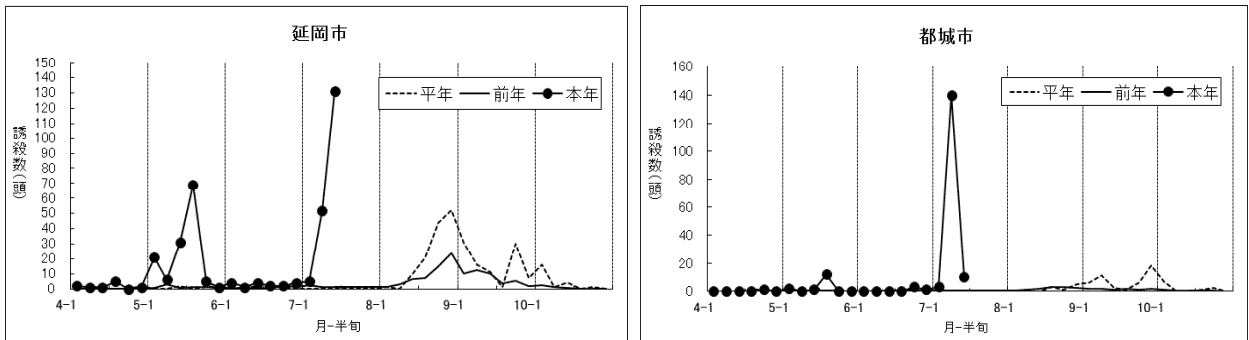


図2 予察灯におけるチャバネアオカメムシ誘殺状況

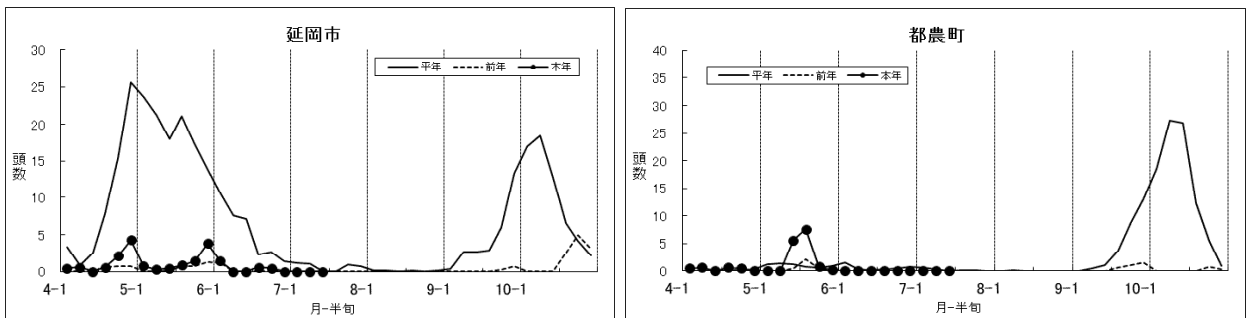


図3 フェロモントラップにおけるツヤアオカメムシ誘殺況

#### 4. 防除上の注意

- 1) 飛来時期や飛来量は園地によって異なるため、園内外の見回りを徹底し、飛来が見られたら直ちに防除を実施する。
- 2) 果樹園に侵入したカメムシは集合フェロモンで同種を大量に誘引し被害を拡大させるおそれがあるので十分注意する。
- 3) 飛来初期には比較的残効の長い合成ピレスロイド系薬剤やネオニコチノイド系薬剤で防除を行うと効果的である。ただし、合成ピレスロイド系薬剤を連用すると、ハダニ類の発生を助長する可能性があるので注意する。
- 4) 収穫中もしくは収穫時期が近い品目については、農薬の使用回数や収穫前日数に注意し防除を行う。
- 5) 台風通過後は果樹園への飛来が急増することがあるので特に注意する。

#### 5. その他

- 1) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- 2) 農薬の使用については、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守する等厳重な注意を払うとともに危害防止に努めましょう。また、周辺作物の栽培状況等に留意し、地域全体で農薬のドリフト防止に努めましょう。

◎ 防除情報第6号（発令月日：平成27年7月27日）

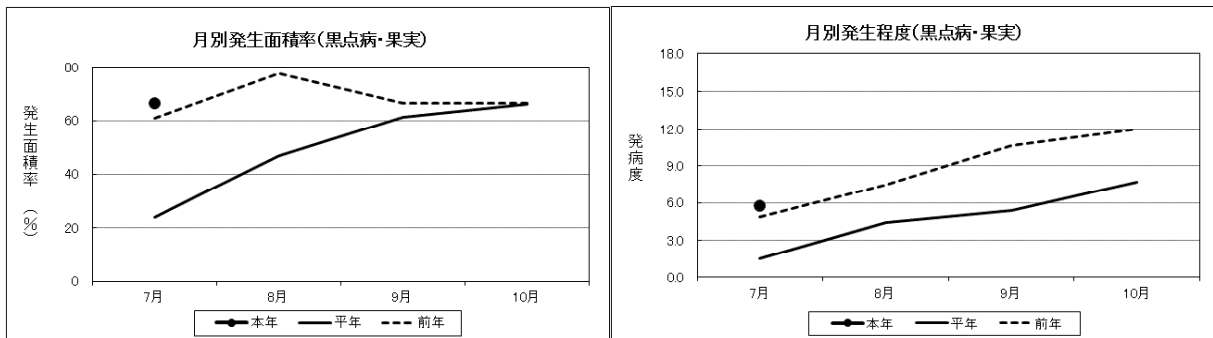
**かんきつの黒点病の発生量が多くなっています。  
適切な防除に努めてください。**

1 作物名           かんきつ

2 病虫害名       黒点病

### 3 発生状況（経過）

- 1) 7月中旬の巡回調査の結果、黒点病（果実）の発生面積率は66.7%（平年24.0%）、発病度5.71（平年1.52）で、いずれも平年に比べて多である。
- 2) 7月の発生面積率、発病度の数値は、既に9月の平年値を上回っており、今後の被害拡大が懸念される。



### 4 防除上の注意

- 1) 本病は糸状菌（*Diaporthe citri*）により葉、果実、枝に発生する病気であり、果実への感染時期は6～10月である。
- 2) 伝染源は保菌した枯れ枝であるので、枯れ枝の剪定・除去（園外へ持ち出し）を行い、伝染源を少なくするとともに、肥培管理に注意し、樹勢の強化、枯れ枝の発生抑制に努める。
- 3) 防除の目安は、薬剤散布後の積算降水量が250mmを超えた時点であるが、降水量が少ない場合でも、薬剤散布の30日後には次の防除が必要である。
- 4) 降雨によって発生が助長されるので、降雨前の薬剤散布を徹底する。
- 5) 降雨がなく、晴天が続く場合でも、本病の更なる被害拡大を防ぐために定期的に薬剤防除を行う。また、降雨が続き、晴天がないような場合でも、雨間散布は効果があるので、防除適期を逃さないよう防除を行う。

### 5 その他

- 1) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、病虫害防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- 2) 6月1日から8月31日の3か月間、農薬危害防止運動を実施しています。農薬散

布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

◎ 防除情報第7号（発令月日：平成27年7月27日）

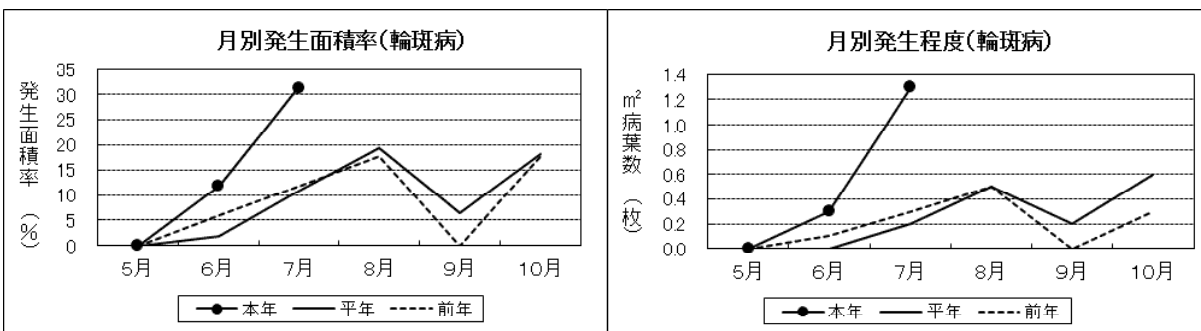
**茶の輪斑病の発生量が多くなっています。適期防除に努めてください。**

1 作物名 茶

2 病害虫名 輪斑病

3 発生状況（経過）

1) 7月中旬の巡回調査の結果、輪斑病の発生面積率は31.3%（平年10.7%）、1㎡あたりの病葉数は1.3葉（平年0.2葉）でいずれも平年に比べて多である。



4 防除上の注意

- 1) 発生は二～三番茶摘採後の気温の高い時期に多く、発生後に新梢が枯死することがあり、被害が甚大になる場合もある。
- 2) 二番茶摘採後に発病葉がみられたら、三番茶残葉で多発する可能性が高い。また、三番茶摘採後に発病葉がみられたら、秋芽で発病する可能性が高いので注意する。
- 3) 摘採時や整枝時にできた傷口から感染するので、薬剤散布は、摘採や整枝直後に行う。
- 4) 薬剤の選定にあたっては、同じ系統の薬剤の連用を避ける。
- 5) 輪斑病の多発園で使用した摘採機は、十分に洗浄してから他の茶園で使用する。
- 6) 茶の葉に水分が付着していると発生が助長されるので、降雨時の作業は極力避ける。
- 7) 「やぶきた」は特に本病に弱い品種であるので、必ず防除を行う。

5 その他

- 1) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場茶業支場、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- 2) 6月1日から8月31日の3ヶ月間、農薬危害防止運動を実施しています。農薬散

布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

◎ 防除情報第8号（発令月日：平成27年10月2日）

**県内各地のフェロモントラップで、ハスモンヨトウの誘殺数が増加しています。**

**今後、野菜・花き類での被害が予想されますので、適期防除に努めてください。**

- 1 作物名 野菜・花き類全般
- 2 病害虫名 ハスモンヨトウ
- 3 発生状況（経過）

1) 県内4カ所（宮崎市、都城市、西都市、国富町）に設置しているフェロモントラップへの誘殺が8月下旬以降急増している（図1）。9月第1半旬から第4半旬までの合計誘殺数は下記のとおりである。

宮崎市（佐土原）	誘殺頭数	： 1, 921頭（前年503頭、平年879頭）
都城市（母智丘）	〃	： 1, 219頭（前年132頭、平年638頭）
西都市（茶臼原）	〃	： 1, 777頭（前年426頭、平年917頭）
国富町（岩知野）	〃	： 644頭（前年237頭、平年520頭）

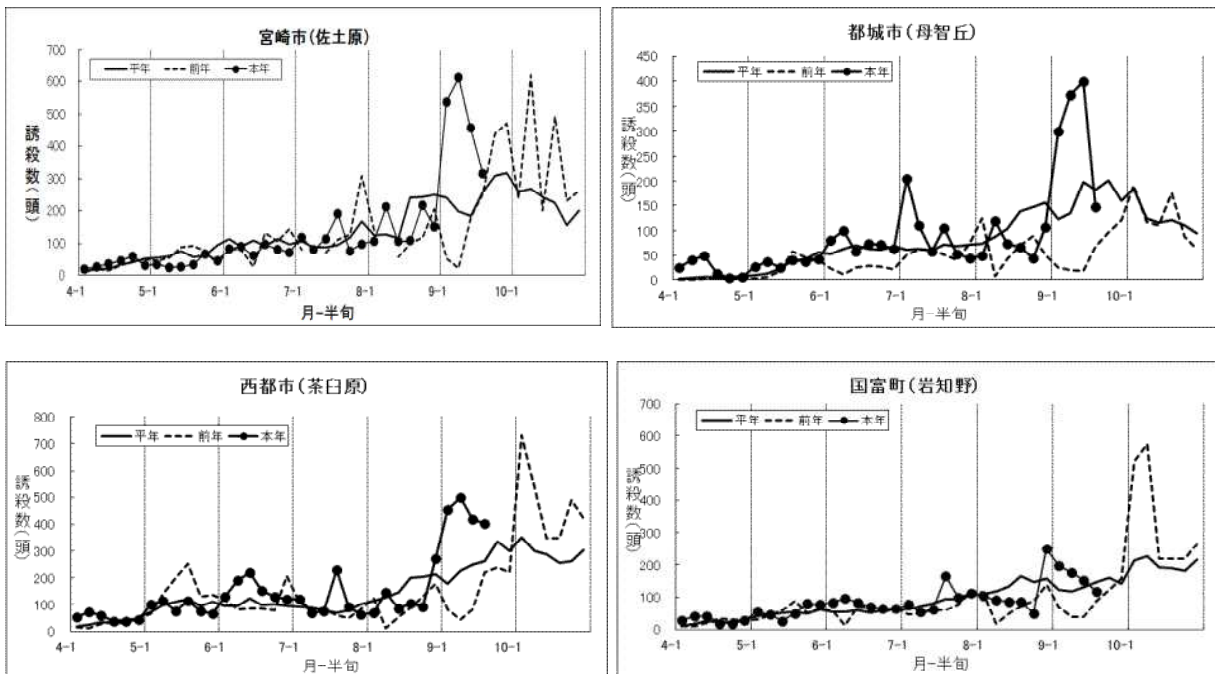


図1 ハスモンヨトウのフェロモントラップによる誘殺状況（2015）

※台風接近によるトラップ回収に伴い、5月第3半旬（5/11-12）と8月第6半旬（8/24-25）は一部欠測

#### 4 防除上の注意

- 1) ほ場ごとに発生が異なるため、定期的にはほ場を見回り、早期発見に努める。一度防除したほ場でも、成虫が飛来して産卵するので、引き続き発生に注意する。
- 2) 防除適期は、卵塊が葉裏に産卵され、孵化した若齢幼虫が集団となって食害する時期である。周囲に分散した中・老齢幼虫は、薬剤の効果が低下する。
- 3) 施設栽培では、開口部に防虫ネットを設置し成虫の侵入を防ぐ。ただし、成虫は作物以外にも産卵するため、ネット上に産卵すると、編み目から孵化幼虫が施設内に侵入するので注意する。
- 4) 次期作付に当たっては、育苗期から防除を徹底し、本ぽハウスには防虫ネットを必ず設置し、害虫の侵入を防止する。
- 5) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる系統薬剤とのローテーション散布に努める。
- 6) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会する。

◎ 防除情報第9号（発令月日：平成27年10月29日）

**ハダニ類の発生が平年より多い傾向にあります。**

**早期発見に努め、発生初期の防除を徹底しましょう。**

- 1 作物名 イチゴ
- 2 病害虫名 ハダニ類
- 3 発生状況（経過）

10月中旬における巡回調査の結果は、次の通りであった。

発生面積率 : 84.6%（前年 53.8%、平年 35.2%） 平年より多

寄生株率 : 11.5%（前年 7.2%、平年 6.6%） 平年並

葉当たり虫数 : 0.8頭（前年 0.7頭、平年 0.3頭） 平年よりやや多

発生面積率および葉当たり虫数は過去10年の同時期で2番目に、寄生株率は4番目に高くなっている（図1～4）。

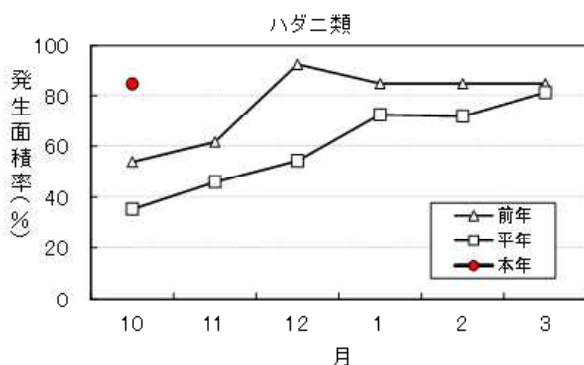


図1 ハダニ類の発生面積率の推移

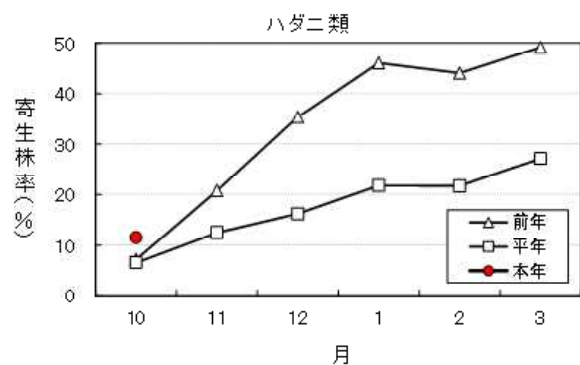


図2 ハダニ類の寄生株率の推移

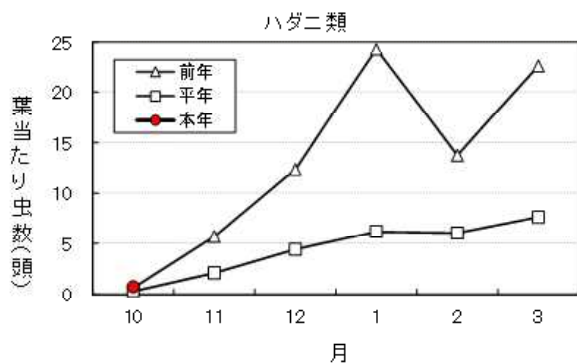


図3 ハダニ類の葉当たり虫数の推移

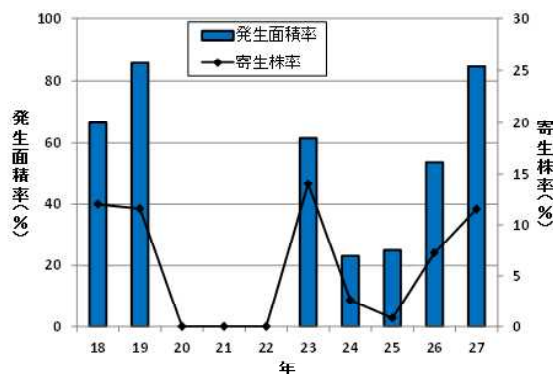


図4 過去10年における発生の推移

注) いずれの年も10月中旬の調査結果による

#### 4 防除上の注意

- 1) 発生初期はスポット的に寄生しているので、収穫や摘葉などの作業時に発生を見つけた場合は、見失わないようにマークし、スポット散布を行う。発生場所の周囲は葉裏の発生状況を確認するなどして、漏れがないように防除を行う。
- 2) 急激に個体数が増加するため、初発生を認めたら直ちに防除を行い、発生が多くなったら5～7日間隔で連続して防除する。
- 3) 下葉の裏に多く寄生しているので、不要な下葉を除去した後、薬剤が葉裏まで十分にかかるように丁寧に散布する。除去した茎葉に寄生していたハダニ類は、短時間で離脱し、生育中の作物に移動するので、できるだけすみやかにほ場外へ持ち出し処分する。
- 4) ハダニ類をはじめとする害虫の寄主植物となる雑草を除去する。その際は、通路やサイド際の除草もしっかり行い、除草した雑草はハウス内に放置せずすみやかに処分する。
- 5) 有効な薬剤に対する抵抗性の発現を回避する観点から同一系統薬剤の連用は避け、異なる系統の薬剤のローテーション散布に努める。
- 6) 主要な防除薬剤に対する感受性が低下した個体群が確認されていることから、抵抗性発現の可能性が低い気門封鎖型薬剤の使用、天敵の活用を図る。
- 7) 農薬の選定に当たっては、天敵およびミツバチへの影響を十分に注意する。

#### 5 その他

- 1) 農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。
- 2) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

◎ 防除情報第10号（発令月日：平成27年11月20日）

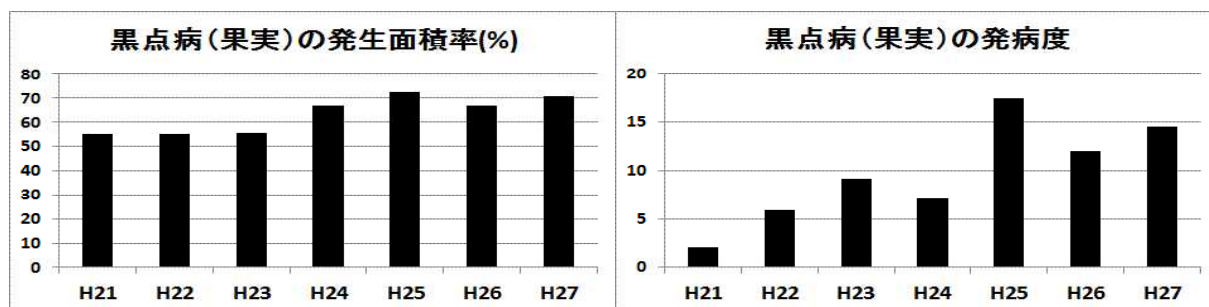
**かんきつの黒点病の発生量が多くなっています。  
翌年に向けて適切な管理に努めてください。**

- 1 作物名           かんきつ
- 2 病害虫名       黒点病



### 3 発生状況（経過）

- 1) 平成21年から平成27年までの巡回調査（10月）の結果、平成25年以降は発生面積率、発病度ともに高い傾向である。
- 2) 罹病した枯れ枝が多いほ場では、翌年の孢子飛散量が多くなり、更なる被害拡大が懸念される。



### 4 本病菌の生態

- 1) 本病菌 (*Diaporthe citri*) は枯れ枝上で越冬し、翌年春に好適な温湿度条件（適温 20 度前後）になると降雨によって拡散し、若葉、新梢、果実に感染する。
- 2) 伝染源は保菌した枯れ枝であり、地上に落ちている枝も伝染源となる。本病菌が蔓延すると3年ほど生存し、降雨のたびに伝染源となる。
- 3) 風通しが悪く、雨が乾きにくい場所で発生が多い。

### 5 防除上の注意

- 1) 枯れ枝処理が重要なので、枯れ枝の剪定・除去（園外へ持ち出し）を行い、伝染源を少なくするとともに、肥培管理に注意し、樹勢の強化、枯れ枝の発生抑制に努める。
- 2) 剪定作業の際は、薬剤が樹幹内部に十分かかるように考慮する。また、降雨後の水滴が早く乾くように、樹幹内部に光線が入ること及び風通しを良くすることを心掛け、本病の感染を予防する。
- 3) 剪定した枝を粉砕機等で粉砕し、有機物として園地内に還元する場合は、枝を 30mm 以下に細かく粉砕し、腐熟を促進することで、子のう殻の形成を抑制する。
- 4) 降雨によって発生が助長されるので、6月～8月に行う薬剤防除の際は、降雨前の薬剤散布を徹底する。降雨がなく、晴天が続く場合でも、本病の更なる被害拡大を防ぐために定期的に薬剤防除を行う。
- 5) 防除の目安は、薬剤散布後の積算降水量が 250mm を超えた時点であるが、降水量が少ない場合でも、薬剤散布の 30 日後には次の防除が必要である。

その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

◎ 防除情報第11号（発令月日：平成28年2月2日）

**うどんこ病の発生が平年より多い傾向にあります。**

**早期発見に努め、発生初期の防除を徹底しましょう。**

1 作物名 イチゴ

2 病害虫名 うどんこ病

### 3 発生状況（経過）

1月中旬における巡回調査の結果は、次の通りであった。

・うどんこ病（葉）

発生面積率：61.6%（前年 30.8%、平年 38.5%） 平年よりやや多

発病葉率：13.7%（前年 1.5%、平年 2.8%） 平年より多

・うどんこ病（果実）

発生面積率：46.2%（前年 7.7%、平年 4.5%） 平年より多

発病果率：4.1%（前年 0.2%、平年 0.2%） 平年より多

葉では、発生面積率は過去10年同時期で3番目に高く、発病葉率は最も高い数値となっている（図1、図2、図5）。

果実では、発生面積率および発病果率ともに過去10年の同時期で最も高い数値となっている（図3、図4、図6）。

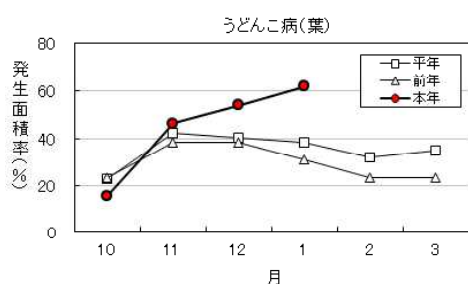


図1 うどんこ病（葉）の発生面積率

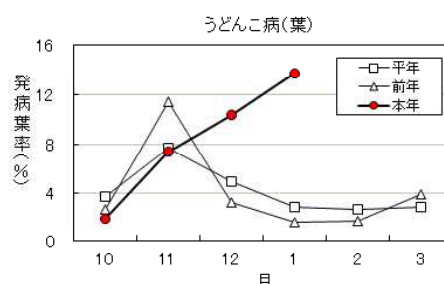


図2 うどんこ病（葉）の発病葉率

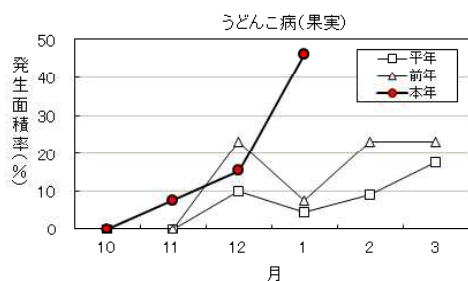


図3 うどんこ病（果実）の発生面積率

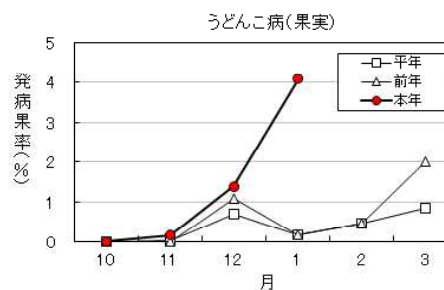


図4 うどんこ病（果実）の発病果率

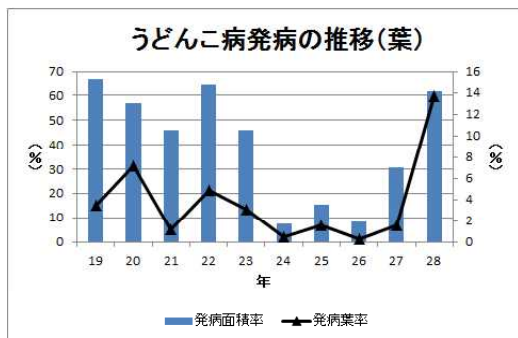


図5 過去10年における発生推移(葉)

注) いずれの年も1月中旬の調査結果による

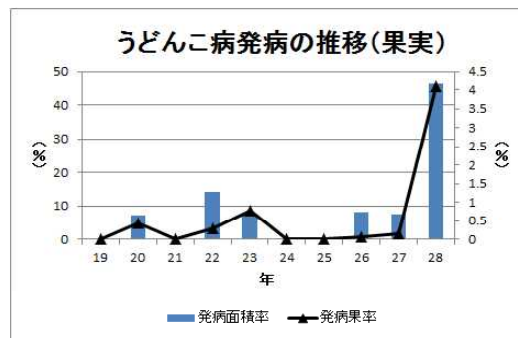


図6 過去10年における発生推移(果実)

注) いずれの年も1月中旬の調査結果による

#### 4 防除上の注意

- 1) 一般的に、各作物のうどんこ病は比較的乾燥した条件で発生するが、いちごうどんこ病は多湿・乾燥いずれの状態でも発生がみられる。高湿度条件にならないようにハウス内の通風、換気に努める。
- 2) 葉・果実・葉柄・果梗・蕾に発生する。蔓延すると防除が困難になるので、発病前から定期的に予防散布を実施する。
- 3) 草勢が衰えたとき(結実、収穫期)に多発生する傾向があるので、草勢低下を防止するために適切な栽培管理を行う。
- 4) 発症した葉・果実は可能な限り除去し、すみやかにほ場外に持ち出し適切に処分する。併せて、できるだけ早く防除を行うが、葉裏・果実にしっかり薬液がかかるように丁寧に散布する。
- 5) 予防散布を中心に防除を実施するが、発生が多い場合は一週間程度の間隔で連続して防除を行う。その際、同一系統薬剤の連用を避け、異なる系統のローテーション散布に努める。
- 6) 農薬の選定に当たっては、天敵およびミツバチへの影響を十分に注意する。

#### 5 その他

- 1) 農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。
- 2) その他詳細については、西白杵支庁・各農林振興局(農業改良普及センター)、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

◎ 防除情報第12号(発令月日:平成28年3月1日)

**うどんこ病については、昨年末から高い発生程度で推移しています。今後、気温が高くなるにつれ、さらに発病の増加が予想されるので、引き続き防除を徹底しましょう。**

1 作物名          イチゴ

## 2 病害虫名 うどんこ病

### 3 発生状況（経過）

2月中旬における巡回調査の結果は、次の通りであった。

・うどんこ病（葉）

発生面積率：69.3%（前年 23.1%、平年 32.0%） 平年より多

発病葉率：8.0%（前年 1.7%、平年 2.6%） 平年より多

・うどんこ病（果実）

発生面積率：53.9%（前年 23.1%、平年 9.2%） 平年より多

発病果率：2.3%（前年 0.5%、平年 0.5%） 平年より多

葉では、発生面積率および発病葉率ともに過去10年同時期で最も高い数値となっている（図1、図2、図5）。

果実でも、発生面積率および発病果率ともに過去10年の同時期で最も高い数値となっている（図3、図4、図6）。

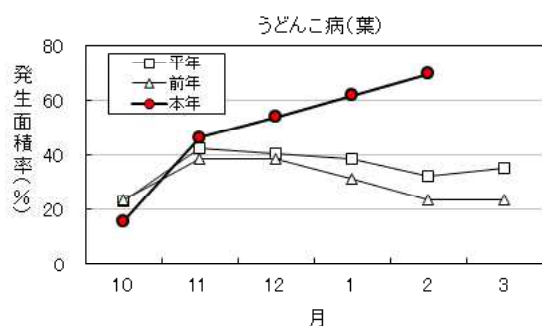


図1 うどんこ病（葉）の発生面積率

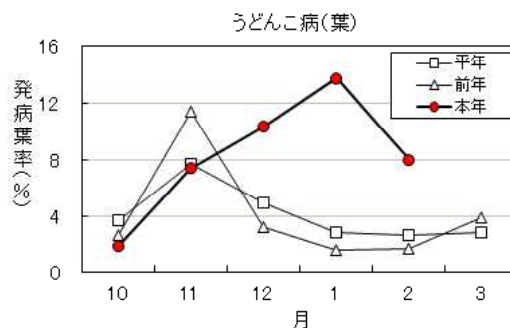


図2 うどんこ病（葉）の発病葉率

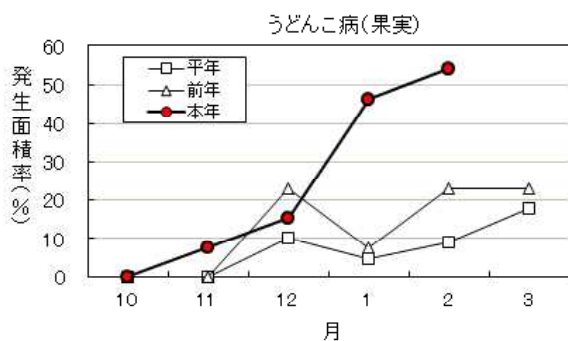


図3 うどんこ病（果実）の発生面積率

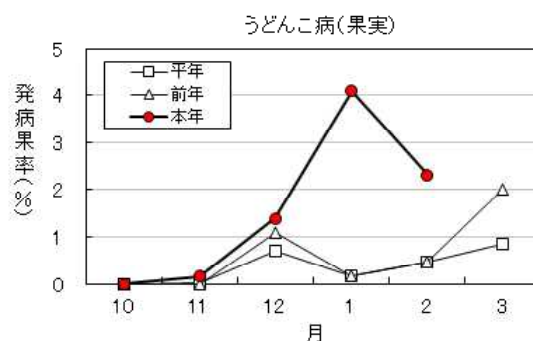


図4 うどんこ病（果実）の発病果率

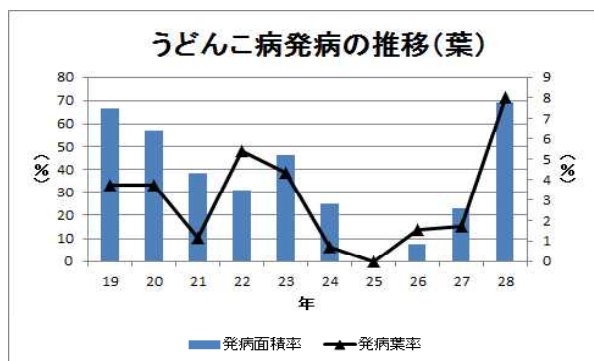


図5 過去10年における発生推移（葉）

注) いずれの年も2月中旬の調査結果による

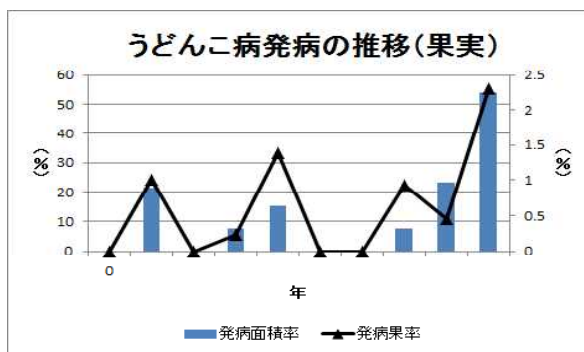


図6 過去10年における発生推移（果実）

注) いずれの年も2月中旬の調査結果による

#### 4 防除上の注意

- 1) 過度な高湿度条件にならないようにハウス内の通風、換気に努める。
- 2) 葉・果実・葉柄・果梗・蕾に発生する。今後、気温の上昇に伴い、発病の増加が予想されるので、ほ場をよく観察し、定期的に予防散布を実施する。
- 3) 春先に草勢が衰えたときに多発生する傾向があるので、草勢低下を防止するために適切な栽培管理を行う。
- 4) 発症した葉・果実は可能な限り除去し、すみやかにほ場外に持ち出し適切に処分する。併せて、できるだけ早く防除を行うが、葉裏・果実にしっかり薬液がかかるように丁寧に散布する。
- 5) 予防散布を中心に防除を実施するが、発生が多い場合は一週間程度の間隔で連続して防除を行う。その際、同一系統薬剤の連用を避け、異なる系統のローテーション散布に努める。
- 6) 農薬の選定に当たっては、天敵およびミツバチへの影響を十分に注意する。

#### 5 その他

- 1) 農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。
- 2) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病虫害防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

## 2. 病虫害発生予察情報高度化事業

### ニカメイガの発生活長の変化に伴う防除時期の検討

#### 1 背景・ねらい

本県中部におけるニカメイガの発生は、1960年代までは多数確認されていたが、1970年代後半からほとんど見られなくなっていた。しかし近年、早期水稲・普通期水稲・飼料用稲の混耕地帯でニカメイガが散見されるようになっており、増加傾向にあると推定される。そこで、乾式予察灯とフェロモントラップを用いて発生活長を調査し、防除時期についても検討した。

#### 2 試験方法

##### (1) 発生活長の調査

###### 1) 調査地点

①乾式予察灯：宮崎市、国富町、都城市、延岡市の4地点

（宮崎市と国富町は早期水稲・普通期水稲・飼料用稲の混耕地帯、都城市と延岡市は普通期水稲と飼料用稲の混耕地帯）

②フェロモン（SE）トラップ：宮崎市（総合農業試験場内4地点）、西都市、国富町、高岡町、木城町の8地点

（西都市と木城町は早期水稲と飼料用稲の混耕地帯、それ以外は早期水稲・普通期水稲・飼料用稲の混耕地帯）

###### 2) 調査期間

①3月第5半旬（宮崎市は4月第1半旬）～10月第6半旬

②3月第2半旬～10月第6半旬

#### 3 結果の要約

##### (1) 発生活長の調査

①宮崎市に設置してある予察灯とフェロモントラップ、西都市と木城町に設置してあるフェロモントラップでは、年3回以上の発生が推測された。

②国富町に設置してある予察灯とフェロモントラップ、高岡町のフェロモントラップについては、第2世代以降はほとんど誘殺されず、昨年とは異なる発生活長であった。

③都城市と延岡市に設置してある予察灯では、年間をとおして全く誘殺されないか、もしくはほとんど誘殺されなかった。

#### 4 今後の課題

昨年度までの調査結果から、県央における越冬世代の羽化のピークは40年前よりも1ヶ月程度早く、年三世代以上の発生が推測された。今年度は一部の地域で第2世代以降の誘殺数が大幅に減少した。来年度は減少した要因についても分析するとともに、引き続き県内各地点の調査を行うことで、地域毎の発生活長と防除適期を明らかにする。

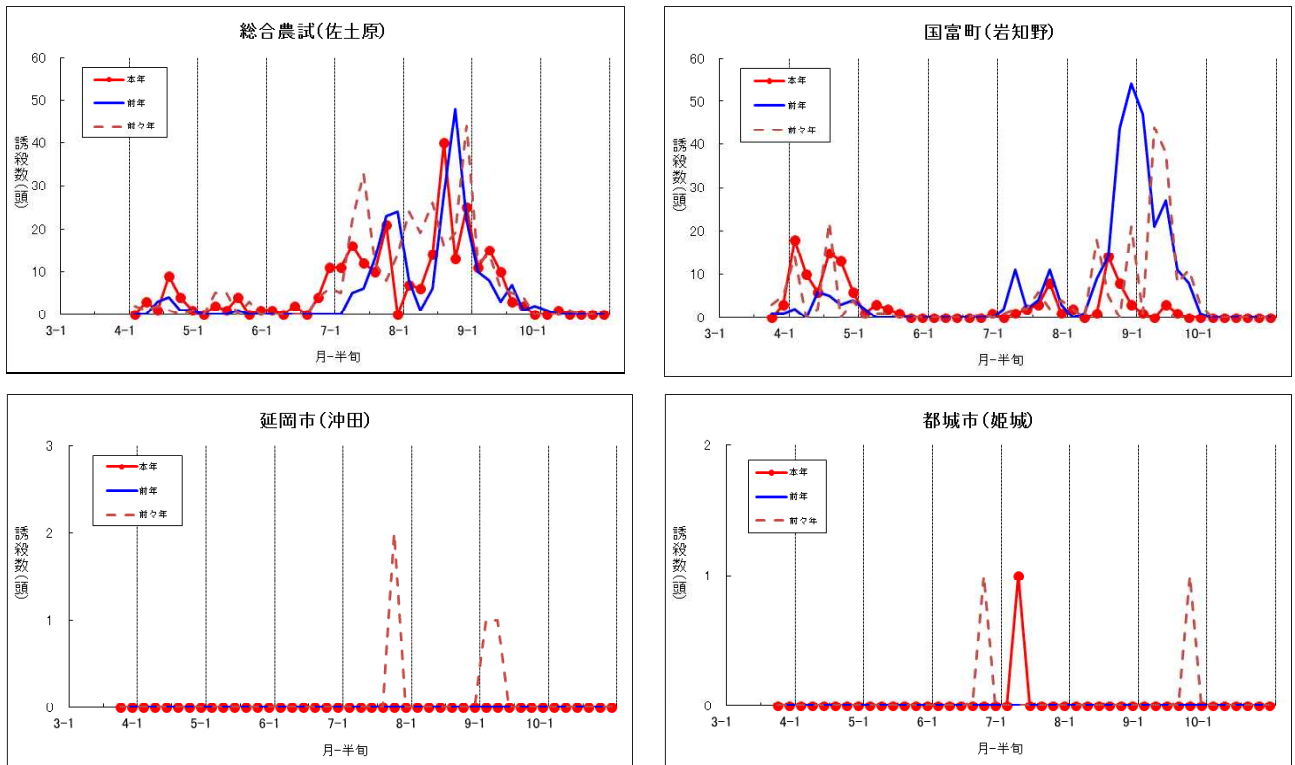


図1 予察灯によるニカメイガの誘殺状況

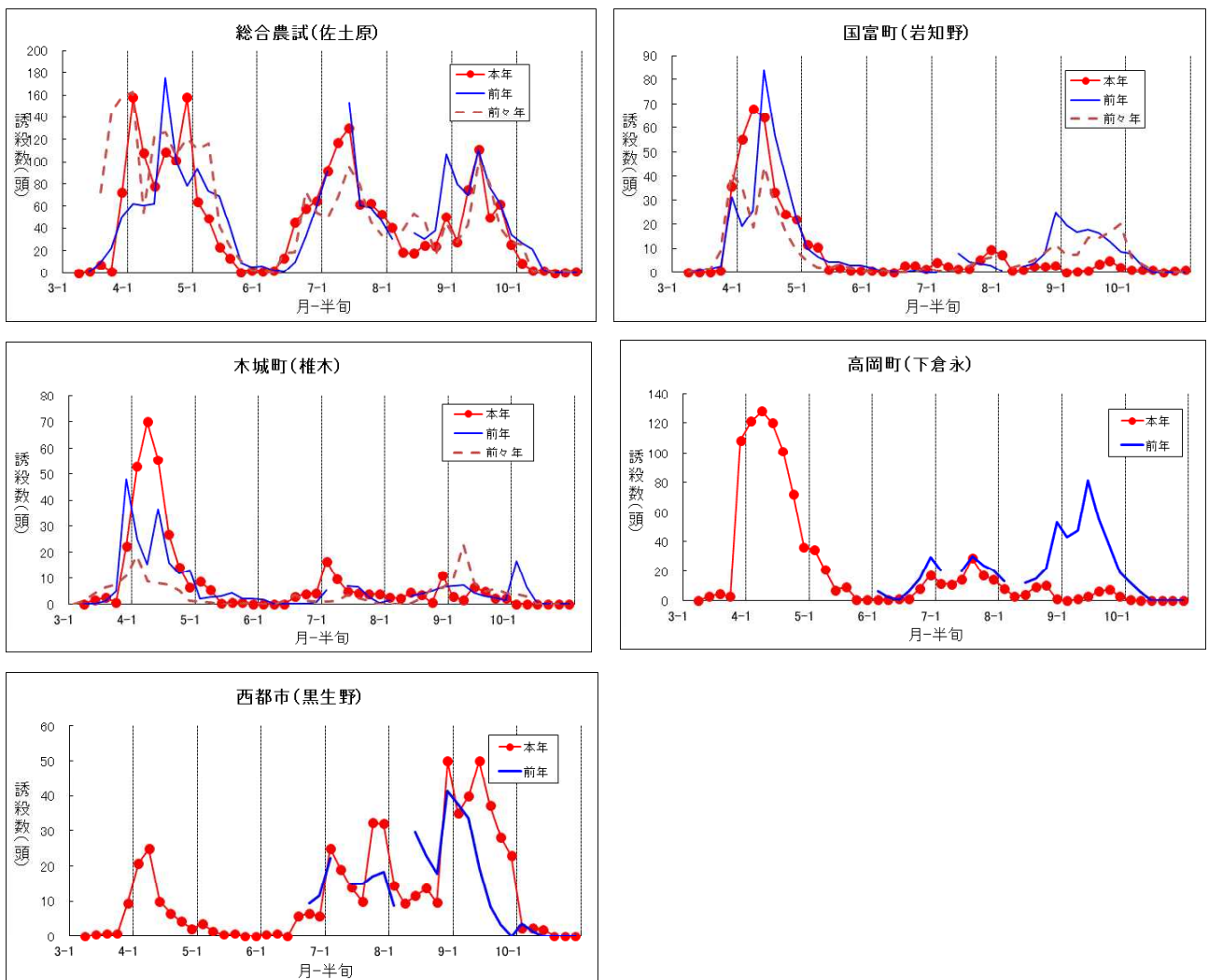


図2 フェロモントラップによるニカメイガの誘殺状況

## 茶園におけるチャトゲコナジラミの発生活消長調査

### 1 背景・ねらい

平成26年4月にチャでの発生が確認されたことを受け、本県におけるチャトゲコナジラミの発生活消長を把握するために、黄色粘着板を用いて調査した。

### 2 調査方法

#### (1) 調査地点

都城市内ほ場

#### (2) 調査期間

平成27年4月1日～平成28年1月5日

### 3 調査結果の要約

都城市内では、年に4世代の発生があると考えられる（図3）。また、昨年と比べ明確な発生ピークが掴めた。

### 4 今後の課題

他の発生地域の発生活消長を把握するために、関係機関と協力して調査を継続していきたいと考えている。

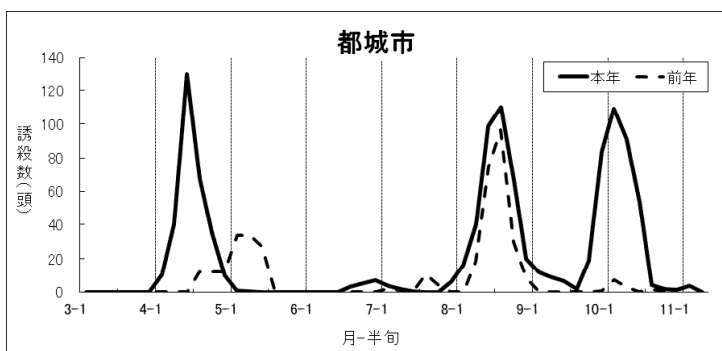


図3 黄色粘着板によるチャトゲコナジラミ成虫の誘殺状況



### 3 特殊病害虫侵入警戒調査事業

#### 1) ミバエ類侵入警戒調査

ミバエ類の侵入の危険性の高い地域において、ミバエ類の早期発見体制の整備及び侵入警戒調査を実施した。またミカンコミバエ、ウリミバエについては、関係農林振興局の協力のもとで実施した。

#### (1) 誘殺状況

トラップ設置場所	調査期間	誘殺数			調査機関
		チチュウカイミバエ	ミカンコミバエ	ウリミバエ	
宮崎市 中部港湾事務所敷地内	4～12, 3月	0	—	—	防除・肥料センター
〃 赤江宮崎空港付近	〃	0	—	—	〃
〃 芳土のミカン園	〃	0	—	—	〃
都農町 立野のミカン園	〃	0	—	—	〃
南郷町 谷之口のミカン園	〃	0	—	—	〃
日向市 高森山のミカン園	〃	0	—	—	〃
門川町 牧山のミカン園	〃	0	—	—	〃
宮崎市 赤江 共同利用施設浜畑センター内	〃	—	0	0	中部農林振興局
〃 折生迫 水産試験場内	〃	—	0	0	〃
〃 内海 内海神社付近	〃	—	0	0	〃
〃 内海 野島神社付近	〃	—	0	0	〃
〃 折生迫 青島小学校付近	〃	—	0	0	〃
日南市 油津港東岸壁手前公園	〃	—	0	0	南那珂農林振興局
〃 猪崎鼻公園駐車場	〃	—	0	0	〃
南郷町 虚空蔵島入口	〃	—	0	0	〃
〃 贄波神社境内	〃	—	0	0	〃
〃 亜熱帯作物支場入口	〃	—	0	0	〃
串間市 市木 石波海岸（幸島入口）	〃	—	0	0	〃
〃 宮之浦（漁港公園）	〃	—	0	0	〃
〃 都井港	〃	—	0	0	〃
〃 崎田（道路沿い雑木）	〃	—	0	0	〃
〃 新福島港	〃	—	0	0	〃
川南町 通浜（川南魚港周辺）	〃	—	0	0	児湯農林振興局
〃 〃	〃	—	0	0	〃
〃 〃	〃	—	0	0	〃
〃 〃	〃	—	0	0	〃
〃 〃	〃	—	0	0	〃
門川町 庵川 庵川神社	〃	—	0	0	東臼杵農林振興局

トラップ設置場所	調査期間	誘 殺 数			調査機関
		チチュウカイ イミバエ	ミカンコ ミバエ	ウリミ バエ	
門川町 庵川 庵川東公民館	〃	—	0	0	東白杵農林振興局
〃 庵川西 庵川漁協(唐船バエ)	〃	—	0	0	〃
〃 尾末 門川漁協	〃	—	0	0	〃
〃 尾末 尾末神社	〃	—	0	0	〃
延岡市 浦城町 浦城養魚場付近旧道	〃	—	0	0	〃
〃 浦城町 浦城海水浴場付近	〃	—	0	0	〃
〃 須美江町須美江キャンプ場内	〃	—	0	0	〃
〃 熊野江 集落センター敷地内	〃	—	0	0	〃
北浦町 下阿蘇オートキャンプ場付近	〃	—	0	0	〃
対象病虫害の調査総回数	チチュウカイイミバエ70回(10ヶ月×7か所) ウリミバエ・ミカンコミバエ600回(10ヶ月×月2回×30か所)				

(2) 調査結果

ミバエ類の本県への侵入は認めなかった。

2) アリモドキゾウムシ侵入警戒調査

6月～10月にかけて、アリモドキゾウムシの侵入危険性の高い地域(30地点)にトラップ(アリモドキコール)を設置し、本虫の侵入警戒調査を実施した。また、中部・南那珂・北諸県・児湯の各農林振興局においては、気温が高い7～9月に計47地点で侵入警戒調査を実施した。

(1) 誘殺状況

トラップ設置場所	設置場所及びその付近の 植栽状況等	調査期間及び 調査回数	誘殺数	調査機関
宮崎市 新別府町前浜	ヒルガオ自生地	6～10月 10回	0	防除・肥料センター
〃 港	中部港湾事務所敷地内	〃	0	〃
〃 山崎町上ノ原	甘藷畑	〃	0	〃
〃 田野町白砂坂上	甘藷畑	〃	0	〃
〃 田野町乙	甘藷畑	〃	0	〃
〃 佐土原町下那珂	甘藷畑	〃	0	〃
〃 佐土原町下田島	甘藷畑	〃	0	〃
都城市 上長飯町	甘藷畑	〃	0	〃
〃 横市町	甘藷畑	〃	0	〃
〃 横市町	甘藷畑	〃	0	〃
〃 丸谷町	甘藷畑	〃	0	〃
〃 五十町	ローソン五十町店付近	〃	0	〃

トラップ設置場所	設置場所及びその付近の 植栽状況等	調査期間及び 調査回数	誘殺数	調査機関
都城市 山之口町五反田	甘藷畑	6～10月 10回	0	防除・肥料センター
〃 山田町菓子野	甘藷畑	〃	0	〃
〃 〃 牧原	甘藷畑	〃	0	〃
〃 〃 山田	甘藷畑	〃	0	〃
三股町 宮村	甘藷畑	〃	0	〃
西都市 茶臼原児屋根	甘藷畑	〃	0	〃
〃 〃	甘藷畑	〃	0	〃
〃 〃	甘藷畑	〃	0	〃
新富町 日置池田	ヒルガオ自生地	〃	0	〃
〃 日置上日置	甘藷畑	〃	0	〃
〃 日置五丁野地	甘藷畑	〃	0	〃
高鍋町 南高鍋蚊口浦	酒造工場付近	〃	0	〃
高鍋町 持田	甘藷畑	〃	0	〃
日南市南郷町榎原	甘藷畑	〃	0	〃
串間市大字奈須	甘藷畑	〃	0	〃
串間市大字奈須（堂園）	甘藷畑	〃	0	〃
串間市大字奈須（大束原）	甘藷畑	〃	0	〃
串間市大字奈須（大束原）	甘藷畑	〃	0	〃
宮崎市 有田	有田橋付近	7～9月 6回	0	中部農林振興局
〃 住吉	塩路交差点付近	〃	0	〃
〃 新別府町	人工ビーチ入り口付近	〃	0	〃
〃 本郷北方	宮崎空港付近	〃	0	〃
宮崎市 青島	青島港付近	〃	0	〃
〃 佐土原町下那珂	市営プール付近潮害林	〃	0	〃
〃 田野町合又	南原霊園前	〃	0	〃
〃 田野町七野	ゴルフ場付近	〃	0	〃
〃 高岡町花見	花見橋付近	〃	0	〃
綾町 麓	小田常橋付近	〃	0	〃
日南市 大堂津	大堂津港付近	〃	0	南那珂農林振興局
〃 油津	油津港付近	〃	0	〃
〃 平山	風田浜付近	〃	0	〃
〃 目井津	目井津港付近公園内	〃	0	〃
串間市 奈留	J A 大束集荷場	〃	0	〃

トラップ設置場所	設置場所及びその付近の 植栽状況等	調査期間及び 調査回数	誘殺数	調査期間
串間市 奈留	J A大東育苗センター付近	7～9月 6回	0	南那珂農林振興局
〃 北方	酒造会社付近	〃	0	〃
〃 東今町	福島港付近雑木林内	〃	0	〃
〃 金谷	福島港付近港公園内	〃	0	〃
〃 西浜	酒造会社付近公園内	〃	0	〃
〃 中千野	雑木林内	〃	0	〃
〃 毛久保	毛久保港付近	〃	0	〃
〃 奈留仲別府	地区公園内	〃	0	〃
〃 西方穂佐ヶ原	甘藷畑	〃	0	〃
〃 西方	JA はまゆう串間集荷場内	〃	0	〃
都城市 高城町	J A都城甘藷貯蔵庫入口	〃	0	北諸県農林振興局
〃 乙房町	甘藷畑	〃	0	〃
〃 山田町	J A都城甘藷育苗ハウス	〃	0	〃
〃 山田町	J A都城甘藷育苗ハウス	〃	0	〃
〃 山田町	甘藷畑	〃	0	〃
〃 横市町	畑作園芸支場ほ場	〃	0	〃
〃 庄内町	甘藷畑	〃	0	〃
〃 高木町	甘藷畑	〃	0	〃
〃 梅北町	甘藷畑	〃	0	〃
三股町	甘藷畑	〃	0	〃
えびの市西郷	甘藷畑	〃	0	西諸県農林振興局
小林市東方	甘藷畑	〃	0	〃
小林市堤	甘藷畑	〃	0	〃
〃 野尻町三ヶ野山	甘藷畑	〃	0	〃
高原町後川内	甘藷畑	〃	0	〃
西都市 茶臼原 緑ヶ丘	緑ヶ丘バス停付近	〃	0	児湯農林振興局
〃 大字三宅 寺原	西都市運動公園付近	〃	0	〃
〃 大字上三財	三財中学校付近	〃	0	〃
新富町 大字新田 十文字	春日神社付近	〃	0	〃
〃 大字新田 三財原	葬祭場付近	〃	0	〃
高鍋町 大字上江 境谷	市の山公民館付近	〃	0	〃
木城町 大字椎木 牧ノ内	茶臼原小学校付近	〃	0	〃
対象病虫害の調査総回数	582回（5ヶ月×月2回×30か所+3ヶ月×月2回×47か所）			

(2) 調査結果

アリモドキゾウムシの本県への侵入は認められなかった。

3) イモゾウムシ侵入警戒調査

6月～10月において、アリモドキゾウムシ侵入警戒調査地点付近の甘藷ほ場等27か所で、目視により食害痕等を調査した（調査総回数270回（5ヶ月×月2回×27か所））

9月30日、10月26日に串間市(20ほ場)、9月24日、10月26日に都城市(20ほ場)、9月25日、10月26日に小林市（5ほ場）、高原町（1ほ場）、について収穫終了後の甘藷ほ場において1ほ場当たり50本程度の収穫残渣を切開及び目視により食害痕等を調査した（調査総回数86回（2ヶ月×46か所））。

いずれの地域においてもイモゾウムシの本県への侵入は認められなかった。

4) ミカンキジラミ侵入警戒調査

4月～12月、3月において、県内のかんきつ園地18ほ場及び3か所のゲッキツ植栽地を調査したが、発生は確認されなかった（調査総回数220回（10ヶ月×21か所））。

5) ウメ輪紋ウイルス発生調査

平成21年4月東京都青梅市において、ウメ輪紋ウイルスが国内で初めて確認された。このため、本県においても平成21年度から調査を実施している。

平成27年度については、門司植物防疫所細島出張所、関係市町村・JA、農林振興局の協力を得て、4月22日～5月8日に現地ほ場調査及びサンプルの採取を行った。

(1) 調査場所、対象作物、ほ場数等

調査市町村	調査ほ場数			サンプル 採取樹数	検定結果
	うめ	もも	すもも		
宮崎市	2			10	全て陰性
日南市	2			10	全て陰性
都城市	2			10	全て陰性
えびの市	1			5	全て陰性
西都市	1			5	全て陰性
都農町	1			5	全て陰性
美郷町	3			15	全て陰性
延岡市		2		10	全て陰性
高千穂町			1	5	全て陰性
日之影町	1			5	全て陰性
合計	13	2	1	80	

(2) 調査結果

現地調査における目視による当該ウイルスの症状は、すべてのほ場で確認されなかった。また、採取したサンプルの門司植物防疫所における検定の結果は、すべて陰性であった。

6) キウイフルーツかいよう病 Psa3系統の緊急全国調査

平成26年5月愛媛県において、キウイフルーツかいよう病 Psa3系統が国内で初めて確認された。このため、本県においても門司植物防疫所細島出張所、関係市町村・J A、農林振興局の協力を得て、5月15日～26日に現地ほ場調査及びサンプルの採取を行った。サンプル採取は疑似症状のある葉（斑点症状）で、検定は葉から菌泥が漏出するかどうか、漏出した場合分離・形成されたコロニーがキウイフルーツかいよう病 Psa3系統と類似するかどうか、更にコロニーが類似した場合は PCR 検定を行い、陰性か陽性かを3段階で判断した。

(2) 調査結果

市町村	調査 ほ場数	調査面積 (ha)	サンプル 採取樹数	採取葉数	検定結果	備考
綾町	7	0.9	5	9	全て陰性	菌泥不検出陰性：3葉 コロニー陰性：4葉 PCR 陰性：2葉
日南市	3	1.9	1	1	全て陰性	菌泥不検出陰性：1葉
都城市	1	0.3	0	0	—	
小林市	2	0.2	0	0	—	
高原町	1	0.3	0	0	—	
都農町	2	0.6	0	0	—	
合計	16	4.2	6	10		

#### 4 その他の調査、検定等

##### 1) BLASTAMによる葉いもちの発生好適条件の判定と現地の発生状況

発生指標	? : 判定不能	- : 好適条件なし	4 : 準好適条件4	3 : 準好適条件3	2 : 準好適条件2	1 : 準好適条件1	● : 好適条件
------	----------	------------	------------	------------	------------	------------	----------

(早期水稲)

	宮崎	串間	高鍋	西都	青島	日向
5月1日	—	—	—	—	4	4
5月3日	—	—	—	—	1	—
5月4日	—	—	—	4	1	—
5月12日	—	—	—	1	—	—
5月15日	●	—	●	1	1	1
5月16日	—	—	●	●	—	1
5月19日	—	—	—	—	—	4
5月24日	—	—	●	●	●	4
5月29日	—	●	—	—	●	—
5月30日	—	—	—	—	—	—
5月31日	—	—	—	—	●	●
6月10日	—	●	●	●	—	1
6月11日	—	—	—	—	—	—
6月12日	—	—	?	—	—	●
6月13日	—	—	—	—	—	—
6月14日	—	—	—	—	—	●
6月15日	—	—	—	—	—	—
6月16日	—	—	●	—	●	—
6月17日	—	—	—	—	—	4
6月20日	—	—	●	●	—	●
6月21日	—	—	—	—	—	—
6月22日	—	●	—	—	—	—
6月23日	●	●	●	●	●	●
6月24日	—	—	—	●	—	●
6月30日	—	—	—	—	—	—
7月1日	—	—	—	—	—	●
7月2日	—	—	●	●	●	●
7月3日	—	—	—	—	—	—
7月4日	●	—	●	●	●	●
7月5日	—	—	—	—	—	—
7月6日	●	●	●	●	●	●
7月7日	●	—	●	●	●	●
7月8日	●	—	—	●	●	—
7月9日	●	—	●	—	●	●
7月12日	—	—	3	—	—	3
7月14日	—	3	—	—	2	—
7月19日	—	3	—	—	—	—
7月21日	—	—	—	—	2	—
7月23日	—	—	—	—	2	?
7月27日	—	—	—	—	3	—

調査地点の発病株率の推移(7月中旬は発病穂率)

	宮崎	串間	高鍋	西都	青島	日向
5月中旬	0	/	/	0	/	0
6月中旬	50			32		10
6月下旬	58			19		68
7月中旬	0.3			1.1		3.6

発生指標	? : 判定不能	- : 好適条件なし	4 : 準好適条件4	3 : 準好適条件3	2 : 準好適条件2	1 : 準好適条件1	● : 好適条件
------	----------	------------	------------	------------	------------	------------	----------

(普通期水稻)

	高千穂	鞍岡	延岡	神門	加久藤	小林2	宮崎	都城
6月1日	—	—	—	●	—	—	—	—
6月8日	1	1	—	—	—	—	—	—
6月9日	—	—	1	—	—	—	—	—
6月10日	1	1	1	1	1	4	—	—
6月12日	—	—	●	—	—	—	—	—
6月15日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月16日	1	1	●	—	—	—	—	—
6月17日	—	—	—	—	—	●	—	—
6月19日	—	—	—	—	1	—	—	—
6月20日	1	1	●	1	●	1	—	●
6月21日	1	—	—	—	—	—	—	—
6月22日	—	—	—	—	—	4	—	●
6月23日	—	—	●	●	4	4	●	●
6月24日	●	1	●	—	—	—	—	—
6月25日	●	—	●	—	—	—	—	—
6月26日	—	1	—	●	—	—	—	—
6月27日	—	1	—	●	—	—	—	—
6月28日	●	●	●	—	—	—	—	—
6月30日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月1日	—	—	●	—	—	—	—	—
7月2日	—	—	●	●	●	—	—	●
7月3日	●	1	—	—	—	—	—	—
7月4日	●	4	●	●	●	●	●	●
7月5日	1	1	—	—	—	—	—	—
7月6日	1	1	●	●	●	●	●	—
7月7日	—	—	—	1	—	—	●	●
7月8日	—	—	●	—	—	—	●	—
7月9日	—	—	●	—	—	—	●	—
7月12日	—	—	—	—	2	—	—	3
7月13日	—	—	—	●	—	—	—	—
7月14日	—	—	2	●	—	—	—	—
7月15日	●	●	—	—	2	—	—	—
7月18日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月19日	●	—	—	—	—	●	—	2
7月20日	—	●	—	—	—	—	—	2
7月21日	●	●	—	2	●	—	—	—
7月22日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月23日	—	—	●	●	—	—	—	—
7月25日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月26日	—	●	—	—	—	—	—	—
7月27日	●	●	—	—	—	—	—	3
7月28日	●	●	—	—	—	—	—	—

調査地点の発病株率の推移(9月中旬は発病穂率)

	高千穂	五ヶ瀬	延岡	東郷	えびの	小林	国富	都城
6月中旬	0	0	4	0	0	0	—	0
7月中旬	1	0	0	66	0	0	0	0
7月下旬	38	20	4	98	0	0	10	1
8月中旬	39	34	44	90	2	16	40	3
9月中旬	0.9	0.8	0.2	3.2	0	0.3	0	0



## 2) 斑点米カメムシ類の発生状況調査

イタリアンライグラスでの斑点米カメムシ類の発生状況(6月)

※20回振り/1地点

地域名	地点数	ミナミアオカメムシ①			クモヘリカメムシ②			ホソハリカメムシ③		
		成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計
中部	64	0.0	1.3	1.3	4.2	0.0	4.2	1.7	0.3	2.0
南那珂	22	0.1	0.5	0.5	15.0	0.0	15.0	3.5	0.2	3.7
児湯	44	0.0	0.1	0.1	2.6	0.0	2.6	1.9	0.1	2.0
東臼杵	9	0.0	2.7	2.7	1.4	0.0	1.4	1.1	0.1	1.2
全 県	139	0.0	0.9	0.9	5.2	0.0	5.2	2.0	0.2	2.2

地域名	地点数	シラホシカメムシ④			アカスジカスミカメ⑤			4種合計(①+②+③+④)	4種平年値
		成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計		
中部	64	0.2	0.3	0.6	9.3	28.8	38.1	8.0	6.6
南那珂	22	0.2	0.5	0.7	16.9	31.1	48.0	20.0	14.4
児湯	44	0.1	0.3	0.4	9.1	21.1	30.3	5.2	11.3
東臼杵	9	0.9	1.0	1.9	4.1	7.2	11.3	7.2	9.1
全 県	139	0.2	0.4	0.6	10.1	25.3	35.5	9.0	10.0

数値を小数点第2位で四捨五入しているため、合計数値が一致しない場合があります。

3) ヒノキ毬果口針鞘数による果樹カメムシ類離脱予測

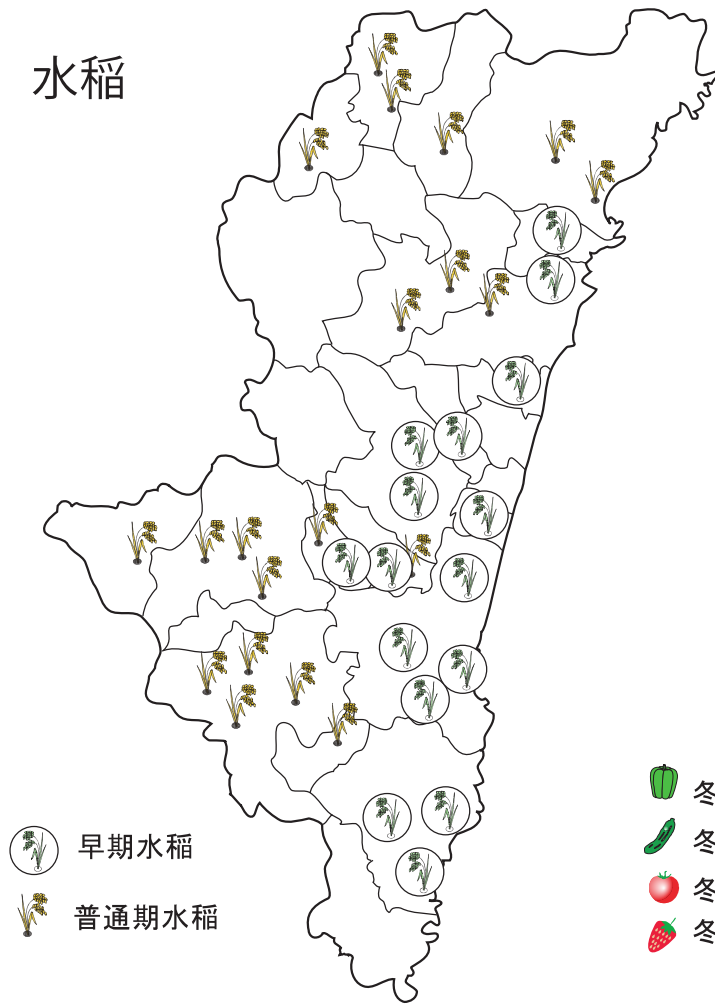
番号	普及センター名	採取場所	採取日	平均口針鞘数	離脱予想日	飛来日	備考
1	中部	高岡町高浜(1)	7月28日	7.2	8月26日	飛来なし	
2	中部	高岡町高浜(2)	7月28日	3.4	9月6日	飛来なし	
3	南那珂	日南市大窪	7月24日	12.1	8月3日	8月30日	
4	南那珂	日南市南郷町榎原	7月24日	3.4	9月2日	8月30日	
5	南那珂	日南市細田	7月24日	3.6	9月1日	8月30日	
6	南那珂	日南市南郷町笹ヶ久保	7月24日	3.6	9月1日	8月30日	
7	西諸	小林市坂下	8月3日	1.4	9月16日	7月下旬	
8	児湯	西都市宝財原	7月28日	3.1	9月6日	7月27日	
9	児湯	都農町立野	7月27日	8.0	8月22日	8月3日	
10	南部	日向市高森山	7月29日	4.8	9月3日	8月27日	
11	北部	延岡市川島	7月31日	9.7	8月20日	5月から断続的	
12	北部	北方町上崎	7月30日	4.1	9月6日	5月から断続的	
13	防除センター	新富町	7月24日	0.7	9月7日	/	
14	防除センター	川南町	7月24日	3.7	9月1日		

### Ⅲ その他


#### 1 病虫害防除員の設置状況

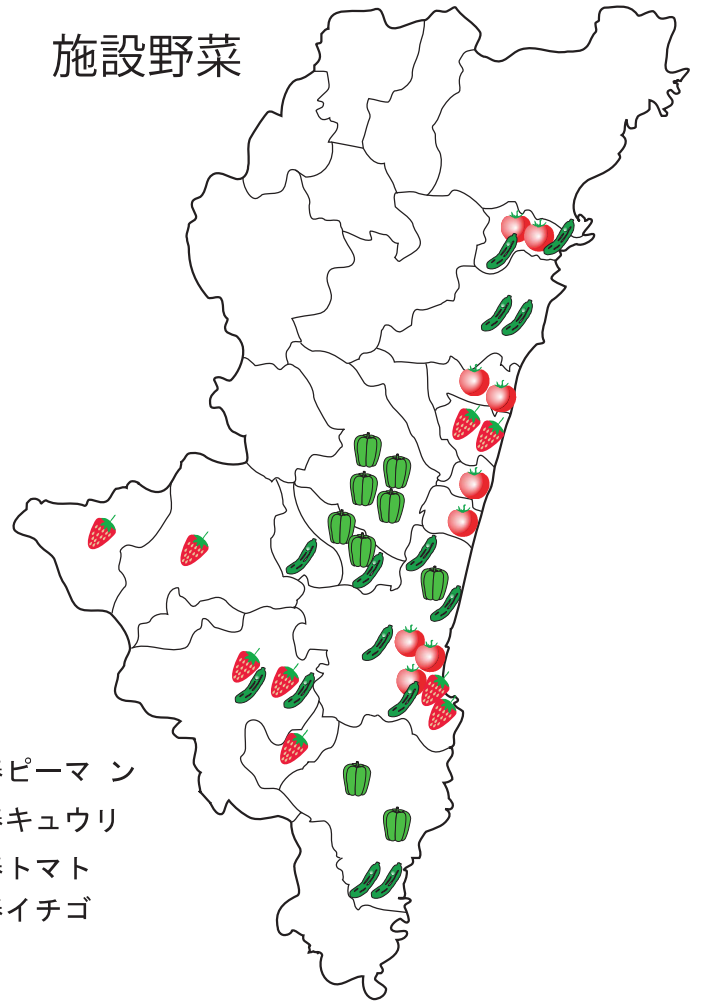
市町村	定数	水稻	果樹	茶	野菜	市町村	定数	水稻	果樹	茶	野菜
宮崎市	7	2	1		4	西米良村	1	1			
国富町	2	1			1	木城町	1				1
綾町	1				1	川南町	1			1	
小計	10	3	1		6	都農町	2		1		1
日南市	4	2	2			小計	10	3	1	1	5
串間市	1				1	延岡市	4	4			
小計	5	2	2		1	日向市	2	2			
都城市	6	5		1		門川町	1		1		
三股町	1	1				美郷町	3	3			
小計	7	6		1		諸塚村	1	1			
小林市	4	3		1		椎葉村	1	1			
えびの市	1				1	小計	12	11	1		
高原町	1	1				高千穂町	2	1		1	
小計	6	4		1	1	日之影町	1	1			
西都市	3	1			2	五ヶ瀬町	1			1	
高鍋町	1	1				小計	4	2		2	
新富町	1				1	合計	54	31	5	5	13

# 水稻







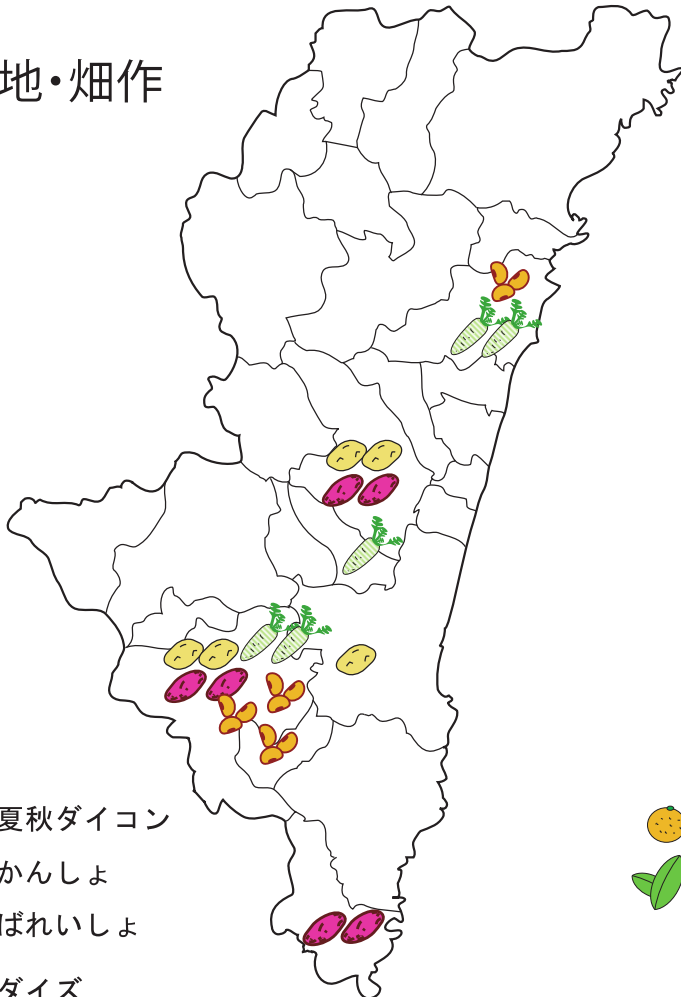
# 施設野菜

-  冬春ピーマン
-  冬春キュウリ
-  冬春トマト
-  冬春イチゴ



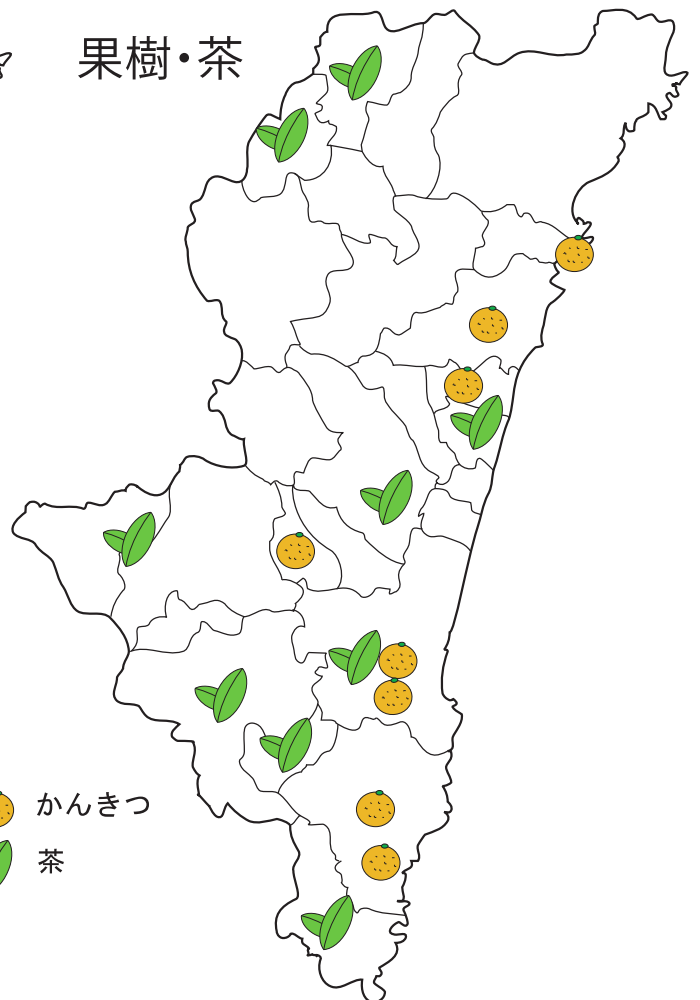
# 露地・畑作

-  夏秋ダイコン
-  かんしょ
-  ばれいしょ
-  ダイズ



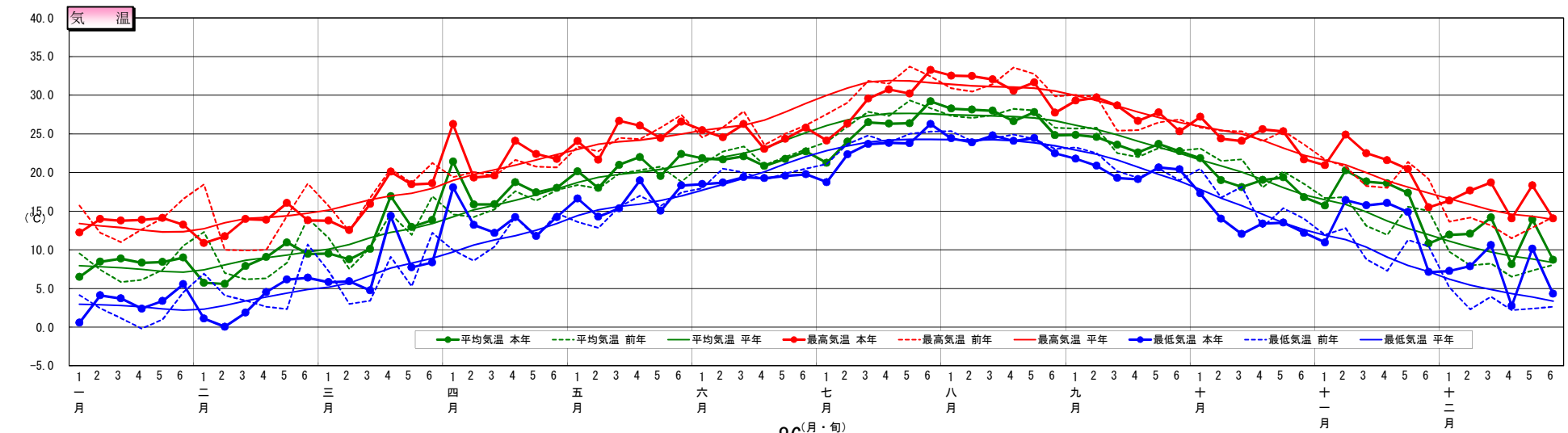
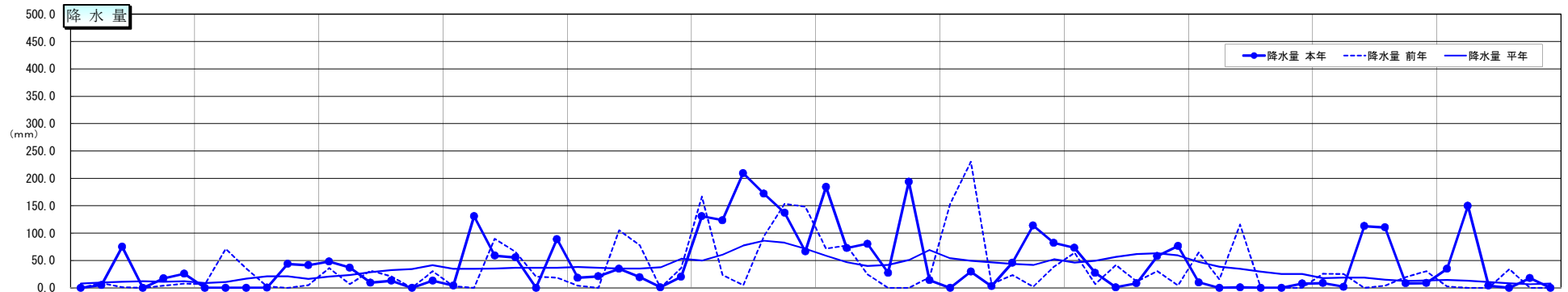
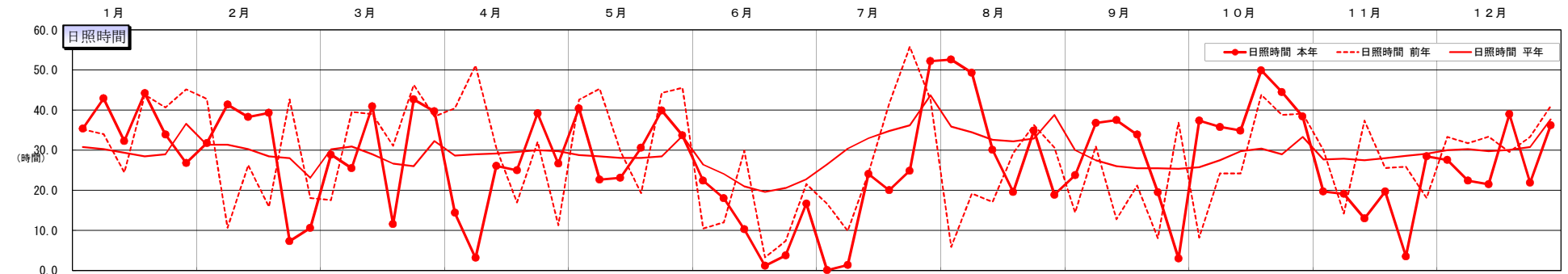
# 果樹・茶

-  かんきつ
-  茶



# 平成27年気象表 (アメダス日時統計データより)

(平年値1981~2010年)



宮崎県総合農業試験場 病虫害防除・肥料検査課  
(宮崎県病虫害防除・肥料検査センター)

880-0212 宮崎県宮崎市佐土原町下那珂 5805 番地

TEL 0985-73-6670

FAX 0985-73-2127

E-mail : [byogaichu-hiryo @ pref.miyazaki.lg.jp](mailto:byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp)